

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養科目 ■人間力	入門ゼミ 全学科 全教員 (○各学科長)	1学期	1	1	1
	心と体の健康学 高西 敏正 他 2年次以上の学生対象	1学期	1	1	2
	職業と人生設計 見舘 好隆 他	2学期	1	1	3
	日本語の表現技術 池田 隆介	1学期/2学期	2	2	4
	哲学と倫理 森本 司	2学期	2	2	5
	ジェンダーと日本語 水本 光美	2学期	2	2	6
	工学倫理 ○辻井 洋行、各学科担当教員	1学期	3	2	7
■人文・社会	技術経営概論 佐藤 明史 他	2学期	3	2	8
	芸術と人間 松久 公嗣	1学期	1	1	9
	経済入門 中岡 深雪	1学期	1	2	10
	アジア地域入門 中岡 深雪	2学期	1	2	11
	文学を読む 荻原 桂子	2学期	1	1	12
	法律入門 櫻井 弘晃	2学期	1	2	13
	文明社会 服部 研二	1学期	2	2	14
	経営入門 辻井 洋行	1学期	2	2	15

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養科目 ■人文・社会	アジア経済 中岡 深雪	1学期	2	2	16
	心理学入門 永江 誠司	1学期	2	2	
	国際関係 千知岩 正継	2学期	2	2	18
	比較文化論 クレシーニ アン	2学期	2	2	
	知的所有権 木村 友久	2学期	3	2	20
	企業研究 辻井 洋行	2学期	3	2	
	地球環境概論 伊藤 洋 他	1学期	2	2	22
リサイクルシステム論 大矢 仁史 他	2学期	2	2	23	
環境計測入門 山本 郁夫 他	1学期	2	2		24
環境問題特別講義 二渡 了 他	1学期	1	1	25	
生物学 原口 昭	1学期	1	2		26
環境問題事例研究 ○森本 司、二渡 了、各学科教員	2学期	1	2	27	
生態学 原口 昭	2学期	1	2		28
環境マネジメント概論 松本 亨 他	2学期	2	2	29	
環境と経済 加藤 尊秋	2学期	2	2		30

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養科目 ■環境	環境都市論 松本 亨	1学期	3	1	31
■外国語科目	英語コミュニケーションI プライア ロジャー 2年以上の学生対象	1学期	1	1	32
	TOEFL/TOEIC演習 長 加奈子 他	1学期/2学期	1	1	33
	英語コミュニケーションII プライア ロジャー 2年以上の学生対象	2学期	1	1	34
	英語コミュニケーションIV クレシーニ アン 他	2学期	2	1	35
	英語リテラシーI 長 加奈子 他	1学期	2	1	36
	英語リテラシーII 長 加奈子 他	2学期	2	1	37
	英語コミュニケーションIII クレシーニ アン 他	1学期	2	1	38
	ビジネス英語 クレシーニ アン	1学期	3	1	39
科学技術英語 上村 隆一	1学期/2学期	3	1	40	
英語表現法 柏木 哲也 他	1学期	3	1	41	
英語リテラシーIII 柏木 哲也 他	2学期	3	1	42	
■工学基礎科目	一般化学 秋葉 勇 他	1学期	1	2	43
	微分・積分 山本 勝俊 他	1学期	1	2	44
	化学実験基礎 浅岡 佐知夫 他 開講学期に注意	2学期	1	2	45

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
	備考					
■基盤教育科目 ■工学基礎科目	微分方程式 楠田 哲也 他	2学期	1	2	46	
	化学熱力学 上江洲 一也 他	2学期	1	2	47	
	基礎有機化学 秋葉 勇	2学期	1	2	48	
	基礎無機化学 鈴木 拓	2学期	1	2	49	
	環境と科学 門上 希和夫 他	2学期	1	2	50	
	物理実験基礎 松永 良一 他	1学期	1	2	51	
	電気工学基礎 水井 雅彦	1学期	1	2	52	
	力学基礎 山本 郁夫	2学期	1	2	53	
	確率論 高島 康裕	2学期	1	2	54	
	認知心理学 中溝 幸夫	2学期	2	2	55	
	基礎生物化学 中澤 浩二	2学期	1	2	56	
	基礎化学工学 上江洲 一也	1学期	2	2	57	
	環境統計学 安井 英斉 他	1学期	2	2	58	
	■専門教育科目 ■専門科目	化学平衡と反応速度 朝見 賢二	1学期	2	2	59
		有機化学Ⅰ 李 丞祐	1学期	2	2	60

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■専門科目	無機化学 黎 暁紅	1学期	2	2	61
	物理化学実験 黎 暁紅 他	1学期	2	4	62
	化学工学 山本 勝俊	2学期	2	2	63
	分析化学 吉塚 和治	2学期	2	2	64
	大気浄化工学 高倉 弘二 開講学期に注意	1学期	2	2	65
	有機化学実験 秋葉 勇 他	2学期	2	4	66
	反応工学 朝見 賢二	1学期	3	2	67
	分離工学 西浜 章平	1学期	3	2	68
	構造化学 黎 暁紅	1学期	3	2	69
	機器分析 鈴木 拓	1学期	3	2	70
	水質工学 楠田 哲也	1学期	3	2	71
	先端材料工学 山本 勝俊 他	1学期	3	2	72
	環境分析化学 門上 希和夫	1学期	3	2	73
	化学演習 大矢 仁史 他	1学期	3	1	74
	環境分析実習 吉塚 和治 他	1学期	3	4	75

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■専門科目	電気化学 吉塚 和治	2学期	3	2	76
	エネルギー化学プロセス 浅岡 佐知夫	2学期	3	2	77
	触媒工学 朝見 賢二	2学期	3	2	78
	エネルギー資源化学 浅岡 佐知夫	2学期	3	2	79
	地圏環境論 伊藤 洋	2学期	3	2	80
	水処理工学 石川 精一	2学期	3	2	81
	高分子化学 秋葉 勇	2学期	3	2	82
	エネルギー循環化学演習 浅岡 佐知夫 他	2学期	3	1	83
	エネルギー循環化学実習 朝見 賢二 他	2学期	3	4	84
	化学産業技術論 飯田 汎	1学期	4	2	85
	資源循環工学 安井 英斉 他	1学期	4	2	86
	数値計算法 清田 高德	1学期	3	2	87
	環境保全学 竹内 真一 他	1学期	4	2	88
	生物化学 河野 智謙	1学期	2	2	89
	統計熱力学 櫻井 和朗	2学期	2	2	90

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
■専門教育科目 ■専門科目	分子生物学 平野 雄	2学期	2	2	91	
	有機化学 II 櫻井 和朗	2学期	2	2	92	
	環境政策概論 乙間 末廣	2学期	2	2	93	
	微生物学 森田 洋	1学期	3	2	94	
	環境シミュレーション 野上 敦嗣 他	1学期	3	2	95	
	環境リスク学 二渡 了 他	1学期	3	2	96	
	錯体化学 磯田 隆聡	1学期	3	2	97	
	遺伝子工学 平野 雄	2学期	3	2	98	
	生態工学 上田 直子	2学期	3	2	99	
	環境計画学 松本 亨	2学期	3	2	100	
	環境経営学 二渡 了	2学期	3	2	101	
	生物工学 中澤 浩二	2学期	3	2	102	
	食品工学 森田 洋	2学期	3	2	103	
	バイオインフォマティクス 上江洲 一也 他	1学期	4	2	104	
	■卒業研究	卒業研究 I エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)	1学期	4	4	105

国際環境工学部 エネルギー循環化学科 (2010年度入学生)

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■卒業研究	卒業研究Ⅱ エネルギー循環化学科全教員(○学科長)	2学期	4	4	106
	卒業研究(基盤) 森本 司 他 単位数は各学科の卒業研究にならう	通年	4	8	107
■留学生特別科目 ■基盤・教養科目(人間力)読替	日本事情 水本 光美	1学期	1	1	108
	総合日本語基礎 未定	1学期	1	3	
■基盤・外国語科目読替	総合日本語A 池田 隆介	1学期	1	2	109
	総合日本語B 池田 隆介	2学期	1	2	110
■基盤・外国語科目読替	技術日本語基礎 水本 光美	1学期	2	1	111
	ビジネス日本語 水本 光美 履修学年、履修学期に注意	1学期/2学期	3	1	112
■補習	数学(補習) 荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代	1学期	1	0	113
	物理(補習) 平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成	1学期	1	0	114
	化学(補習) 二宮 純子	1学期	1	0	115

入門ゼミ

(Guide Seminar)

担当者名 /Instructor 全学科 全教員 (○各学科長)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

大学生にとってコミュニケーション能力は、専門的な知識を修得する以前に身に付けておくべき、基礎的な能力である。この入門ゼミでは、グループワークなどを通して、他者の意見を聞き、その人の言いたいことを理解した上で、自分の意見を伝えることができる力（「理解する力」「話す力」）、そして情報を収集して、レポート、報告書を作成する力（「調べる力」、「書く力」）を養成することを目的とする。また、学生が受動的ではなく能動的にグループワーク・情報収集等に取り組むことによって、問題解決能力を高め、自ら学ぶ力を養成することを目的とする。

教科書 /Textbooks

担当教員の指示したもの

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員の指示したもの

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) 15週のうち、最初の1週は新入生全員を対象にガイダンスを実施する。
- (2) 2週目以降は、原則としてゼミ単位での活動とする。詳細については、担当教員の指示に従うこと。

成績評価の方法 /Assessment Method

出席並びに授業中の取り組み態度を重視する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の授業に対する課題において、自らの意見や考え方を整理して、積極的に発言すること。

履修上の注意 /Remarks

入学時のガイダンスで配布されるテーマ一覧を参考に、希望するゼミを検討しておくこと。また、希望者は他の学科が提供するゼミに参加することもできる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生になった皆さんは、既に大人社会の仲間入りをしています。大人社会では、あらゆる事象において受身の体勢では、うまくいかない事が増えてきます。積極的にコミュニケーションを図る、貪欲に情報を収集する、自分の意見をしっかり持ち、常に問題意識を持つ、相手の立場を理解し協調性を養うことが重要となります。そのような魅力ある学生になれるよう頑張ってください。

キーワード /Keywords

心と体の健康学

(Psychological and Physical Health)

担当者名 高西 敏正 / 人間関係学科, 乙木 幸道 / Kodo OTOKI / 非常勤講師
/Instructor 内田 満 / Mitsuru UCHIDA / 非常勤講師

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice このシラバスの内容は2年次以上で受講を希望する学生用です。1年次生で受講を希望する学生は、1年次生用のシラバスを確認してください。

授業の概要 /Course Description

将来にわたって心と体の健康を自ら維持・向上させていくための理論や方法を体系的に学ぶことが、この科目の目的である。
生涯続けられるスポーツスキルを身につけ、心理的な状態を自ら管理する方法を知ること、こころやからだのバランスを崩しがちな日々の生活を自分でマネジメントできるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回ガイダンス
- 2 回コミュニケーションゲーム①
- 3 回コミュニケーションゲーム②
- 4 回ボディマネジメント① (身体的健康と精神的健康)
- 5 回ボディマネジメント② (体力の概念)
- 6 回ボディマネジメント③ (身体組成)
- 7 回メンタルマネジメント① (基礎)
- 8 回メンタルマネジメント② (目標設定①)
- 9 回メンタルマネジメント③ (目標設定②)
- 10 回メンタルマネジメント④ (目標設定③)
- 11 回エクササイズ①
- 12 回エクササイズ②
- 13 回エクササイズ③
- 14 回エクササイズ④
- 15 回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み態度 60% レポート 20% 試験 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

- [コミュニケーションゲーム] [エクササイズ] は身体活動を伴うので、運動できる服装ならびに靴を準備すること。
- [ボディマネジメント] は教室での講義である
- [メンタルマネジメント] はワークを中心とした授業を行いますので筆記用具を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極的な参加を重視します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目を通して、「やりたいこと」「やるべきこと」「できること」を整理し、いかに目標を明確にするかを学び、自分自身の生活にも役立てほしい。さらに、身体活動の実践を通して、スキル獲得のみならず仲間作りやノンバーバルコミュニケーション能力獲得にも役立ててほしい。

キーワード /Keywords

職業と人生設計

(Career and Life Planning)

担当者名 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所, 未定
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

将来の進路に対する不安や迷いを解消するために、また有意義な大学生活を営むために、

- ① 様々な業界や企業、そして働き方など社会について知る
- ② 将来の進路に向けた学生生活の過ごし方を知る
- ③ 初対面の学生とのコミュニケーションに慣れる
- ④ 社会人としての基本的な態度を身につける
- ⑤ 自分について知る

以上5点を獲得目標とし、グループワーク、個人ワーク、講義、先輩や社会人のゲストとのディスカッションなどを組み合わせて授業を進めていきます。最終授業では、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのかをプランしていただきます。

皆さんと一緒に、無限の可能性を秘めた自分の将来について、じっくり考える時間になりたいと思います。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。
以下書籍はその参考例です。

- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 大久保幸夫『キャリアデザイン入門 1 基礎力編』日本経済新聞社
- 渡辺三枝子『新版キャリアの心理学』ナカニシヤ出版
- モーガン・マッコール『ハイレイヤー 次世代リーダーの育成法』プレジデント社
- エドガー・H.シャイン『キャリア・アンカー 自分のほんとうの価値を発見しよう』白桃書房
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス (授業の目的やルール、キャリアの基本知識)
- 2回 学生生活とキャリア (社会で働く上で必要となる力、大学時代の過ごし方)
- 3回 進路について (就職活動・大学院進学など)
- 4回 自分を知る① (働く価値観や仕事へのこだわり)
- 5回 自分を知る② (一皮むける経験、経験学習)
- 6回 自分を知る③ (自分の対人特性、自分の強みを伸ばす、自分の弱みを受け入れる)
- 7回 仕事をすること (仕事を考える視点、仕事のやりがい) ※社会人ゲストを予定
- 8回 キャリアとお金 (雇用形態と賃金、生活費シミュレーション)
- 9回 大学生活を面白くする方法 (計画された偶発性・セレンディピティ)
- 10回 地域活動とインターンシップ (地域活動やインターンシップ経験した先輩とのディスカッション)
- 11回 業界&企業研究 (業界のしくみ、業界研究および企業研究の方法)
- 12回 就職活動を知る (就職活動を体験した先輩とのディスカッション)
- 13回 大学院進学を知る (大学院へ進学した先輩とのディスカッション)
- 14回 学生生活を考える (自分を振り返り、将来の目標のためにどんな学生生活を過ごすのか)
- 15回 まとめ (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業で課されるレポート...80% 最終回のレポート...20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

職業と人生設計

(Career and Life Planning)

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

※第一回目の授業は全員合同で行いますが、その後5つのクラスに分かれて行う予定です。第一回目に出席できなかった学生は自分のクラスを事前に確認してください。

※特別な準備はありませんが、自分の将来に対して真剣に向き合う姿勢、そして自分を成長させたい意欲が求められます。

履修上の注意 /Remarks

社会人としてのマナーを身につけてもらうこともこの講義の目的の一つです。したがって以下の10項目を守っていただきます。

遅刻厳禁 / 携帯操作厳禁 (マナーモードでバッグの中に) / 脱帽 / 飲食禁止 / 作業時間は守る / グループワーク以外の私語厳禁 / グループワークでは積極的に発言する / 周りのメンバーの意見にしっかり耳を傾ける / 分からないことは聞く / 授業に「出る」ではなく「参加する」という意識で臨む

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グループワークのメンバーは毎回シャッフルされます。毎週、初対面の学生と話せて学内の知り合いが増えます。本授業を通してさらに大学生活を充実したものしたい、という意思を持ってご参加ください。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、大学生活、アイデンティティ、コミュニケーション、社会人マナー

日本語の表現技術

(Writing Skills for Formal Japanese)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

この授業は、日本語における論理的な文章構成の習得、および、論述文の表現技術の向上を目的とする。とりわけ、フォーマルな場面で用いられる実用文書で使われる日本語の表現技術を身につけておくことは、教養ある社会人には必須の要素である。この授業においては、(1)「長い文章を書く」ことへの抵抗感を低減させること、(2)書き言葉として適切な表現・文体を選択すること、(3)自作の文章の論理性・一貫性を客観的に判断すること、以上の3つの軸に受講生参加型の講義を展開していく。

教科書 /Textbooks

必須教材は授業中に指示、あるいは、教員が適宜準備する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の進行に合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 環境工学研究者に必要な文章表現能力とは
2. 言語とコミュニケーション
3. アカデミックな読み書きとは? / 再現性と合理性
4. 批判的に新聞を読む
5. 文体 話し言葉と書き言葉
6. テーマを絞る
7. 段落の概念(1)
8. 段落の概念(2)
9. アイディアを搾り出す / ノンストップライティング
10. 目標規定文を書く
 11. 事実と意見
 12. 出典を記す
 13. 待遇表現
 14. プロジェクトワーク発表(1)
 15. プロジェクトワーク発表(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加10%
コメント10%
宿題10%
小テスト10%
授業内課題10%
期末課題40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portal (<http://moodle.env.kitakyu-u.ac.jp/>) で連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。

履修上の注意 /Remarks

- ※1: 出席率80%未満の受講生は不合格とする。
- ※2: 留学生は「技術日本語基礎」に合格していることを履修条件とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業、進学、就職等、学生生活が終盤に近づくにつれ、フォーマルな表現を駆使しなければならない機会は多くなる。適切な表現をTPOに応じて繰り出すことができるよう、この授業を絶好の修練の場にしてほしい。

キーワード /Keywords

日本語、表現技術、実用文、書き言葉、受講生参加型講義

哲学と倫理

(Philosophy and Ethics)

担当者名 森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

日常的な表現で日頃自覚することのない基礎的な言葉や表現（「問う」とはどういうことか、「理解する」とはどういうことか）の意味を意識しつつ、議論できる状況を自覚し、議論内容を組み立てる基礎的作業を提供します。自分が何をどのように話しているのかを、論理的と同時に感性的に自覚できる「身体感覚の論理」とその論理にもとづく倫理的な考え方（功利主義的倫理観）を実践的に（教員がサンプルとなって）講義します。考え方と同時にメモやノートのとり方も学習してください。

教科書 /Textbooks

ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に提示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 履修説明（目的・形式・評価）、講義概要、講義入門（問題解決の考え方）
- 「問うことと理解すること」（「問う」とは：その1）
- 「問うことと理解すること」（「問う」とは：その2）
- 「問うことと理解すること」（「理解する」とは：その1）
- 「問うことと理解すること」（「理解する」とは：その2）
- 「問うことと理解すること」（まとめと考察）
- 「問うことと理解すること」を考える映像資料（その1：問題提起）
- 「問うことと理解すること」を考える映像資料（その2：問題発見）
- 「問うことと理解すること」を考える映像資料（その3：考察）
- 「私について」考えること（その1）
- 「私について」考えること（その2）
- 「私について」まとめ、「当たり前」という考え方（その1）
- 「当たり前」という考え方（その2）
- 日常感覚としての「倫理」（「倫理」とは）
- 日常感覚としての「倫理」（功利主義的倫理観と問題点）

成績評価の方法 /Assessment Method

論述試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の内容は1回限りの話ではなく、連続していますから、前回の内容を復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

板書や提示された資料だけでなく、講義で話された内容もメモを取るようになって下さい。
自分専用のノートを作成するようにしてください。
出席は、試験を受ける資格です。
ただ出席しているだけでは合格できるとは限りません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

メモのとり方、ノートのとり方を工夫してください。考える作業と書く作業を連動させてください。
自分なりのメモのとり方を身につければ、社会人になってからそれが自分自身を助けてくれますよ。

キーワード /Keywords

問うこと、理解、部分と全体、功利主義と人格

ジェンダーと日本語

(Gender and the Japanese Language)

担当者名 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

「ジェンダー」とは、人間が持って生まれた性別ではなく、社会や文化が培ってきた「社会的・文化的な性のありよう」です。この講義では、ジェンダーに関する基礎知識を身につけるとともに、生活言語、メディア言語などが持つ様々なジェンダー表現を観察、検証することにより、日本社会や日本文化をジェンダーの視点から考察します。

教科書 /Textbooks

『ジェンダーで学ぶ言語学』 中村桃子編、世界思想社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①オリエンテーション ②ジェンダーとは
- 男らしさ、女らしさ、とは。ジェンダーからことばを見る
- 作られる「ことば」女ことば
- 作られる「ことば」男ことば
- メディアが作るジェンダー：マンガ1
- メディアが作るジェンダー：マンガ2
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ1
- メディアが作るジェンダー：テレビドラマ2
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン1
- 変革する「ことば」：差別表現とガイドライン2
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント1
- 変革する「ことば」：セクシュアル・ハラスメント2
- 私のまわりのジェンダーについて考える
- 期末プレゼンテーションの準備
- 期末プレゼンテーション

* 授業スケジュールは、状況に応じて、適宜、変更される場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
宿題・小テスト 30%
事前調査・ディスカッション 20%
プレゼンテーション 30%
* 出席率80%未満は、不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

日本人と留学生の混合小規模クラス。受講生3名以上で開講。
異文化間でのディスカッションも実施するため、授業で積極的に発言する意志のある学生の履修を希望。

履修上の注意 /Remarks

留学生は「技術日本語基礎」が日本語能力試験1級に合格していること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちの生活は、数多くのジェンダー表現に囲まれています。それらは、どのような価値観、社会慣習などによるものが分析することによって、無意識に自己の中に形成されている男性観・女性観・差別意識について一緒に考えてみませんか。単に講義を聴くという受身的姿勢から脱して自発的に発言し、事例収集などにも積極的に取り組む態度を期待します。

キーワード /Keywords

ジェンダーイデオロギー、ジェンダー表現、性差別語、性差別表現、ジェンダーをつくることば

工学倫理

(Engineering Ethics)

担当者名 /Instructor ○辻井 洋行、各学科担当教員

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

現代社会における製品・サービスの生産・供給は、高度化・複雑化した技術を基盤として成り立っています。技術者は、多様なステイクホルダーの持つ価値観の間で、ジレンマに苛まれながら難しい意思決定を迫られることが少なくありません。本講義では、技術者として様々なリスクに、どのように対処していけばよいのか、自ら考え判断する素養を身につけることを目指します。

教科書 /Textbooks

野城・札野・板倉・大場(2006)：実践のための技術倫理、東京大学出版会

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

金原ほか(2007)：エンジニアのための哲学・倫理、実教出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、技術倫理とは？ (チーム作業の課題提示)
- 2 技術倫理事例の検討(1) (チーム編成と課題決定)
- 3 技術倫理事例の検討(2) (情報収集法)
- 4 価値と倫理 (ポスターのまとめ方)
- 5 組織としての技術倫理
- 6 倫理的意決定の方法(1) (ポスター作成打合せ)
- 7 倫理的意決定の方法(2) (ポスター作成打合せ)
- 8 演習・ポスター作成 (チーム作業)
- 9 演習・ポスター作成 (チーム作業)
- 10 演習・ポスター作成
- 11 ポスター発表会
- 12 口頭発表会
- 13 各学科講義 (1)
- 14 各学科講義 (2)
- 15 各学科講義 (3)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的関与 (小レポート含む) : 20%
チーム事例研究レポート : 50%
学科講義レポート : 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の該当箇所を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・レクチャとチーム演習、発表を組み合わせた内容となります。講義後半は、学科教員によるレクチャとなります。
- ・チームレポート作成作業への貢献度も成績に反映されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

技術倫理は、座学と活術との組合せを通じて身に付くものである。チーム作業を通じて、実際に自分で考え、議論することが、重要になる。また、各専門分野で直面する倫理課題やそれへの対処方法について学び、エンジニアとしての素養を高めよう。

キーワード /Keywords

技術経営概論

(Introduction to Technology Management)

担当者名 /Instructor 佐藤 明史 / Meiji SATO / 非常勤講師, 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境問題が惹起した環境経営の重要性とベンチャー企業の必要性を述べ、イノベーションの創出とそれに続く、ベンチャー、企業における新規事業、自治体における新規企画とその実現へ挑戦する基盤を育成する。授業の前半は、技術経営や環境経営の実践方法を講義で学習し、チーム演習で興味ある分野の過去10年間の技術ロードマップを調査作成し発表することにより「洞察力」を育成する。後半では、技術経営、環境経営、ベンチャーの事例を学習し、チーム演習でフィールドワークとベンチャービジネスモデル検討による提案発表を行うことにより「構築力」を育成する。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 環境経営の実践マニュアル、山路敬三、国連大学ゼロエミッションフォーラム
- ・ 起業のマネジメント、小林忠嗣著、PHP出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義概要と技術ロードマップ作成の手引き
- 2 ベンチャー企業論、技術経営 (MOT)と環境経営
- 3 技術ロードマップテーマとチームの決定
- 4 技術ロードマップ作成1 (背景・課題の整理と情報収集)
- 5 技術ロードマップ作成2 (発表シナリオ、発表スライドの作成)
- 6 技術ロードマップのプレ発表
- 7 技術ロードマップの本発表
- 8 事例に学ぶ - ベンチャー人材に必要な能力
- 9 事例に学ぶ - 環境ベンチャー事例
- 10 事例に学ぶ - マテリアルからの事業化事例
- 11 ビジネスモデルの作り方とベンチャー提案作成
- 12 ビジネスモデルのレベルアップとベンチャー提案発表準備
- 13 ベンチャー提案プレ発表
- 14 ベンチャー提案本発表
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

技術ロードマップ発表 30%
ベンチャー提案発表 60%
学習態度 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

自分の好きなことを考えるときは楽しい。好きなことをビジネスにする演習授業なので授業外の活動も必要になるが能動的に夢を持って取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

自由討論やビジネス演習など授業への自主的かつ積極的な参加が理解の基本である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学外活動も奨励しています。自分も出来るぞと思える舞台が必ずあります。講義外の学習時間も多くなりますが、楽しめると思います。常に学生諸君の建設的な提案を待っています。

キーワード /Keywords

芸術と人間

(Introduction to Art)

担当者名 /Instructor 松久 公嗣 / Koji MATSUHISA / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

感性や個性という個人の生き方に深く関わる芸術領域が、日本や国際社会においてどのように捉えられてきたかを概観する。古代からの歴史を縦軸に、西洋と東洋・日本という地域を横軸に、実践的かつ立体的に講義を進め、芸術の諸問題について分析する。また、発想法や芸術運動の要素を取り入れた課題を設定し、芸術の理念を体感することで知識の裏付けとしたい。その結果、芸術に対する観念的な視点を変革し、独自の視点から芸術を論じたり、企業や社会への活用法を見いだしたりすることのできる態度を育成するものである。

教科書 /Textbooks

特定の教科書は使用しない。必要と思われる資料の配布または参考文献の紹介をおこなう。但し授業内容を深めたいと思う学生は、掲示した参考書の購入を薦める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『増補新装 西洋美術史』, 高階秀爾, 美術出版社
『増補新装 日本美術史』, 辻 惟雄, 美術出版社
その他, 適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 19～20世紀の芸術① (写実主義, 印象派)
3. 19～20世紀の芸術② (フビスム, アール・ヌーヴォー)
4. 19～20世紀の芸術③ (キビスム, シュルレアリスム)
5. 20～21世紀の芸術① (シュルレアリスム, 抽象絵画)
6. 20～21世紀の芸術② (抽象絵画, 現代美術), 芸術と生活
7. 西洋の芸術① (ギリシア・ローマ) (ロマネスク, ゴシック)
8. 西洋の芸術② (ロマネスク, ゴシック) (ルネサンス)
9. 西洋の芸術③ (ルネサンス)
10. 西洋の芸術④ (バロック, ロココ)
11. 芸術と人間
12. 芸術鑑賞①
13. 芸術鑑賞②
14. 芸術鑑賞③
15. まとめ

※今年度は7月1日迄に15回分の内容を終え、評価をおこなう。その為、芸術鑑賞①～③及びまとめは集中講義として7月1日迄の土曜日または日曜日に、1日間の学外演習とする場合がある

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート評価 60%
課題提出状況・内容 20%
授業への参加意欲 20%
※レポート課題は未提出のものがあれば不可とする。詳細はガイダンスで解説する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

筆記具は必携。幾つかの課題に対し、用具が必要となる場合がある。(適宜指示する)
芸術鑑賞①～③及びまとめを学外演習にておこなう場合は、美術館までの交通費及び入館料が必要となる。

履修上の注意 /Remarks

原則として規定回数以上の欠席および遅刻は不可とする。
学外演習をおこなう場合は、授業時間に相当する回数分の出席として扱うため、欠席しないように注意すること。(学外演習については、授業内に事前通知する。)
展覧会の状況にもよるが、学外演習の他に、指示した展覧会を鑑賞してレポート作成を課す場合がある。

芸術と人間

(Introduction to Art)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般教養としての学習から、キャリアデザインに活用するための理解に至るまでには、予習と復習による個人差が生じる。授業内で紹介する文献等を参考に予習・復習することを願う。

キーワード /Keywords

美術， 絵画， 彫刻， 建築， デザイン， 鑑賞

経済入門

(Introduction to Economics)

担当者名 /Instructor 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

現在、不況であることは知っている、何がどうなって不況になってしまったのか、これからどうなるのか、明快な答えは出ない一方で関心は尽きないことであろう。こういった現実に行きつめている問題と経済学はどのように関係しているのか？本講義では、経済問題について解釈を行う経済学の基礎的な理論を学び、経済学的発想で考える訓練をする。そして各国経済事情や話題になっているトピックから経済全般への理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三橋規宏・内田茂男・池田吉紀著『ゼミナール日本経済入門 改訂版』日本経済新聞出版社、最新版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「経済」に対する関心
- 2 経済成長とは？
- 3 ものの値段はどのようにして決まるのか？
- 4 「市場経済」は万能か？
- 5 金融システムの役割と問題
- 6 2008年の世界的金融危機
- 7 小括と確認
- 8 日本経済の軌跡(高度経済成長期)
- 9 日本経済の軌跡(バブル崩壊から失われた10年)
- 10 アメリカ経済と世界経済
- 11 EUのこれまで
- 12 東アジアの発展
- 13 時事問題(世界経済情勢)
- 14 時事問題(身近なところの経済)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%
 小テスト 30%
 授業での発言と平常点 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

普段より経済に関する新聞記事やニュースに関心を払ってほしい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の勉強を通じて世の中に対する関心を高め、社会に出た時にもおしえず、自分の意見を発言できるようになりましょう。またニュースや記事などから経済事情を読み解き、判断することは理系出身の学生にも求められることです。授業で扱うテーマ以外にも経済に関することなら質問を歓迎します。一緒に経済を勉強していきましょう、世界が広がるはずです。

キーワード /Keywords

経済 GDP 価格 金融 日本経済

アジア地域入門

(Globalization and East Asia)

担当者名 /Instructor 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

アジア各国の社会情勢、政治体制、経済状況について学ぶ。アジアの国々はそれぞれが歩んできた歴史や文化が異なり、政治や経済においても各々の特徴がある。日本と地理的に近い東アジアと東南アジアの国を取り上げる。授業では各国の状況を説明するが、講義を聞いているだけでなく、どの国でもよいので関心を持ち、一つの論点について考察してほしい。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中、適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○片山裕・大西裕編『アジアの政治経済・入門』有斐閣ブックス、2006年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN
- 2 アジヤ地域の多様性
- 3 韓国について
- 4 中国について
- 5 台湾について
- 6 香港について
- 7 シンガポールについて
- 8 小括と確認
- 9 マレーシアについて
- 10 インドネシアについて
- 11 タイについて
- 12 フィリピンについて
- 13 ベトナムについて
- 14 時事問題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40%
 期末試験 50%
 授業中の発言 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

取り上げている国の立地や基本条件等を事前に調べておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

それぞれの国について詳しく説明します。これをきっかけに名前を聞いたことしかなかった国についても興味を持って、理解を深めて下さい。将来国際的に活躍する人材になるためまずは近隣諸国のことを知りましょう。

キーワード /Keywords

アジア 東アジア 東南アジア

文学を読む

(Modern Literature)

担当者名 荻原 桂子 / Keiko OGIHARA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

文学作品に親しみ、読書力をつける。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。

教科書 /Textbooks

『文学を読む』花書院、2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

樋口一葉『たけくらべ』
泉鏡花『高野聖』
島崎藤村『破戒』
夏目漱石『こころ』
森鷗外『高瀬舟』
芥川龍之介『奉教人の死』
宮沢賢治『よだかの星』
谷崎潤一郎『春琴抄』
川端康成『雪国』
太宰治『人間失格』
三島由紀夫『仮面の告白』
遠藤周作『海と毒薬』

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 文学の読み方
- 2 樋口一葉『たけくらべ』
- 3 泉鏡花『高野聖』
- 4 島崎藤村『破戒』
- 5 夏目漱石『こころ』
- 6 森鷗外『高瀬舟』
- 7 芥川龍之介『奉教人の死』
- 8 宮沢賢治『よだかの星』
- 9 谷崎潤一郎『春琴抄』
- 10 川端康成『雪国』
- 11 太宰治『人間失格』
- 12 三島由紀夫『仮面の告白』
- 13 遠藤周作『海と毒薬』
- 14 現代文学について
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 80%
積極的な授業参加 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書は作品の抜粋なので、時間のあるときに全文を各自で読んで欲しい。

履修上の注意 /Remarks

文学を読むことに慣れるために、教科書を中心に文学作品を輪読する。

文学を読む

(Modern Literature)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

読書をする事は、自分を見つめることである。さまざまな読書体験をとおして未来の自分に出会って欲しい。大学4年間で、少なくとも100冊は本を読もう(ジャンルは問わない)。

キーワード /Keywords

文学 読書 文章表現

法律入門

(Introduction to Law)

担当者名 /Instructor 櫻井 弘晃 / Hiroaki SAKURAI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

この講義では、高度化・複雑化した現代社会において、法が様々な問題の解決のためにどのような役割を果たすのかを具体的な事例を交えながら考え、理解を深めることを目的とする。

教科書 /Textbooks

オリジナルプリント

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ポケット六法・2011年版、有斐閣 | 畑博行編(2000)・現代法学入門、有信堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入 法とはなにか
- 2 裁判制度のしくみ
- 3 犯罪と刑罰(1)
- 4 犯罪と刑罰(2)
- 5 雇用と法
- 6 婚姻と離婚(1)
- 7 婚姻と離婚(2)
- 8 親子
- 9 扶養と相続
- 10 取引能力と意思表示
- 11 不動産と動産
- 12 契約(1)
- 13 契約(2)
- 14 事故と損害賠償
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%
練習問題 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回の授業内容を復習した上で、受講してください。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

法律の勉強方法は暗記ではなく、制度に対して興味をもち、理解することです。

キーワード /Keywords

文明社会

(Civilization and Society)

担当者名 服部 研二 / Kenji HATTORI / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

この授業は、人類が、自然環境の中で、どのように文明を発展させてきたのかについて、文明と環境との相互関係に留意しながら、人類の出現から現代に至るまで、さまざまな角度から考えて見ます。その過程で、人類が、どのように環境を認識し、それに基づいてどのように環境を利用し、さらには、どのような世界観を抱いてきたかを展望します。そのことによって、人類とその文明社会や環境の問題の基礎を理解し、その上で、これらの問題をより深く考えるきっかけにしたいと希望しています。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に、適宜、紹介しますが、梅原猛・伊東俊太郎・安田喜憲編『講座・文明と環境』(朝倉書店・全15巻)などは、有用でしょう。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 序章
- 2 世界史の枠組
- 3 人類の誕生・進化・地球上への展開
- 4 諸環境への人類の適応①
- 5 諸環境への人類の適応②
- 6 諸環境への人類の適応③
- 7 初期文明の世界観
- 8 古代文明の誕生①
- 9 古代文明の誕生②
- 10 古代文明の誕生③
- 11 気候と文明
- 12 森と文明
- 13 動物と文明
- 14 病気と文明
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

世界史の大まかな流れを理解するよう努めること。
授業中に配布するプリントを利用して、授業の復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営入門

(Introduction to Business Management)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 / 2年次 / 2単位 / 1学期 / 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

現代社会において経済システムの基礎を担う企業に注目し、その仕組みや行動原則に目を向け、理解を深めていきます。

教科書 /Textbooks

周佐喜和ほか(2008)：経営学I-企業の本質-、実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

海野博・所伸之ほか(2007)：やさしい経営学、創成社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 現代社会における企業経営
- 2 企業の中で行われている活動
- 3 企業活動と利害関係者
- 4 株式会社の制度と意味
- 5 財務と会計(1)
- 6 財務と会計(2)
- 7 人的資源管理
- 8 生産管理(1)
- 9 生産管理(2)
- 10 マーケティング
- 11 経営管理
- 12 経営戦略(1)
- 13 経営戦略(2)
- 14 イノベーションのマネジメント
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：80%
小レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって教科書の該当箇所を読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

出席はとりません。成績は、基本的に期末試験と小レポートの得点に基づきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

工学を専門的に研究しながら、一方で、企業活動や経済・社会についての知識やセンスを学習することは、将来皆さんが、エンジニアとして、また技術を理解できるビジネスマンとして活躍する時に、大きく役立つと思います。

キーワード /Keywords

アジア経済

(Asian Economies)

担当者名 /Instructor 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

日本を含む東アジア地域に位置する国々に焦点をあてる。これらの国は高い経済成長を達成してきた。日本は1950年代後半から70年代初頭にかけて高度成長期を経験し、アジア地域における経済の牽引役としての役割を果たしてきた。韓国、台湾は香港、シンガポールと並んで1960年代以降に高成長を記録した。現在、中国が急速な勢いで発展しており、その影響はアジア域内でも大きい。本講義では東アジアの国々がどのような経路をたどって経済発展してきたのか、相互の関連にも着目しながら考察を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大野健一・桜井宏二郎著『東アジアの開発経済学』有斐閣アルマ、1997年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イン트로ダクション
- 2 東アジアの経済発展
- 3 日本の高度経済成長期
- 4 日本のバブル崩壊
- 5 日本の産業空洞化
- 6 アジア域内での貿易構造
- 7 グローバリゼーションの進展
- 8 小括と確認
- 9 中国の改革開放1
- 10 中国の改革開放2
- 11 韓国の経済発展
- 12 台湾の経済発展
- 13 香港の経済発展
- 14 シンガポールの経済発展
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40%
期末試験 50%
授業中の発言 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

復習をしっかりとして下さい。また常にアジア地域に関するニュースに耳を傾けて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では東アジアの国々を事例に経済成長のメカニズムを考えます。日本経済の歴史やアジア地域との関わりについても勉強し、知識を増やしていきましょう。

キーワード /Keywords

アジア 日本経済 経済発展

心理学入門

(Introduction to Psychology)

担当者名 /Instructor 永江 誠司 / Seiji NAGAE / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

「心理学入門」の講義では、心理学を初めて学ぶ学生を対象に、人間の心理と行動の基礎的しくみについて紹介する。本講義では脳と心、感覚と知覚、学習と記憶、思考と言語、感情と性格、発達と対人心理、そして臨床心理などのテーマを通じて、環境を認識し適応するしくみとしての心の働きについて、また自己および他者を理解する心のしくみについて解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

著者名 / 金城辰夫・藤岡新治・山上精次
 書名 / 図説現代心理学入門 3訂版
 出版社・出版年 / 培風館 2006
 著者名 / 長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行
 書名 / はじめて出会う心理学 改訂版
 出版社・出版年 / 有斐閣 2008

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.心理学を学ぶ
- 2.脳と心(1)
- 3.脳と心(2)
- 4.感覚と知覚の心理
- 5.学習の心理
- 6.動機づけの心理
- 7.記憶の心理
- 8.思考の心理
- 9.言語の心理
- 10.感情の心理
- 11.性格の心理
- 12.発達の心理
- 13.対人心理
- 14.臨床心理
- 15.まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 / (30.0%)
 学期末試験 / (70.0%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

心理学用語について調べ、対人関係や身近な社会現象に関心を払うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語、居眠りなどしないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自己理解、他者理解、社会理解の視点をもって受講してほしい。

心理学入門

(Introduction to Psychology)

キーワード /Keywords

脳、感覚、知覚、学習、動機づけ、記憶、思考、言語、感情、性格、発達、対人心理、臨床心理

国際関係

(International Relations)

担当者名 /Instructor 千知岩 正継 / Masatsugu CHIJIWA / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

わたしたちが住むのは、グローバル化の進展によって地球上のあらゆる人びとが政治・経済・社会・文化の面で意識的・無意識的に緊密につながった世界。かような世界はいま、戦争、テロリズム、基本的人権の侵害、経済格差と貧困、移民や難民、越境する感染症、地球規模の環境問題など、複雑かつ多岐にわたる難しい問題に直面している。この授業では、以上の難問について「国際倫理」の観点から検討し、その解決にむけてわたしたちが思考し行動するための手がかりを見つける。

教科書 /Textbooks

押村高『国際正義の倫理』（講談社現代新書、2008年）、720円（税別）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適時紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 国際関係の基本概念：主権国家、アナーキー、国際社会
- 2 近代国際社会の成立と展開：ウェストファリア、ウィーン、ハーグ
- 3 国際関係の倫理①：リアリズム、多元主義
- 4 国際関係の倫理②：連帯主義、コスモポリタニズム
- 5 均衡の倫理：勢力均衡
- 6 守護者の倫理：覇権国、大国
- 7 戦争の倫理①：正義の戦争
- 8 戦争の倫理②：人道的介入
- 9 戦争の倫理③：対テロ戦争
- 10 歓待の倫理：難民と移民
- 11 援助の倫理①：人道援助
- 12 援助の倫理②：平和構築
- 13 配分の倫理：グローバル化と貧困
- 14 「文明の衝突」をこえて、あるいは「多様性の中の統一 (unity in diversity)」を目指して
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%
授業への積極的参加とホームワーク 50%
ホームワーク：教科書と授業内容をふまえた宿題を2回だします。宿題の提出は期末試験の受験資格になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前もって指示するので、教科書と配布プリントで予習・復習をしてください。

履修上の注意 /Remarks

情報量の多い授業です。それなりの集中力を要します。授業を欠席したり、授業中ボーっとしていると、たいへんなことになります。授業にはしっかり出席し、ノートをとってください。
また、プリントを大量に配布します。配布プリントを整理し、授業毎に必ずもってきてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分たちは世界の人人々とのようにつながっているのか。また、グローバル化の進展する世界で次々に生じる戦争や貧困の問題にたいして、わたしたちはどのように向きあえばよいのか。国際関係論をとおして、これらの問いを一緒に考えてみませんか。

キーワード /Keywords

国際関係、国際社会、国際倫理、グローバル化

比較文化論

(Comparative Culture)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

この授業では、コミュニケーションと文化の関係について考える。教科書および他の教材を通して、様々な国と文化について調査を行うことを通して、異なる文化に対する考え方を広げる。この授業を通して、自文化と他の国の文化についてを考えを深めるとともに、自らの考えを英語でまとめるスキルを身につけてもらう。

教科書 /Textbooks

This is Culture
 Gregory Goodmacher and Asako Kajiuura
 Nan'un-do ¥1,900

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Course Introduction
- Week 2: What is Culture?
- Week 3: Cultural Rules for Behavior
- Week 4: Presentations
- Week 5: Stereotypes
- Week 6: Presentations
- Week 7: Cultural Views of Time
- Week 8: Cultural Awareness
- Week 9: Discussion on Cultural Awareness
- Week 10: Cultural Presentations
- Week 11: Perception of Space
- Week 12: Culture and Gender
- Week 13: Subcultures
- Week 14: What is Family?
- Week 15: Final Review (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 30%
 レポート 30%
 期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業は英語と日本語で行うが、できるだけ英語で参加することを望む。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本を読み、自分でものを考える、討論に参加することが求められる授業だということを、十分承知したうえで受講してほしい。

キーワード /Keywords

知的所有権

(Intellectual Property Rights)

担当者名 /Instructor 木村 友久 / Tomohisa KIMURA / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

知的財産法を理解する前提として、法学や法律についての基本的な理解を進める。その上で、知的財産法である特許（実用新案）法、意匠法、商標法、著作権法及び不正競争防止法の制度及び運用について基本的理解を深める。題材は知的所有権に関わる具体的な判例や客体情報を用い、社会における知的財産法の機能・役割及び課題についての理解と実務対応能力形成を図る。

教科書 /Textbooks

特許庁産業財産権標準教科書「総合編」「特許編」「意匠編」 ※第一回講義の際に無償配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

最高裁判所ホームページ「裁判例検索システム」、INPIT特許電子図書館、木村研究室HPを利用する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 法学概論並びに財産法の基礎知識
- 2 特許権、著作権事件を通じた我国の訴訟制度概論
- 3 特許情報の内容理解と情報検索実務
- 4 特許訴訟と特許発明の同一性判断
- 5 特許要件と明細書作成実務
- 6 企業活動と特許戦略(ノウハウおよび不正競争行為を含む)その1
- 7 企業活動と特許戦略(ノウハウおよび不正競争行為を含む)その2
- 8 ソフトウェア、ビジネスモデルと特許
- 9 環境関連技術と特許
- 10 著作権法に規定される各種の権利概論
- 11 著作者の権利・・・宇宙戦艦ヤマトを科学する
- 12 プログラムおよびデータベースと著作権
- 13 コンテンツビジネスと著作権(技術の進歩と著作権を含む)
- 14 最終報告書発表並びに総合討論
- 15 最終報告書発表並びに総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験50%
最終判例評釈レポートや授業時の発表内容、授業のリフレクションペーパー等50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回、ネット上の特許サロンの情報や最高裁判所の新規知財判決文を利用します。事前に参照して準備しておいて下さい。
 パテントサロンホームページ <http://www.patentsalon.com/>
 最高裁判所ホームページ <http://www.courts.go.jp/>

履修上の注意 /Remarks

単なる教科書の知識だけでなく、技術戦略や研究開発等の実務的側面から特許情報を読むことをおすすめします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北方キャンパスに常駐していませんので、何か質問があればメール等で遠慮無く質問して下さい。
 メールアドレス kimlab01@gmail.com
 スカイプID kim-lab

キーワード /Keywords

知的財産 特許 実用新案 意匠 商標 著作権

企業研究

(Enterprises and Industries)

担当者名 /Instructor 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

具体的な事例を通じ、企業経営についてのより深い理解を目指します。特に、企業のグローバル化や環境経営、情報化について考えます。

教科書 /Textbooks

周佐喜和ほか(2008)：経営学Ⅱ -グローバル・環境・情報化社会とマネジメント-、実教出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

周佐喜和ほか(2008)：経営学Ⅰ-企業の本質-、実教出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 グローバル社会に生きる企業
- 2 国際化する企業間競争
- 3 企業の海外進出と多国籍企業
- 4 多国籍企業の経営戦略(1)
- 5 多国籍企業の経営戦略(2)
- 6 海外事業と本国本社との関係
- 7 異文化マネジメント
- 8 企業の社会的責任(1)
- 9 企業の社会的責任(2)
- 10 環境マネジメント
- 11 エコビジネス
- 12 多様化する組織と企業の関係
- 13 情報と企業経営
- 14 グローバル化する社会の課題と企業
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：80%
小レポート：20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義資料の予習・復習をお願いします。

履修上の注意 /Remarks

履修者のご要望を反映して、一部内容を切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

将来皆さんがエンジニアとして活躍する企業について考える材料になると思います。

キーワード /Keywords

地球環境概論

(Engineering Frontiers for Global Sustainability)

担当者名 /Instructor
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~), 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科
門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~), 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~)
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科
加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department
【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

地球環境（水環境を中心に大気，土壌，生態系，資源など）の歴史から現状（発生源，移動機構，環境影響，法律・倫理，対策など）を国土や地球規模からの視点で概観できるような講義を行い，環境保全の重要性を認識できるようにする。

教科書 /Textbooks

特になし。随時、必要と思われる資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地球の前途 (人類の歴史と環境変化)
- 2 地球温暖化
- 3 環境と法・倫理
- 4 環境政策と市民
- 5 酸性雨とオゾン層
- 6 種の絶滅と生物多様性の保全
- 7 広がる化学物質汚染
- 8 水不足・水汚染
- 9 大地を守る (土壌劣化と食糧など)
- 10 海を守る (富栄養化・赤潮など)
- 11 森を守る (環境と植生など)
- 12 人為的災害
- 13 環境再生の事例
- 14 北九州市における環境モデル都市への取り組み
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 40%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特記事項なし

履修上の注意 /Remarks

授業の最後に20分程度の演習を実施するので、各授業を集中して聞くようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境に対する問題意識や将来展望を持つことは、あらゆる専門分野で必要不可欠なものになりつつあります。講義項目は、多岐にわたりますが、現状と基本的な考え方が理解できるような講義を行います。皆さんの将来に必ずプラスになるものと確信しています。

キーワード /Keywords

リサイクルシステム論

(Recycling System Science)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

廃棄物減量、資源循環を実現するために資源、エネルギー全般、廃棄物全般を概説する。また、それらを背景として取り組んでいるリサイクルシステム(マテリアル、エネルギー、排水・廃棄物など)について、資源、エネルギー回収と処理の観点からそれぞれの技術や社会的な仕組みを概観できるような講義を行い、科学技術が持続可能な社会形成に果たす役割を理解できるようにする。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 資源、エネルギー概論
- 2 廃棄物概論
- 3 リサイクルと3R
- 4 リサイクルの現状1
- 5 リサイクルの現状2
- 6 リサイクルの現状3
- 7 生物学的排水処理システムの基礎
- 8 栄養塩の除去技術システム
- 9 演習
- 10 有機性排水処理システム
- 11 栄養塩の資源化システム
- 12 有機物の資源化システム
- 13 最終処分場と不法投棄
- 14 廃棄物の輸出入、バーゼル条約と国際資源循環
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 60%
試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義中に配付した資料を見直し、次の講義への準備をしておくことが必要である。

履修上の注意 /Remarks

演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

リサイクル・水・廃棄物処理に関する体系的な知識が習得できる。

キーワード /Keywords

環境計測入門

(Environmental Measurement)

担当者名 /Instructor 山本 郁夫 / Ikuo YAMAMOTO / 機械システム工学科, 松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科
門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

地球環境問題を考える上で、多くの良質な環境情報を収集し、有効に活用することが重要である。本講義では、大気、海洋、陸地の分野において、地球環境に重要な影響を及ぼす地球環境情報パラメータとそれらの計測法、および、計測されたデータの活用方法の基礎を学習し、具体的な適用事例を学びながら、地球環境問題の解決を考えていく上での工学的な応用力を養うことを目標とする。

教科書 /Textbooks

プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

計測工学入門 中村邦雄編著 森北出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 地球の成り立ち
2. 地球環境問題
3. 問題解決への国際的取り組み
4. 地球環境パラメータと計測
5. 地球環境を測る仕組み
6. 環境計測の基礎
7. 測定方法(1) [有効数字]
8. 測定方法(2) [地球の大きさを計測]
9. 測定方法(3) [統計処理]
10. 大気分析について(1)[計測パラメータ]
11. 大気分析について(2)[実計測法]
12. 水質分析について(1)[計測パラメータ]
13. 水質分析について(2)[実計測法]
14. 総合演習
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト4回 100%
欠席 減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

プリントの予習・復習

履修上の注意 /Remarks

環境計測技術は専門用語が多いので、確実な理解のためには復習が必要である。また、常日頃新しい技術の情報に目を通しておくことが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わが国は、環境先進国として世界をリードしており、持続的可能な社会の実現に向けてさらに環境問題に取り組んでいかなければならない。環境問題は地球規模で考え、足元から行動することが重要で、環境計測は工学上身近なところから実践できる学問であることを認識して、意欲的に授業に臨んで欲しい。

キーワード /Keywords

環境問題特別講義

(Introduction to Environmental Issues)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19~), 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~)

森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境問題は、地球規模の問題であるとともに地域の問題でもある。また、目前に見える今日的課題から地球温暖化のように将来の課題まで含んでいる。そして、私たち日常生活のみならず産業経済や政治も環境問題にどのように対応するかが重要なテーマである。本講義では、各分野で活動する専門家の講義を受けるとともに、演習や見学を通して環境問題の概略を理解する。

教科書 /Textbooks

日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会編著「エコアクションが地球を救う！第2版」丸善

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都研究会編著「環境首都 - 北九州市」日刊工業新聞社、米本昌平「地球環境問題とは何か」岩波新書、ほか授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境問題とは何か その1 - 地球環境と生態系
- 2 環境問題とは何か その2 - 歴史と環境、社会と環境、人間と環境
- 3 環境問題演習 その1 - エネルギー消費
- 4 環境問題演習 その2 - 環境負荷
- 5 北九州の環境政策 - 環境汚染とその克服、そして環境モデル都市、環境首都創造
- 6 環境問題と市民の役割
- 7 環境問題と企業の役割
- 8 環境問題と報道の役割
- 9 環境産業(技術)の発展
- 10 自然史・歴史博物館の見学と講義
- 11 エコタウン施設の見学
- 12 環境問題事例研究ガイダンス①
- 13 環境問題事例研究ガイダンス②
- 14 環境問題事例研究ガイダンス③
- 15 まとめ
(講義の順番は講師の都合により入れ替る)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20% (講義内容への質問等も評価する)
レポート 30% (レポートは、講義内容や施設見学に関するもの)
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義内容に関する演習、小論文、課題提出等を課す。常に授業への集中力を持続すること。

履修上の注意 /Remarks

講師の都合等で、講義内容に変更が生じる場合がある。土曜日に施設見学を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義内容のノート・メモをとり、聴きながら整理する習慣をつけ、学校生活のペースを身につけること。そのためには、講義内容に関係した記事を新聞雑誌で読んだり、参考書で学習すること、友人と意見交換することを奨める。

キーワード /Keywords

環境問題 生態系 環境負荷 エネルギー消費 北九州市 エコタウン

生物学

(Biology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科

授業の概要 /Course Description

生物学の導入として、(1) 細胞の構造と細胞分裂、(2) 遺伝、(3) 生殖と発生、(4) 動物の反応と調節、(5) 系統進化と分類、の各分野について概説する。本講義では、生物学を初めて学ぶ者にも理解できるように基本的な内容を平易に解説し、全学科の学生を対象に自然科学の教養としての生物学教育を行うとともに、生物系の専門課程の履修に最低限必要な生物学の基盤教育を行う。

教科書 /Textbooks

生物学入門 石川統 著、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 細胞の構造
- 2 細胞の機能
- 3 細胞分裂
- 4 遺伝の法則
- 5 遺伝子
- 6 適応
- 7 進化
- 8 系統分類
- 9 器官形成
- 10 配偶子形成
- 11 初期発生
- 12 植物の発生
- 13 刺激と反応
- 14 恒常性の維持
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 80% 絶対評価にて評価する
課題 20% 講義期間中に随時課す
出席 出席回数10回以上を必須とする(9回以下はG評価とする)。評点には加点しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

生物学の理解のためには、化学、物理学の基礎的知識が必要である。本講義では、生物学を初めて学ぶ学生にも理解できるような平易な解説を行うが、高校までの化学、物理学の知識は再確認しておいて欲しい。

履修上の注意 /Remarks

平易な解説を行うが、講義はすべて積み重ねであるため、一部の理解が欠如するとその後の履修に支障が生じる。そのため、毎回の講義を真剣に受講し、その場ですべてを完全に理解するように心がけて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物学が好きな学生、嫌いな学生ともに、基礎から学べるような講義を行います。すでに生物学を学んだことのある人は再確認を行い、また生物学初学者は基礎をしっかりとし身につけ、専門科目へのつなぎを作ってください。

キーワード /Keywords

環境問題事例研究

(Case Studies of Environmental Issues)

担当者名 /Instructor ○森本 司、二渡 了、各学科教員

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境問題の本質を理解し、解決への糸口を見つける最善の方法は、直接現場に接することである。そして、多様な要素の中から鍵となる因子を抽出し、なぜ問題が発生したのかを考える。この環境問題事例研究では、チームごとに独自の視点で問題の核心を明らかにし、目標設定、調査手法選択、役割分担などの検討を経て、自主的に調査研究を進め、研究成果のとりまとめ・発表を行う。

教科書 /Textbooks

環境問題特別講義の教科書及びその中で紹介されている書籍、関連Webサイトを参考にすること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その他、参考となる書籍等については、その都度紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 研究計画の発表
- 3 調査研究の実施
- 4 調査研究の実施
- 5 調査研究の実施
- 6 中間発表会
- 7 調査研究の実施
- 8 調査研究の実施
- 9 発表準備、調査研究とりまとめ
- 10 発表準備、調査研究とりまとめ
- 11 第1次発表会(口頭発表)
- 12 調査研究とりまとめ、調査研究報告書作成
- 13 第2次発表チームの発表、調査研究とりまとめ
- 14 第2次発表会(口頭発表、ポスター発表)
- 15 表彰式

成績評価の方法 /Assessment Method

調査研究活動や発表等 50% チーム内での貢献度を評価する。
 成果発表や報告書の成績 50% チーム内での貢献度を評価する。
 以上を個人単位で評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業計画は、あくまでも目安になるものである。この科目では、開講期間全体を通じ、時間管理を含めて、「学び」の全てとその成果を受講生の自主性に委ねている。

履修上の注意 /Remarks

調査研究は、授業時間内及び時間外に行う。フィールドワークを伴うことから、配付する資料に示される注意事項を守り、各自徹底した安全管理を行うこと。連絡は、基本的にオンライン学習システムを通して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業科目は、テーマに関連した北九州の環境や生産の現場を直接訪問し、自分の目で見て、考えるとともに、分野を超えて友人や協力者のネットワークをつくる機会となる。積極的にかかわり、有意義な科目履修になることを期待する。

キーワード /Keywords

生態学

(Ecology)

担当者名 /Instructor 原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科

授業の概要 /Course Description

生態系は、我々人間も含めた生物と環境との相互作用によって成り立っている。この相互作用の基本となるものは物質とエネルギーであり、生態系における物質・エネルギーの挙動と生物との関係を正しく理解する事が、諸々の環境問題の正しい理解とその解決策の検討には不可欠である。本講義では、このような観点から、(1) 生態系の構造と機能、(2) 個体群と生物群集の構造、(3) 生物地球化学的物質循環、を中心に生態学の基礎的内容を講述する。

教科書 /Textbooks

生態学入門 -生態系を理解する- (原口昭 編著) 生物研究社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

攪乱と遷移の自然史 (重定・露崎編著) 北海道大学出版会 ほか必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 地球環境と生物 - 生態系の成り立ち
- 2 生態系の構成要素 - 生物・環境・エネルギー
- 3 生物個体群の構造
- 4 種内関係
- 5 生態系とエネルギー
- 6 生態系の中での物質循環
- 7 生態系の変化 - 生態遷移
- 8 土壌の成り立ちと生物・環境相互作用
- 9 生態系各論：森林生態系
- 10 生態系各論：陸水生態系
- 11 生態系各論：湿地生態系
- 12 生態系各論：農林地生態系
- 13 生態系各論：熱帯生態系
- 14 生態系各論：エネルギー問題と生態系
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末テスト 80% 絶対評価にて評価する
レポート 20% 講義中に随時実施する
出席 出席回数10回以上を必須とする(9回以下はG評価とする)。評点には加点しない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

工学系の学生にとっては初めて学習する内容が多いと思うが、何よりも興味を持つことが重要であるので、生態系や生物一般に関する啓蒙書を読んでおくことを勧める。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義の積み重ねで全体の講義が構成されているので、毎回必ず出席して、その回の講義は完全に消化するよう努めて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考える上で生物の機能は不可欠な要素です。これまで生態系に関する講義を履修してこなかった学生に対しても十分理解できるように平易に解説を行いますので、苦手意識を持たずに取り組んでください。

キーワード /Keywords

環境マネジメント概論

(Introduction to Environmental Management)

担当者名 /Instructor
 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科
 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19~), 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科
 (19~)
 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

多様な要素が関係する環境問題を解きほぐし、その対策・管理手法を考えるための基礎知識を修得することが目標である。まず、環境に関わる学問分野、環境問題と対策の歴史を概観し、次に、環境の現況把握のための評価手法、目標設定のための将来予測の考え方、環境マネジメントの予防原則に則った法制度、国際規格、経済的手法、環境リスク管理等の基礎を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定しない(講義ではプリントを配布する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境システム(土木学会環境システム委員会編、共立出版)○、環境問題の基本がわかる本(門脇仁、秀和システム)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- < 環境問題を考える視点 >
- 1 環境システムとそのマネジメント(松本)
- < 環境問題の原因を考える >
- 2 都市化・工業化・国際化(二渡)
- 3 経済モデルと環境問題の構造(加藤)
- < 環境の状態をつかみ目標を決める >
- 4 地域環境情報の把握と環境影響予測(野上)
- 5 製品・企業の環境パフォーマンス(乙間)
- 6 地球環境の把握と将来予測(松本)
- < 環境をマネジメントする >
- 7 国内・国際法による政策フレーム(乙間)
- 8 開発事業と環境アセスメント(野上)
- 9 国際規格による環境管理(二渡)
- 10 経済学的手法による予測と誘導(加藤)
- 11 環境リスクとその管理(二渡)
- 12 環境情報とラベリング(乙間)
- < 事例研究 >
- 13 企業(野上)
- 14 行政(松本)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト 42%
 期末試験 58%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する小テストを実施するので集中して聞くこと。欠席すると必然的に小テストの得点は無いので注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境生命工学科環境マネジメント分野の教員全員による講義です。環境問題の本質をつかみ、理解し、解決策を見出すための理念と基礎手法を解説します。工学部出身者として、今やどの分野で活躍する場合でも習得しておくべき知識と書いていいでしょう。

キーワード /Keywords

環境と経済

(The Environment and Economics)

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 2年次 / 2年次 / 2学期 / 2学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / 講義 / クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境問題に関し、経済学的な観点から、社会にとって良い政策とは何かを考える。2部構成とし、第一部では、ミクロ経済学の知識を必要な範囲で伝授する。第二部では、環境税や排出権取引のしくみを説明する。実際の政策の議論では、さまざまな論点が混じり合い、これらの対策の本来の意義が見えにくくなっているため、原点に立ち返る。また、環境影響の評価手法や制度の特徴をゲーム理論的に分析する方法も紹介する。

教科書 /Textbooks

目引聡・有村俊秀「入門 環境経済学」中公新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

細田衛士「グッズとバツズの経済学」東洋経済新報社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：環境問題と経済学
- 2 需要曲線と消費者余剰
- 3 費用と供給曲線 1
- 4 費用と供給曲線 2
- 5 供給曲線と生産者余剰
- 6 市場と社会的余剰 1
- 7 市場と社会的余剰 2
- 8 環境問題と環境外部性
- 9 環境税のしくみ 1
- 10 環境税のしくみ 2
- 11 排出権取引のしくみ 1
- 12 排出権取引のしくみ 2
- 13 環境税と排出権取引の比較
- 14 事例考察
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 40%
期末テスト 50%
レポート 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校レベルの微分積分および基本的な偏微分の知識を前提とします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題に対する経済学的対処法に興味がある人は、ぜひ受講してください。理解促進のために5回程度の小テストを実施予定です。

キーワード /Keywords

環境都市論

(Urban Environmental Management)

担当者名 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

アジア各国で進行している産業化、都市化、モータリゼーション、消費拡大とそれらに起因する環境問題には、多くの類似性が見られる。日本の経済発展と環境問題への対応は、現在、環境問題に直面するこれらの諸国への先行モデルとして高い移転可能性を持つ。本講では、北九州市を中心とした日本の都市環境政策を題材に、環境問題の歴史と対策を紐解き、その有効性と適用性について考える。

教科書 /Textbooks

特に指定しない（講義ではプリントを配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

東アジアの開発と環境問題（勝原健、勁草書房）、その他多数（講義中に指示する）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロ（松本 亨）
- 2 日本の環境政策の歴史的推移（松本 亨）
- 3 産業公害に対する環境政策：北九州市洞海湾を例に（福岡女子大学・山田真知子教授）
- 4 化学物質による環境汚染とそのリスク（北九州市立大学・門上希和夫教授）
- 5 都市の土地利用・土地被覆と熱環境（崇城大学・上野賢仁准教授）
- 6 都市の廃棄物問題の現状と対策（日本環境衛生センター・大澤正明理事）
- 7 都市交通をめぐる環境問題とその総合対策（九州工業大学・寺町賢一准教授）
- 8 北九州の生物をめぐる水辺環境の問題（エコプラン研究所・中山歳喜代表取締役所長）
- 9 持続可能な社会構築における行政計画の役割（九州環境管理協会・古賀照久上席研究員）
- 10 北九州市のアジア低炭素化戦略（北九州市アジア低炭素化センター・飯塚誠マネージャー）
- 11 物質循環から見た循環型社会の姿（松本 亨）
- 12 諸外国の都市廃棄物問題と最終処分場（九州大学・中山裕文准教授）
- 13 社会起業と環境コミュニティビジネス（西日本産業貿易コンベンション協会・古賀敦之課長）
- 14 都市環境の包括的マネジメント（松本 亨）
- 15 まとめ（松本 亨）

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への積極的参加）10% ※2/3以上出席すること
毎回の復習問題 60%
期末試験 30% ※毎回の復習問題（選択式小テスト）の復習

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

履修上の注意 /Remarks

毎回の講義の最後にその回の内容に関する復習問題（選択式）を実施するので集中して聞くこと。欠席すると必然的にこの得点が無いので注意。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市の環境への取り組みの現状と課題について、その第一線で関わってこられた研究者・行政担当者に講述していただきます。学生諸君は、北九州市で過ごした証に、北九州市の環境政策について確実な知識と独自の視点を有して欲しい。

キーワード /Keywords

英語コミュニケーションI

(English Communication I)

担当者名 プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice このシラバスの内容は、2年生以上で受講を希望する学生用です。

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングという四つのスキルを総合的に学習する。
学生がよく間違える英語を取り上げながら、日常的なシナリオを通じて、「使える」英語を学ぶ。

教科書 /Textbooks

"Communicate with Confidence! Basic English Skills for University Students"
By Anne Crescini and Roger Prior
持っていない学生にはプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にないが、英語の辞書を持参してくることを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) Orientation
- 2) Chapter 1 (Listening and Grammar)
- 3) Chapter 1 (Reading and Writing)
- 4) Chapter 2 (Listening and Grammar)
- 5) Chapter 2 (Reading and Writing)
- 6) Chapter 3 (Listening and Grammar)
- 7) Chapter 3 (Reading and Writing)
- 8) Review
- 9) Chapter 4 (Listening and Grammar)
- 10) Chapter 4 (Reading and Writing)
- 11) Chapter 5 (Listening and Grammar)
- 12) Chapter 5 (Reading and Writing)
- 13) Chapter 6 (Listening and Grammar)
- 14) Chapter 6 (Reading and Writing)
- 15) Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20%
宿題 40%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習も宿題もきちんとしてくる。

履修上の注意 /Remarks

クラスごとに小テストなどがあるので、毎週出席することが必要だ。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You should try to use English as much as possible in this class. Have confidence and overcome your fear - or dislike - of English.

キーワード /Keywords

TOEFL/TOEIC演習

(TOEFL/TOEIC Preparation Course)

担当者名 /Instructor 長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

ビジネス社会において、ますますTOEICのスコアが重要視されるようになっている。そのTOEICの概要を把握する為に、各パートの出題形式およびその解答の方策を学ぶとともに、470点を突破できる英語力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

e-learning 教材 (授業開始後に指示します)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後に指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション, TOEICの概要についての説明
- 第2回 Part 2の概要
- 第3回 Part 2において求められる英語知識とスキル
- 第4回 Part 2の問題演習
- 第5回 Part 5の概要
- 第6回 Part 5において求められる英語知識とスキル
- 第7回 Part 5の問題演習
- 第8回 Part 6の概要と求められる英語知識・スキル
- 第9回 Part 6の問題演習
- 第10回 Part 1
- 第11回 Part 7の概要と求められる英語知識・スキル
- 第12回 Part 7の問題演習
- 第13回 Part 3の概要と求められる英語知識・スキル
- 第14回 Part 4の概要と求められる英語知識・スキル
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 30%
e-learning学習履歴 30%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

授業外において e-learning教材を用いて学習をすることが要求される為、受講の際には注意すること。また、履修希望者が40名を超える場合は、受講制限をかけることがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

年々、企業におけるTOEICのスコアの重みは増しており、昇進の条件としてTOEICのスコアを課す企業も増えてきた。この授業では単に問題を解くだけでなくTOEICの効果的な学習方法も身につけてもらう。目標スコアに到達するためには、授業だけでは不十分である。授業で教わったことをもとに、各自が授業時間外に自主的に学習することが期待される。

キーワード /Keywords

英語コミュニケーションII

(English Communication II)

担当者名 プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice このシラバスの内容は、2年生以上で受講を希望する学生用です。

授業の概要 /Course Description

リーディング、ライティング、リスニング、スピーキングという四つのスキルを総合的に学習する。
学生がよく間違える英語を取り上げながら、日常的なシナリオを通じて、「使える」英語を学ぶ。

教科書 /Textbooks

"Communicate with Confidence! Basic English Skills for University Students"
By Anne Crescini and Roger Prior
持っていない学生にはプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特にないが、英語の辞書を持参してくることを勧める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) Orientation
- 2) Chapter 7 (Listening and Grammar)
- 3) Chapter 7 (Reading and Writing)
- 4) Chapter 8 (Listening and Grammar)
- 5) Chapter 8 (Reading and Writing)
- 6) Chapter 9 (Listening and Grammar)
- 7) Chapter 9 (Reading and Writing)
- 8) Review
- 9) Chapter 10 (Listening and Grammar)
- 10) Chapter 10 (Reading and Writing)
- 11) Chapter 11 (Listening and Grammar)
- 12) Chapter 11 (Reading and Writing)
- 13) Chapter 12 (Listening and Grammar)
- 14) Chapter 12 (Reading and Writing)
- 15) Review

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20 %
宿題 40 %
期末試験 40 %

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習も宿題もきちんとしてくる。

履修上の注意 /Remarks

クラスごとに小テストなどがあるので、毎週出席することが必要だ。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You should try to use English as much as possible in this class. Have confidence and overcome your fear - or dislike - of English.

キーワード /Keywords

英語コミュニケーションⅣ

(English Communication IV)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師
ヒックス ジェイムズ / James HICKS / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は時間割で周知します。

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn how to express their opinions in English through class discussion and presentations. Students will gain the skills necessary to create persuasive and comparative presentations, including writing, preparing good visual aids, voice, eye contact, pronunciation and teamwork. At the end of this course, students should be able to prepare and give English presentations, and be able to express their opinions simply in English.

教科書 /Textbooks

"English With Confidence!
Discussion and Presentation about Important Topics in Today's World"
Anne Crescini and Roger Prior

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course Introduction
Week 2: Working Holiday; Presentation Skills #1
Week 3: Presentation #1 (Persuasive)
Week 4: Environment; Presentation Skills #2
Week 5: Presentation #2 (Persuasive)
Week 6: Review #1
Week 7: Family; Presentation Skills #3
Week 8: Spontaneous Role Plays (Family)
Week 9: Children: Presentation Skills #4
Week 10: Presentation #3 (Comparative)
Week 11: Review #2
Week 12: Education; Presentation Skills #5
Week 13: Presentation #4 (Comparative)
Week 14: Career; Presentation Skills #6
Week 15: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation 20%
Presentations 40%
Final Exam 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

履修上の注意 /Remarks

Speaking English is a very important part of this class. Your instructor will speak English most of the time, so you are expected to try to do so as well. Your efforts to speak English will be considered when assigning grades.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The aim of this course is to help you improve your English discussion and presentation skills. By working hard, you should eventually be able to do basic presentations in English and take part in simple discussions about various topics, helping you to succeed in a global environment.

英語コミュニケーションⅣ

(English Communication IV)

キーワード /Keywords

English Communication, presentation skills

英語リテラシーI

(English Literacy I)

担当者名 /Instructor
長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 上村 隆一 / Ryuichi UEMURA / 基盤教育センターひびきの分室
柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室
プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師
三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
								○	○	○	○

対象学科 /Department
【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は時間割で周知します。

授業の概要 /Course Description

本授業では1年次において学習した口頭による英語コミュニケーションを踏まえ、英語の「読み」「書き」という文字による英語のコミュニケーションの力を養成する。この授業では特に以下の項目を到達目標とする。

- ① 自分が興味を持っている分野について辞書を用いながら英文を読むことができる
- ② 読解に必要なストラテジーを使うことができる
- ③ 文法的に正しい英文を書くことができる
- ④ 辞書を用いずに平易な文章を読むことができる

またこの授業を通して、卒業後の英語学習にも活用できる様々な学習方法やスキルを修得および実践する。

教科書 /Textbooks

- ① Sentence Writing, Dorothy E. Zemach, Macmillan Language House, ¥2,400
- ② Timed Reading Plus in Science Book 3, McGraw-Hill, ¥1,575

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者より指示する。

英語リテラシーI

(English Literacy I)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 ① Unit 1 I Go to an Unusual School
② Speed Reading 1, 1B "Is There Life on Mars?"
- 第3回 ① Unit 1 I Go to an Unusual School
② Speed Reading 2, 1B "Is There Life on Mars?"
- 第4回 ① Unit 2 Funny Stories
② Speed Reading 3, 2B "Eye Care through the Ages"
- 第5回 ① Unit 2 Funny Stories
② Speed Reading 4, 2B "Eye Care through the Ages"
- 第6回 Review (1)
- 第7回 ① Unit 3 I'm from Bangkok
② Speed Reading 5, 3B "The Art of Herb Gardening"
- 第8回 ① Unit 3 I'm from Bangkok
② Speed Reading 6, 3B "The Art of Herb Gardening"
- 第9回 Review (2)
- 第10回 ① Unit 4 She Seems Lonely
② Speed Reading 7, 4B "What Causes Static Electricity?"
- 第11回 ① Unit 4 She Seems Lonely
② Speed Reading 8, 4B "What Causes Static Electricity?"
- 第12回 Review (3)
- 第13回 ① Unit 5 She has Brown Eyes
② Speed Reading 9, 5B "The Day of the Hurricane"
- 第14回 ① Unit 5 She has Brown Eyes
② Speed Reading 10, 5B "The Day of the Hurricane"
- 第15回 Review (4)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業への参加態度 10%
単語テスト 20%
課題 20%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「野球がうまくなりたい」としよう。プロ野球の試合を見ているだけでうまくなるだろうか。決してそんなに甘いものではない。自ら地道に毎日トレーニングを積み、練習試合を重ねて初めて、試合で満足いくプレイができるようになるだろう。英語も同じである。授業を受けている(見ている)だけでは、決して上達しない。毎日の学習・練習・実践が必要である。

学生一人ひとりの自覚と努力を期待する。

キーワード /Keywords

英語リテラシーII

(English Literacy II)

担当者名 /Instructor
長 加奈子 / Kanako CHO / 基盤教育センターひびきの分室, 上村 隆一 / Ryuichi UEMURA / 基盤教育センターひびきの分室
柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室
プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室, 酒井 秀子 / Hideko SAKAI / 非常勤講師
三宅 啓子 / Keiko MIYAKE / 非常勤講師, 工藤 優子 / Yuko KUDO / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department
【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は時間割で周知します。

授業の概要 /Course Description

第1学期において学習した内容を踏まえ、より高度な英語の「読み」「書き」の力を養成する。この授業では特に以下の項目を到達目標とする。

- ① 自分が興味を持っている分野について辞書を用いながら長い英文を読むことができる
- ② 読解に必要なストラテジーを効果的に使うことができる
- ③ 自分が書いた英文の間違いを指摘し、正しい英文を書くことができる
- ④ 辞書を用いずに平易な文章を大量に読むことができる

またこの授業を通して、卒業後の英語学習にも活用できる様々な学習方法やスキルを修得および実践する。

教科書 /Textbooks

第1学期に用いた教科書を引き続き使用する。

- ① Sentence Writing, Dorothy E. Zemach, Macmillan Language House, ¥2,400
- ② Timed Reading Plus in Science Book 3, McGraw-Hill, ¥1,575

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業開始後、各担当者が指示する。

英語リテラシーII

(English Literacy II)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ① Unit 6 I Like Playing Soccer
② Speed Reading 11, 6B "Hunting Buffalo: A Way of Life"
- 第2回 ① Unit 6 I Like Playing Soccer
② Speed Reading 12, 6B "Hunting Buffalo: A Way of Life"
- 第3回 ① Unit 7 Faded Jeans Are Cool
② Speed Reading 13, 7B "Spiders That Lasso Their Prey"
- 第4回 ① Unit 7 Faded Jeans Are Cool
② Speed Reading 14, 7B "Spiders That Lasso Their Prey"
- 第5回 Review (1)
- 第6回 ① Unit 8 I'm a Business Major
② Speed Reading 15, 8B "Disappointments and Triumphs of Female Astronauts"
- 第7回 ① Unit 8 I'm a Business Major
② Speed Reading 16, 8B "Disappointments and Triumphs of Female Astronauts"
- 第8回 ① Unit 9 I'm in Barcelona
② Speed Reading 17, 9B "Helpful Hints for Falling Asleep"
- 第9回 ① Unit 9 I'm in Barcelona
② Speed Reading 18, 9B "Helpful Hints for Falling Asleep"
- 第10回 Review (2)
- 第11回 ① Unit 10 It's a Kind of French Game
② Speed Reading 19, 10B "Fossils: A Record of Life on Earth"
- 第12回 ① Unit 10 It's a Kind of French Game
② Speed Reading 20, 10B "Fossils: A Record of Life on Earth"
- 第13回 ① Unit 11 It Has Great Graphics
② Speed Reading 21, 11B "Getting the Salt out of Salt Water"
- 第14回 ① Unit 11 It Has Great Graphics
② Speed Reading 22, 11B "Getting the Salt out of Salt Water"
- 第15回 Review (3)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度 10%
単語テスト 20%
課題 20%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「野球がうまくなりたい」としよう。プロ野球の試合を見ているだけでうまくなるだろうか。決してそんなに甘いものではない。自ら地道に毎日トレーニングを積み、練習試合を重ねて初めて、試合で満足のいくプレイができるようになるだろう。英語も同じである。授業を受けている(見ている)だけでは、決して上達しない。毎日の学習・練習・実践が必要である。

学生一人ひとりの自覚と努力を期待する。

キーワード /Keywords

英語リテラシーII

(English Literacy II)

キーワード /Keywords

英語コミュニケーションⅢ

(English Communication III)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室
クレシーニ リズ / Riz CRESCINI / 非常勤講師, ヒックス ジェイムズ / James HICKS / 非常勤講師

履修年次 2年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 各クラスの担当教員は時間割で周知します。

授業の概要 /Course Description

In this course, students will learn how to express their opinions in English through class discussion and presentations. Students will gain the skills necessary to create informative and process presentations, including writing, preparing good visual aids, voice, eye contact, pronunciation and teamwork. At the end of this course, students should be able to prepare and give English presentations, and be able to express their opinions simply in English.

教科書 /Textbooks

"English With Confidence!
Discussion and Presentation about Important Topics in Today's World"
Anne Crescini and Roger Prior

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Class Introduction
Week 2: Communication; Presentation Skills #1
Week 3: Travel; Presentation Skills #2
Week 4: Presentation #1 (Informative)
Week 5: Stereotypes; Presentation Skills #3
Week 6: Presentation #2 (Informative)
Week 7: Review #1
Week 8: Food; Presentation Skills #4
Week 9: Presentation #3 (Process)
Week 10: Revolutionary Ideas; Presentation Skills #5
Week 11: Revolutionary Ideas-Documentary
Week 12: Review #2
Week 13: Sports and Communication
Week 14: Presentation #4 (Process)
Week 15: Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Participation	20%
Presentations	40%
Final Exam	40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

なし

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

なし

履修上の注意 /Remarks

Speaking English is a very important part of this class. Your instructor will speak English most of the time, so you are expected to try to do so as well. Your efforts to speak English will be considered when assigning grades.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

The aim of this course is to help you improve your English discussion and presentation skills. By working hard, you should eventually be able to do basic presentations in English and take part in simple discussions about various topics, helping you to succeed in a global environment.

英語コミュニケーションⅢ

(English Communication III)

キーワード /Keywords

English Communication; presentation skills

ビジネス英語

(Business English)

担当者名 /Instructor クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

英語を職業上使用する学生を対象にし、スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの能力を伸ばし、国際的な環境で働く職業人が使う英語の習得とあらゆる状況にも対応できる英語力を身につけることを目標とする。授業はタスク中心にペアワーク、グループワーク、プレゼンテーション、教師との対話によって行われる。授業の予習により、リーディング及びライティングの力の増進に寄与しTOEICテストで使われる語彙や構文の演習にも効果的である。

教科書 /Textbooks

Global Links I
Kenneth Schmidt
Longman Publishing

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introductions in the Business World
Week 2: Describing Your Company
Week 3: Office Routines
Week 4: Business in Progress
Week 5: Presentations
Week 6: Making Telephone Arrangements
Week 7: Describing Locations
Week 8: Midterm Review
Week 9: Getting to a Meeting
Week 10: Overseas Business Travel
Week 11: Socializing
Week 12: Introducing Your Culture
Week 13: Presentations
Week 14: Comparing Workplaces and Products
Week 15: Final Review (まとめ)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度 20%
レポート / プレゼンテーション 40%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

この授業は英語と日本語で行いますが、できるだけ授業で英語を話して欲しい。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本を読み、自分でものを考える、討論に参加することが求められる授業だということを、十分承知したうえで受講してほしい。

キーワード /Keywords

科学技術英語

(English for Scientists and Engineers)

担当者名 /Instructor 上村 隆一 / Ryuichi UEMURA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期/2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

主として大学院進学希望者を対象として、科学技術英語の基礎事項（語彙、文法、構文など）を多面的に演習形式で学習する。工業英検3級レベルの読解・作文力を修得することを目標とし、同時に学生自身のアカデミックな英語論文講読、研究発表に備えて本格的な技術語彙とIntensive Reading技法の修得をめざす。

教科書 /Textbooks

Bates, M. and T. Dudley-Evans: General Science (2005) Nan'un-do.
人見憲司・吉田宏予・湯舟英一 「パラグラフ構造で読む21のイノベーション（改訂版）」（2009）南雲堂。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

CO CET3300-理工系学生のための必修英単語3300 (2007) 成美堂。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業概要、演習課題の説明、診断テスト
- 第2回 Unit 1 Shapes, Definition Paragraph - Reading I
- 第3回 Unit 2 Properties, Definition Paragraph - Reading II
- 第4回 Unit 3 Measurement, Listing Paragraph - Reading III
- 第5回 Unit 4 Process I, Illustration Paragraph - Reading IV
- 第6回 Unit 5 Process II, Narrative Paragraph - Reading V
- 第7回 Unit 6 Process III, Process Paragraph - Reading VI
- 第8回 Unit 7 Quantity, Illustration Paragraph II - Reading VII
- 第9回 Unit 8 Cause and Effect I, Cause & Effect Paragraph I - Reading VIII
- 第10回 Unit 9 Cause and Effect II, Cause & Effect Paragraph II - Reading IX
- 第11回 Unit 10 Proportion I, Comparison/Contrast Paragraph - Reading X
- 第12回 Unit 11 Proportion II, Illustration Paragraph III - Reading XI
- 第13回 Unit 12 Method I, Classification Paragraph I - Reading XII
- 第14回 Unit 13 Method II, Classification Paragraph II - Reading XIII
- 第15回 演習内容の総括、工業英検ガイダンス

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 50%
授業時小テスト（技術語彙、技術英文読解）30%
課題提出 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎授業時間に実施する小テスト（語彙・読解）範囲の予習
問題解決型課題（受講学生の所属学科によって個別に指示）の解答入力と提出
教科書（紙媒体と電子媒体を併用）練習問題の解答

履修上の注意 /Remarks

大学院科目「技術英語特論」(M1) の導入的科目として位置づけられるので、特に進学希望者は履修しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法

(Advanced English)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室
プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

英語でのライティングの基礎となる明白な意味表示の仕方を学び、不明瞭な言い回しを減らす学習を行う。読み書きの学習形態の特性を最大限に生かし、説明、比較、分析、理論など英文構築に必要な論理性（ロジック）と英語の構造的特性を学ぶ。この科目ではパラグラフライティングの基本的スタンスを踏まえながら、少ない文構成を基本に学習する。

教科書 /Textbooks

Paragraph Writing (Macmillan Languagehouse)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において各担当者が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 Beginning to Work
- 3 Giving and Receiving Presents
- 4 A Favorite Place
- 5 Review (1)
- 6 An Exceptional Person
- 7 Trends and Fads
- 8 White Lies
- 9 Review (2)
- 10 Explanations and Excuses
- 11 Problems
- 12 Strange Stories
- 13 Review (3)
- 14 Differences
- 15 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

試験: 50 %
ライティング課題及び小テスト: 40%
授業参加態度: 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業の予習・復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

英語リテラシーⅢ

(English Literacy III)

担当者名 /Instructor 柏木 哲也 / Tetsuya KASHIWAGI / 基盤教育センターひびきの分室, 上村 隆一 / Ryuichi UEMURA / 基盤教育センターひびきの分室
クレシーニ アン / Anne CRESCINI / 基盤教育センターひびきの分室, プライア ロジャー / Roger PRIOR / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

プロセスライティングの手法に基づき、独立した文の作成からまとまった文の固まりとしてのパラグラフライティングを学習する。日本語と英語の語彙選択、文法偏向性の違いを理解しつつ文章の中での結束性、展開パターン、主張の仕方、具体例の挙げ方、論理マーカの使用など段落の構成を意識したライティング学習を行う。

教科書 /Textbooks

Success with College Writing (Macmillan Languagehouse)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業において各担当者が指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 Pre-Writing: Getting Ready to Write
- 3 The Structure of a Paragraph
- 4 The Development of a Paragraph
- 5 Review (1)
- 6 Descriptive and Process Paragraphs
- 7 Opinion Paragraphs
- 8 Comparison / Contrast Paragraphs
- 9 Review (2)
- 10 Problem / Solution Paragraphs
- 11 The Structure of an Essay
- 12 Outlining and Essay
- 13 Review (3)
- 14 Introductions and Conclusions / Unity and Coherence
- 15 Final Review

成績評価の方法 /Assessment Method

試験： 50%
課題・小テスト： 40%
授業参加態度： 10%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回授業の予習、復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

英語表現法を履修していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

一般化学

(General Chemistry)

担当者名 /Instructor	秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~), 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科																																			
	大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19~)																																			
履修年次 1年次 /Year	単位 2単位 /Credits	学期 1学期 /Semester	授業形態 講義 /Class Format									クラス /Class																								
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2000</th><th>2001</th><th>2002</th><th>2003</th><th>2004</th><th>2005</th><th>2006</th><th>2007</th><th>2008</th><th>2009</th><th>2010</th><th>2011</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td> </tr> </tbody> </table>												2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011									○	○	○	○
2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011																									
								○	○	○	○																									
対象学科 /Department	【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科																																			

授業の概要 /Course Description

化学の基礎を学ぶために、身近な物質を題材として構造や性質を化学および物理の原理を用いて解説する。まず、身近な有機・無機材料の構造や性質を講義する。いくつかの例についてはどのようにして工業的に製造されるかを説明する。また、暮らしの中の先端材料を紹介し、学生の関心を高める。これらの内容を通じて、複雑そうに見える物質や材料あるいは化学現象でも周期表の見方と化学結合の基礎に立てば、比較的単純な物理や化学の法則を用いて理解できることを学ぶ。

教科書 /Textbooks

講義にて紹介

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義にて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 原子と分子の構造・物質とは
- 2 気体の特徴、気体分子運動論
- 3 化学結合の形成と性質
- 4 固体、液体
- 5 化学変化とエネルギー
- 6 反応速度と化学平衡
- 7 酸と塩基
- 8 酸化と還元
- 9 電解質と電気化学
- 10 有機化学(1)
- 11 有機化学(2)
- 12 有機化学(3)
- 13 有機化学(4)
- 14 有機化学(5)
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 30%
レポート 20%
試験 50% (小試験および講義全体を範囲とした期末試験)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高校での化学1および化学2について十分復習する。

履修上の注意 /Remarks

授業は導入が主体であるので、与えられた教科書により十分復習することが必要である。
特に、エネルギー循環化学科、環境生命工学科の学生については、今後の大学における化学系科目を履修する上で大前提となる科目なので、十分な学習が必要である。
第2学期開講の基礎有機化学(エネルギー循環化学科、環境生命工学科必修科目)では、ここでの有機化学の内容が修得されているものとして講義が進められますので、履修予定の学生はよく理解しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題を考えるとき、物質の化学的变化への認識は避けられません。我々の生活やその他の生命活動、資源の利用などの根本が物質の真の変化に基いていることを理解しましょう。また、化学は本当は単純で理解し易いものです。複雑な化学式を理解しなくても化学は分かるのです。

キーワード /Keywords

微分・積分

(Calculus)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習数学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業の概要 /Course Description

本講義では、2年生から本格的に化学専門講義が開始されるのに先立ち、化学と関係の深い微分・積分を対象とした基礎数学の講義を目的としています。最終的に、微分・積分を含む化学分野の基礎的問題を解く能力を育成することを目標としています。

教科書 /Textbooks

「化学を学ぶ人の基礎数学」 化学同人 (ISBN: 9784759807851)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 履修の注意説明：前半
特殊関数 - 1) 変数と関数の一般形
- 2 特殊関数 - 2) 指数関数・対数関数
- 3 特殊関数 - 3) 三角関数
- 4 微分 - 1) 導関数と還元公式
- 5 微分 - 2) 様々な関数の微分
- 6 微分 - 3) 二次導関数とその応用：気体の状態方程式
- 7 微分 - 4) 偏微分とその応用：化学熱力学の法則
- 8 前半まとめ
- 9 履修の注意説明：後半
積分 - 1) 微分の復習と積分
- 10 積分 - 2) 基本関数の積分・置換積分
- 11 積分 - 3) 部分積分
- 12 積分 - 4) 定積分
- 13 積分 - 5) 積分の応用例
- 14 積分 - 6) 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

判らない点があれば、授業の後に遠慮なく質問して下さい。授業日以外でも教員室にて受付けます。

履修上の注意 /Remarks

前半・後半講義の初回に、各々の担当教員から履修上の注意点を説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学現象はこれをモデル化し、定量的に解析することが要請されます。数学を楽しく克服して良き工学者を目指してください。

キーワード /Keywords

化学実験基礎

(Fundamental Chemical Experiment)

担当者名 /Instructor 浅岡 佐知夫 / Sachio ASAOKA / エネルギー循環化学科, 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19~)
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 開講期が第1学期から第2学期になりますので注意してください。補習化学の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業の概要 /Course Description

化学実験に関する基本的な知識、考え方、技術などを習得する。

教科書 /Textbooks

「実験テキスト」、「化学のレポートと論文の書き方」(監修:小川雅彌ら、化学同人)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 実験ノート・レポートの書き方
- 3 実験器具・試薬の取り扱い方
- 4 重量測定
- 5 温度・熱量測定①
- 6 温度・熱量測定②
- 7 pH測定①
- 8 pH測定②
- 9 吸光度測定①
- 10 吸光度測定②
- 11 中和滴定①
- 12 中和滴定②
- 13 酸化還元滴定①
- 14 酸化還元滴定②
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実験の実施 50%
レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に実験テキストを熟読し、目的や方法などを各自でまとめて実験に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本実験を通して習得する基礎知識、考え方、取り扱い方、まとめ方などは、2年次以降で行われる各種専門実験や卒業研究の基礎となります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学は実験によって進歩してきた学問です。高等学校ではほとんど化学実験が行われなくなっている今、実験がいかに大切で難しいかを体験してもらいたいと思います。

キーワード /Keywords

微分方程式

(Differential Equation)

担当者名 /Instructor 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科, 乙間 未廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

本講義では2年生から本格的に専門講義が開始されるのに先立ち、化学や生物と関係の深い数学分野につき基礎的学力を養うことを目的とする。具体的には、微分方程式を対象とし、数式を実際に使いこなすだけでなく、微分方程式で表される科学現象を理解することを目標とする。

教科書 /Textbooks

初回授業までに掲示等で連絡

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「化学を学ぶ人の基礎数学」(化学同人)、「工業数学上・下」(ブレイン図書出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 微分方程式とは
- 2 常微分方程式の基礎概念
- 3 変数分離による常微分方程式の解法
- 4 一階線形常微分方程式の解法
- 5 完全微分形
- 6 同次線形微分方程式の解法
- 7 非同次線形微分方程式の解法
- 8 前半総括
- 9 微分演算子と逆演算子
- 10 逆演算子による微分方程式の解法
- 11 級数による常微分方程式の解法
- 12 常微分方程式の近似解法
- 13 偏微分
- 14 全微分・完全微分
- 15 応用事例

成績評価の方法 /Assessment Method

宿題・考査 40%
期末テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校の理系の数学(微分・積分を含む)を習得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

宿題を出すので滞りなく提出すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究者・技術者は、現象を理解するだけでなく、それをモデル化し、定量的に解析することも要求される。そのために必要とされる数学的素養をしっかりと身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

化学熱力学

(Chemical Thermodynamics)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~), 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科 【選択】 機械システム工学科

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶものにとっては必要不可欠なものである。本講義では、物理化学の基礎として極めて重要な熱力学について講義する。

教科書 /Textbooks

ポール 物理化学(上) 化学同人 (ISBN978-4-7598-0977-0)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

入門 熱力学-実例で理解する 培風館 (ISBN978-4-5630-4548-7)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 有効数字、次元、単位
- 2 気体と熱力学第0法則 (1)
- 3 気体と熱力学第0法則 (2)
- 4 気体と熱力学第0法則 (3)
- 5 熱力学第1法則 (1)
- 6 熱力学第1法則 (2)
- 7 熱力学第1法則 (3)
- 8 前半のまとめ
- 9 熱力学第2法則と第3法則 (1)
- 10 熱力学第2法則と第3法則 (2)
- 11 熱力学第2法則と第3法則 (3)
- 12 熱力学第2法則と第3法則 (4)
- 13 自由エネルギーと化学ポテンシャル (1)
- 14 自由エネルギーと化学ポテンシャル (2)
- 15 自由エネルギーと化学ポテンシャル (3)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (小テスト等) 20%
中間テスト 40%
期末テスト 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

関数電卓を持参すること。テキストをよく読んでくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要です。講義の中で適宜、演習を行いますので、積極的に取り組み、計算に慣れてください。

キーワード /Keywords

基礎有機化学

(Fundamental Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

有機化学は、化学の中で物理化学や無機化学などと並んで極めて重要な学問領域である。本講義では、有機化合物の構造や反応性について理解し、有機化学の基礎を修得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

現代有機化学(上)第4版(K. ピーター C. ヴォルハルト / ニール E. ショアー) 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 イントロダクション・有機化合物の分類と命名法 (1)
- 2 有機化合物の分類と命名法 (2)
- 3 有機分子の構造と結合 (1)
- 4 有機分子の構造と結合 (2)
- 5 構造と反応性 (1)
- 6 構造と反応性 (2)
- 7 前半のまとめ
- 8 アルカン (1)
- 9 アルカン (2)・シクロアルカン
- 10 シクロアルカン・立体異性体 (1)
- 11 立体異性体 (2)
- 12 ハロアルカンの性質と反応 (1)
- 13 ハロアルカンの性質と反応 (2)
- 14 ハロアルカンの反応 (1)
- 15 ハロアルカンの反応 (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 40% 中間試験直前までの範囲にわたり出題
期末テスト 60% 全範囲にわたり網羅的に出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テキストをよく読み、演習問題を解くこと

履修上の注意 /Remarks

2年次で開講される有機化学I、有機化学IIの基礎となる科目であるので十分に予復習を行い、理解すること。
1年次1学期に開講される一般化学のうち、有機化学分野の内容は理解されているものとして講義を進めていきます。十分に復習しておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テキストに出てくる専門用語や記述の仕方になれることが大事です。そのためによく予習、復習を行うようにしてください。

キーワード /Keywords

基礎無機化学

(Fundamental Inorganic Chemistry)

担当者名 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

環境問題を解決するためには多くの化学製品が活躍しているが、耐久性の観点からその多くは無機物質にてまかなわれている。環境化学材料の基礎となる無機化学のうち、本講義では原子の姿、元素分類、化学結合などについて講義するが、特に反応に関与する基礎的な電子状態についての理解をすすめることを目標としている。

教科書 /Textbooks

(基礎化学シリーズ9) 基礎無機化学 佐々木義典、他著 朝倉書店)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ムーア 基礎物理化学 上・下巻 Walter J. Moore著、細谷治夫ら訳、東京化学同人)
ベーシック無機化学 鈴木普一郎・中尾安男・櫻井武著 化学同人
Rock and GEM, Ronald Louis Bonewitz , DK Publishing

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 原子の姿 ポーアの酸素模型とエネルギー順位
3. 原子の姿II 波動方程式と軌道の形
4. 原子の姿III 波動方程式と軌道の形
5. パウリの排他則とフント則
6. 周期律表
7. 原子軌道と蛍光X線
8. 前半総括
9. 元素各論
10. 元素各論II
11. 元素各論III
12. 元素各論IV
13. 放射性同位体と原子力発電
14. 化学結合I
15. 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 45%
期末試験 55%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特記事項なし

履修上の注意 /Remarks

講義はパワーポイントファイルの映写と板書を併用して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学の基礎は、原子周囲を取り巻く電子軌道の理解から始まります。波動方程式なども扱いますが、まず式の持つ意味、電子軌道の概形の理解、個別元素の特性理解を進めましょう。二年の無機化学・演習に内容が繋がっていますから、最初で躓かぬよう頑張ってください。

キーワード /Keywords

環境と科学

(Environment and Sciences)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科, 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科
伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19 ~), 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~)
安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

科学は新しい発見や技術開発を通して人類を豊かに幸福にしたが、一方で環境汚染など様々な問題も引き起こしている。特に、科学技術を基盤とした人類の活動は、21世紀に入り地球の環境容量を越えるまで拡大してきた。また、従来の技術に基づく資源浪費型社会も行き詰まりを見せてきた。これらの問題に対応するため持続可能な社会が提唱されており、その創造にはこれまでとは異なる視点で科学を活用する必要がある。本科目では、21世紀の科学が目指す方向を学ぶ。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、講義の都度資料を必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境における科学の役割
- 2 地球環境の変遷と将来
- 3 文明崩壊と科学
- 4 大気と科学
- 5 水環境と科学
- 6 土と科学
- 7 資源・エネルギーと科学
- 8 農業・食料と科学
- 9 生物多様性と科学
- 10 環境汚染と科学
- 11 ライフサイクルアセスメントと科学
- 12 持続可能社会の最新技術
- 13 国際環境協力と科学
- 14 自分がすべきことを考える
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニテスト 42% (15分以上の遅刻は欠席とし、ミニテストも0点とする。)
期末試験 58%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で配布する資料を綴り、復習や期末試験の勉強に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

本教科では、環境分野の教員が毎回テーマを変えて環境・資源・エネルギー問題の基礎を講義する。15回全てに出席して完全に習得すること。細かな内容を記憶するのではなく、全体を考える。授業で先生が何を伝えたいかを考える。授業で先生が伝えたいこと(全体)と、それを裏付ける個々のデータ(情報・知識)と相互の関係を把握する。個々のバラバラの暗記は身につかない。講義中は私語をせず、講義に集中すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学科、環境生命工学科に在籍する学生が、本学部で学んでいく上で必要な環境に関する基礎を習得するための科目です。

キーワード /Keywords

物理実験基礎

(Introduction to Physics Experiments)

担当者名 /Instructor
 松永 良一 / Ryoichi MATSUNAGA / 機械システム工学科, 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)
 水野 貞男 / Sadao MIZUNO / 機械システム工学科, 古閑 宏幸 / Hiroyuki KOGA / 情報システム工学科 (19~)
 ゴドレール イヴァン / Ivan GODLER / 情報メディア工学科, 津田 恵吾 / Keigo TSUDA / 建築デザイン学科
 高 偉俊 / Weijun GAO / 建築デザイン学科 (19~), 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department
 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 補習物理の受講対象者は、補習科目の最終判定に合格しない限り単位の修得ができません。

授業の概要 /Course Description

高度に細分化した工学の分野において理解を深めるには、基礎的な物理現象を把握することが何より不可欠である。本授業では、各種物理実験を体験し、測定を主体とする実験法の実習の解析手法を学習する。工学分野の基礎となる物理量の測定を通して様々な計測装置に触れるとともに、測定の進め方、測定データの解析方法、物理現象に対する考察の進め方、レポートの作成方法を習得する。

教科書 /Textbooks

初回のガイダンスの時に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校の物理の教科書や参考書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目： ガイダンス (履修上の諸注意)
 2回目以降： 以下の実験項目より、指定された数種を行う。なお、レポート作成後は指定された日に査読を受けること。修正の指摘に応じレポートを再提出すること。
- ・ 密度測定
 - ・ ボルダの振り子
 - ・ 熱起電力
 - ・ 金属の電気抵抗の温度係数測定
 - ・ Planck定数の測定
 - ・ 強磁性体の磁化特性
 - ・ ダイオードとトランジスタのIV特性

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・52% レポート・・・48%
 (レポート未提出者は、単位を認めない。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

実験を行う前に実験テキストに目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

指定された日に必ず実験を行い、自分の力でレポートを仕上げる。他人のレポートや著作物を丸写し(引き写しともいう)して作成したレポートを提出した場合は単位を認めない。詳しくは初回のガイダンス時に指示があるので、聞き漏らすことのないように注意する事。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在行われている最先端の実験の多くは、これら基本的な測定法の積み重ねといえます。そこで人任せにしたりせず、自分の経験とするよう心がけましょう。この授業での発見と感動が、やがて偉大な大発明へとつながるかも知れないのですから。

キーワード /Keywords

物理, 力学, 重力加速度, 電磁気, 電流, 電圧, 温度, 科学, 密度, 振り子, 熱起電力, 電気抵抗, Planck定数, 磁気, ダイオード, トランジスタ

電気工学基礎

(Introduction to Electrical Engineering)

担当者名 /Instructor 水井 雅彦 / Masahiko MIZUI / 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 機械システム工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

「知っておくと卒業研究で便利な電気の知識」
を講義のテーマに、様々な分野で応用できる電気技術の
周知と習得を目標にしている。
具体的には、
センサで計測した情報の記録・モータ制御を、
パソコンから行う知識を想定する。
受講する皆さんが、様々な研究で活用できる技術を取り扱う。

教科書 /Textbooks

最初の授業で紹介する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「Arduinoをはじめよう」, オライリー・ジャパン, ISBN978-4-87311-398-2
Prototyping Lab 「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ, オライリー・ジャパン, ISBN978-4-87311-453-8

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 電気基礎
2. 電子部品 1 (抵抗)
3. 電子部品 2 (コンデンサ・積分回路(実験))
4. 電子部品 3 (積分・微分回路, 交流回路)
5. RLC回路, 発振
6. センサの種類と特性(実演)
7. まとめ1(前半の復習)
8. モータの特性
9. モータの種類と特性
10. デジタルとアナログ
 11. 論理回路
 12. デジタル回路
 13. カウンタ
 14. 演習
 15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 講義内容の確認テストを行う
期末試験 50% 小テストから出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

これまで学んできた電気の知識を復習しながら, 工学での応用を学びます。
苦手意識をもちず, 毎回受講してください。

履修上の注意 /Remarks

毎回行う小テストの結果が, 成績評価に対して重要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の知識を融合し, 生活を便利にするアイデアを大切にしてください。

キーワード /Keywords

電気, 電子回路, マイコン, Arduino, アナログ, デジタル

力学基礎

(Dynamics)

担当者名 /Instructor 山本 郁夫 / Ikuo YAMAMOTO / 機械システム工学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 機械システム工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

力学はあらゆる工学の基礎であり、力学への正しい理解は、その後の技術者としての正しい志に大きく影響する。本講義では、単に知識の集積物のように見られやすい力学が、しっかりとした原理によって体系付けられていることを学ぶ。本講義は、環境工学の視点から力学問題を捉え、2年時以降で学ぶ機械力学、機械振動学、制御工学、環境メカトロニクスへ進んでゆくための導入科目と位置づける。授業は各学科の学生全てが理解できるように、ポイントを押さえて、わかりやすく教える。

教科書 /Textbooks

環境・ロボット工学のための力学入門、山本郁夫、ヤマガ

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 力学の歴史
- 2 力学のための数学 (微分方程式の解法)
- 3 運動の記述 (位置・速度・加速度)
- 4 運動の法則(力と運動方程式)
- 5 単振動・強制振動・減衰振動
- 6 演習 (運動方程式)
- 7 力学的エネルギー (仕事と力学エネルギーの保存)
- 8 演習 (力学的エネルギー)
- 9 運動量と力積、衝突
- 10 角運動量・円運動
- 11 演習 (運動量・角運動量・円運動)
- 12 剛性と慣性モーメント
- 13 演習 (剛性と慣性モーメント)
- 14 力学の展開 (相対性理論、その他概論)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80%
レポート 20%
欠席 減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

力学がもともと宇宙の調和を求めて生まれたものであり、大変まとまった美しい学問と考えて、その根底にある原理・原則を理解してもらいたい。また、力学原理はあらゆる機械に応用されているので、エンジニアとして社会での活躍を目指して力学原理を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

確率論

(Probability Theory)

担当者名 /Instructor 高島 康裕 / Yasuhiro TAKASHIMA / 情報システム工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 情報メディア工学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 「情報数学同演習」の受講生は、「確率論」と共に、「離散数学(第1学期)」を受講する必要があります。

授業の概要 /Course Description

一見、何の関係も無く発生している様々な事象が、ある一つの枠組みとして議論できることがある。この議論の中心が確率である。また、その関係を抽出することが統計である。本講義では、前半に確率について講義し、後半に統計についての講義を行なう。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に無し

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、確率とは
- 2 離散確率の基本性質
- 3 離散確率の平均と分散
- 4 離散確率の分布
- 5 連続確率：確率密度関数、平均、分散
- 6 連続確率分布
- 7 大数の法則、中心極限定理
- 8 多次元確率：条件付き確率、ベイズの定理
- 9 関連
- 10 標本調査
- 11 検定
- 12 推定
- 13 モンテカルロ法
- 14 応用トピック
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%
講義中の課題：30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

離散数学の内容を理解しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現代では、物事の傾向を「確率」という道具で捉えることが非常に多くなっています。本講義を通じて、この道具を身につけるよう取り組んで下さい。

キーワード /Keywords

認知心理学

(Cognitive Psychology)

担当者名 /Instructor 中溝 幸夫 / NAKAMIZO SACHIO / 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

【テーマ】人間の認知システムの働き。

【授業目標】認知心理学とはどんな科学で、これまでにどんな知識が得られているかを理解すること。認知心理学とは、簡単に言うと、人間の「脳と心の働き」の科学だ。脳と心には、科学的にはまだ未知の部分がたくさん残されている。だから認知心理学は、自分の脳と心の未知なる世界の知的探検と言えるかもしれない。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

1回目の授業のときにリストを配布します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：講義のオリエンテーション
- 2回目：近代科学革命と心理学誕生のドラマ
- 3回目：認知心理学は何を研究しているか
- 4回目：視覚システム(1)：視覚は心理である
- 5回目：視覚システム(2)：イリュージョンの科学
- 6回目：パターン認知
- 7回目：聴覚システムの構造と機能
- 8回目：記憶システム(1)：人生を紡ぐ臓器
- 9回目：記憶システム(2)：記憶の仕組み
- 10回目：言語システムと言語の脳科学
- 11回目：知識表現
- 12回目：感情システム
- 13回目：認知科学の近未来
- 14回目：講義のポイント
- 15回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

コメントカードの数と内容 30%
ビデオ・レポート(課題) 20%
中間試験成績 20%
学期末試験成績 30%
総合的に評価して、単位を認定します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

原則として、1年次に「心理学」を受講すること。

履修上の注意 /Remarks

毎回の授業で、コメントカードを提出してもらいます。カードには、講義の評価、要約、質問、感想などを記入します。全ての授業に出席することを単位認定の前提にします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学時代に自分がどんな人間であるか(知的能力・性格・興味・関心・身体能力)をしっかりと認識しよう！

キーワード /Keywords

基礎生物化学

(Introduction to Biological Chemistry)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

生物内では膨大な化学反応が効率的に営まれ、生命活動を維持しています。本講義では、生命活動の基本となる生体分子（アミノ酸、タンパク質、糖質、脂質、核酸）の化学、および生体膜の特徴と酵素反応を学ぶことによって、生物化学の基礎知識を習得します。

教科書 /Textbooks

後日、指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 導入（生物化学の重要性）
2. 生体分子と水
3. アミノ酸 1（構造と分類）
4. アミノ酸 2（性質）
5. タンパク質 1（構造）
6. タンパク質 2（性質）
7. タンパク質 3（解析）
8. 糖質
9. 前半の復習、確認テスト
10. 核酸 1（構造）
11. 核酸 2（性質）
12. 脂質
13. 生体膜
14. 酵素
15. 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示。

履修上の注意 /Remarks

毎回プリントを配布するので、必ず復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、我々の体の中で起こっている現象を理解するための学問です。また、環境と生体は密接な関係にあり、環境技術を学ぶ中で生命現象を理解しておくことは非常に重要です。

キーワード /Keywords

基礎化学工学

(Introduction to Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

化学工学の目的とその学問体系について概説する。また、化学工学を習得するために不可欠な物質収支・エネルギー収支などの工学計算を、単位系 (SI単位) を意識して行えるようにする。さらに、化学装置内の流れを理解するために、流体の分類、流動状態、および流体の圧力損失などについて学習する。

教科書 /Textbooks

基礎化学工学 (化学工学会編) 培風館 (ISBN 978-4-5630-4555-5)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学工学 改訂第3版 一解説と演習一 朝倉書店 (ISBN 978-4-2542-5033-6)
 化学工学の計算法 (化学計算法シリーズ) 東京電機大学出版局 (ISBN 978-4-5016-1690-8)
 ベーシック化学工学 化学同人 (ISBN 978-4-7598-1067-7)
 はじめて学ぶ化学工学 工業調査会 (ISBN 978-4-7693-4202-1)
 化学工学便覧 改訂六版 丸善 (ISBN 978-4-6210-4535-0)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 進め方の説明、化学工学の目的とその学問体系
- 2 単位換算
- 3 物質収支 (1)
- 4 物質収支 (2)
- 5 エネルギー収支 (1)
- 6 エネルギー収支 (2)
- 7 前半の復習、確認テスト 1
- 8 流体の圧縮性と粘性
- 9 円管内の流れ (1)
- 10 円管内の流れ (2)
- 11 充填層の流れ
- 12 流れ系のエネルギー収支 (1)
- 13 流れ系のエネルギー収支 (2)
- 14 流体輸送と流体混合
- 15 後半の復習、確認テスト 2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業態度、小テスト等) 30%
 確認テスト 20%
 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

用語・公式・定義などが多いので、確実な理解のために復習して講義に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

計算問題は、基本的に手計算。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工業においてプラントを設計・制御するためには、化学工学の素養が不可欠です。将来、化学分野の技術者を目指している学生は、化学工学の目的とその体系を理解した上で、工学計算が苦まなくできるように努力してください。

キーワード /Keywords

物質収支、エネルギー収支、化学装置内の流れ、工学計算

環境統計学

(Statistics for Environmental Research)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19~), 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

環境に関する研究では、ある事象と別の事象との間に差があるか、判定が必要な場面が多い。たとえば、自動車のアイドリングストップをする
と本当に二酸化炭素排出量が減るか、データをもとに判定する必要がある。実験や調査で得られるデータには、さまざまな誤差が含まれており
、説得力のある結論を示すには、統計的な解析技法でうまく誤差を処理する必要がある。そのための基本的な技法を学ぶ。演習問題として、環
境問題の解析事例を取り上げる予定。

教科書 /Textbooks

石村園子「やさしく学べる統計学」共立出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 母集団と標本、確率の表現1 (例: ポワソン分布)
- 2 母集団と標本、確率の表現2 (例: 二項分布、指数分布)
- 3 データの特徴を捉える (正規確率紙による可視化)
- 2 母集団と標本、確率の表現3 (例: 正規分布)
- 5 正規分布の計算方法 (確率密度関数)
- 6 最小二乗法と回帰直線
- 7 前半の復習、確認テスト
- 8 統計的推定 (よい推定量とは、点推定と区間推定)
- 9 統計的検定 (母平均は狙った値か: 正規分布による検定)
- 10 統計的検定 (母平均は狙った値か: t分布による検定)
- 11 統計的検定 (母平均は狙った値か: t分布による検定つづき)
- 12 統計的検定 (2つの母平均は等しいか: t分布による検定)
- 13 統計的検定 (2つの母平均は等しいか: t分布による検定つづき)
- 14 統計的検定 (発展的問題)、プレ期末テスト
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ポワソン分布、二項分布、指数分布、正規分布

履修上の注意 /Remarks

しっかりと知識を身につけるために原則として毎回テスト (レポート、小テスト、中間テスト) を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境研究や実験データ分析に不可欠な統計学の基本を学ぶ。統計的思考法に慣れてほしい。

キーワード /Keywords

化学平衡と反応速度

(Chemical Equilibrium and Rate of Reaction)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

物理化学は化学の原理を探究する学問であり、化学を学ぶ人にとっては必要不可欠なものである。本講義では化学熱力学に引き続き、化学平衡および反応速度論について学習する。

教科書 /Textbooks

ポール物理化学 (上、下)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「これならわかる熱力学」 鈴木孝臣著 (三共出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス、ギブズエネルギー・化学ポテンシャルの復習
- 2 化学平衡 ①
- 3 化学平衡 ②
- 4 化学平衡 ③
- 5 1成分系における平衡 ①
- 6 1成分系における平衡 ②
- 7 多成分系における平衡 ①
- 8 多成分系における平衡 ②
- 9 演習
- 10 反応速度論 ①
- 11 反応速度論 ②
- 12 反応速度論 ③
- 13 反応速度論 ④
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 20%
期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習および演習を十分に行うこと。授業には関数電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

化学熱力学の履修を前提として講義を進める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

物理化学は原理を理解することだけでなく、それを使って正確な値を導けることが重要である。

キーワード /Keywords

有機化学 I

(Organic Chemistry I)

担当者名 /Instructor 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

基礎有機化学で学んだ分子構造や結合をベースに有機化学反応の反応機構および合成を理解する。特に、求核反応や脱離反応に対する反応機構や速度論や、それに関連した官能基化合物 (例えば、アルコール、アルケン、アルキン、 π 電子系) の反応と性質、合成について解説する。

教科書 /Textbooks

現代有機化学 (上) 第4版 (K. ピーター・C. ヴォルハルト / ニール・E. ショアー) 化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎有機化学 (R. J. Fessenden/J. S. Fessenden) 化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 求核置換反応と脱離反応
- 2 求核置換反応と脱離反応
- 3 アルコール性質、合成および合成戦略
- 4 アルコール性質、合成および合成戦略
- 5 アルコールの反応とエーテルの化学
- 6 アルコールの反応とエーテルの化学
- 7 中間まとめ
- 8 アルケンの反応
- 9 アルケンの反応
- 10 アルキン: 炭素-炭素三重結合
- 11 アルキン: 炭素-炭素三重結合
- 12 非局在化した π 電子系
- 13 非局在化した π 電子系
- 14 例題
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 35%
レポート 20%
期末試験 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

主に練習問題や章末問題を中心に授業を行います。最初のガイダンスでは基礎有機化学のレベルチェックを行います。

履修上の注意 /Remarks

基礎有機化学で学んだ炭素結合や軌道論をよく復習しておくよう努めて欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

今後、高級有機化学反応を学ぶ際の準備として、テキストに登場する新しい用語・人名反応をしっかりと覚えるとともに関連した例題を自分の力で解いてみるのが重要です。

キーワード /Keywords

求核置換反応、脱離反応、アルコール、エーテル、アルケン、アルキン、非局在化

無機化学

(Inorganic Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

周期表に基づき元素の性質について解説する。元素の性質と周期表における位置、近隣の元素との関連性や類似性、化学結合、固体化学について体系的に学び、物質の多様性を合理的に理解する能力を養う。

教科書 /Textbooks

基礎無機化学 佐々木義典著、朝倉書店出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学結合の量子論入門 小笠原正明、田地川浩人著 三共出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 原子の状態
3. 多電子原子の軌道
4. 化学結合の分類
5. イオン結合
6. 共有結合
7. 金属結合
8. 水素結合
9. 配位結合
10. 空間格子
11. 方向指数、面指数
12. イオン結合結晶
13. 共有結合結晶
14. X線回折
15. 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球はほとんど無機物質で構成されており、21世紀には地球環境問題やエネルギー問題の解決がより厳しく迫られる。これらの問題の解決を基礎から支える無機化学の重要性が一層増大することは間違いない。

キーワード /Keywords

原子構造と特性、分子構造と特性、結晶構造と特性、構造解析

物理化学実験

(Experiments in Physical Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓红 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 石川 精一 / Seiichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科
大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

物理化学の各種測定技術や、実験結果の理論的な解析手法を習得し、それを通じて物理化学的な思考ができるよう訓練する。

教科書 /Textbooks

実験テキスト

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

物理化学実験のてびき (化学同人) など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 粘度測定
3. 密度測定
4. pH測定
5. 反応速度
6. 酸解離定数
7. 凝固点降下
8. 分配係数
9. 相互溶解度
10. 粒子径分布
11. 流動状態観察
12. 表面電位
13. 表面積
14. 吸着
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作の実施 50%
レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に実験テキストをよく読んでおくこと。実験に関連する内容について、物理化学の教科書や参考書などを通読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

スタッフの指示に従い、安全に十分注意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実験を通して物理化学の講義で学んだことの理解を深めてください。

キーワード /Keywords

化学工学

(Chemical Engineering)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

本講義では、化学工学のうち「流体と粒子の分離」、「エネルギーと伝熱」について学習する。これらの操作が実際の工業プロセスでどのように使われているかを意識しながら、講義と演習により授業を進める。これらの概念を扱う化学工学的問題に対して正しい数値解を求めることができるレベルを目標とする。

教科書 /Textbooks

基礎化学工学 (化学工学会編、培風館)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない/Not designated

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODakション -工業プロセスと化学工学-
- 2 流れとレイノルズ数
- 3 流体内の単一粒子の運動(1)
- 4 流体内の単一粒子の運動(2)
- 5 気体からの粒子の分離
- 6 液体からの粒子の分離
- 7 粒子系の評価 -分布と平均-
- 8 前半総括
- 9 伝熱(1) -伝導-
- 10 伝熱(2) -対流-
- 11 伝熱(3) -放射-
- 12 熱交換器
- 13 エネルギーの有効利用
- 14 総合演習
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

2年次・第1学期に開講される「基礎化学工学」の内容をよく理解しておくこと。毎回、関数電卓必携。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学工学を理解するには授業を聞くだけでは不十分です。授業の前に予習を行い、授業で演習問題を自分の手で解いていく課程で理解が深まりますので、授業には積極的に取り組んでください。

キーワード /Keywords

分析化学

(Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIKAZU / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

分析化学は、物質をプローブとして物質系からその情報を取り出す方法論に関わる学問であり、自然科学とその応用技術分野を結びつける重要な役割を果たしている。また、環境指標の評価においても不可欠な基礎的学問である。この講義では、物質の分析法の基礎となっている溶液内化学反応について解説し、これを応用した定性的及び定量的な分析法について具体的事例を示しながら講義する。

教科書 /Textbooks

環境分析化学 (合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田共著、三共出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 溶液化学基礎 - 物質量、濃度 -
- 2 溶液化学基礎 - 平衡、活量、イオン強度、活量係数 -
- 3 酸塩基平衡 - 質量作用則、物質収支、電荷均衡 -
- 4 酸塩基平衡 - 弱酸・弱塩基の平衡 -
- 5 酸塩基平衡 - 強酸・強塩基、多塩基・多酸塩基の平衡 -
- 6 酸塩基平衡 - 滴定曲線、酸塩基滴定 -
- 7 演習問題解答会
- 8 前半総括
- 9 酸化還元平衡 - 酸化還元反応、酸化還元電位 -
- 10 酸化還元平衡 - 酸化還元滴定 -
- 11 沈殿生成平衡 - 溶解度積、共通イオン効果、異種イオン効果 -
- 12 錯生成平衡 - 錯体と錯イオン、ルイス酸塩基とHSAB則 -
- 13 錯生成平衡 - 錯生成定数、キレート滴定 -
- 14 演習問題解答会
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験：40%
 期末試験：40%
 演習問題解答：20%
 ※再試験の受験資格は、中間試験と期末試験を受験しており、かつ、出席が2 / 3以上、かつ、総合評価で合格する可能性のある者

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間試験について： 溶液化学基礎、酸塩基平衡および酸塩基滴定についてしっかり勉強しておくこと。
 期末試験について： 酸化還元平衡、沈殿生成平衡、錯生成平衡についてしっかり勉強しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は教科書の他、演習問題やデータ集などのプリントを配布して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境指標を定性的あるいは定量的に評価するための分析化学について、その基礎となる理論から具体的な応用例までをしっかり理解して欲しい。なお、この講義は3年次の環境分析実習、環境保全技術実習と直結しているので、操作法や技術は実践で身につけて欲しい。

キーワード /Keywords

溶液化学基礎、酸塩基平衡、沈殿生成平衡、酸化還元平衡、錯形成平衡

大気浄化工学

(Air Pollution Control Technology)

担当者名 高倉 弘二 / Koji TAKAKURA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 開講期が第2学期から第1学期になりますので注意してください。

授業の概要 /Course Description

大気汚染防止について基礎的な事項を中心に情報・技術を交えながら講義するので幅広い知識を取得することができます。そして、将来環境関連の業務に携わる事を想定して、環境関係の資格(大気関係公害防止管理者等)受験のための基礎学力や知識の取得にも配慮した内容にしており、受験に備えることができます。
また、企業が求める技術者の心得についても少し触れます。

教科書 /Textbooks

大気汚染対策の基礎知識二訂 発行 社団法人 産業環境管理協会
別途、授業用の資料は毎回配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

新・公害防止の技術と法規 大気編 発行 社団法人 産業環境管理協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

8月第2週に実施する4日間の集中講義です。

- 1.大気汚染概論I-1 (公害総論)
- 2.大気汚染概論I-2 (公害総論)
- 3.大気汚染概論II,III (大気概論)
- 4.燃焼と燃焼管理 (大気特論)
- 5.排ガス処理技術SOx,NOx処理
- 6.大気測定技術
- 7.排ガス処理技術集じん技術I
- 8.排ガス処理技術集じん技術II
- 9.排ガス処理技術I (大気有害物質特論)
- 10.拡散等 (大規模大気特論)
- 11.演習問題による総理解①
- 12.演習問題による総理解②
- 13.演習問題による総理解③
- 14.演習問題による総理解④
- 15.総括

成績評価の方法 /Assessment Method

質疑応答 : 15%
期末試験(選択式) : 85%
プレゼンテーション : 加点対象

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

集中講義のため集中力を高める工夫をして下さい。
例えば「十分な睡眠を取る」「前もって教科書を一読する」等

履修上の注意 /Remarks

参加型の授業づくりを目指しており、履修者からの積極的な発言をお願いします。そして、授業の理解度を深めるため、希望者には提示するテーマに沿ってプレゼンテーション(3~5分間程度)する機会があります。これは成績評価の対象になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会は環境をキーワードに動いています。様々な環境情報を身に付けてください。

キーワード /Keywords

大気汚染、排ガス、ばいじん、窒素酸化物、硫酸酸化物

有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19 ~)

櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所

履修年次 2年次 単位 4単位 学期 2学期 授業形態 実験・実習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

/Department

授業の概要 /Course Description

有機化学実験の基礎技術を修得し、それらを組み合わせた応用実験へと展開できる能力を身につけることを目標とする。

教科書 /Textbooks

独自に作成したものを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1週目 安全講習、レポートの書き方、前半の実験内容に関する講義
- 2週目 合成・反応実験 (1)
- 3週目 合成・反応実験 (2)
- 4週目 合成・反応実験 (3)
- 5週目 合成・反応実験 (4)
- 6週目 合成・反応実験 (5)
- 7週目 合成・反応実験 (6)
- 8週目 後半の実験内容に関する講義
- 9週目 合成・反応実験 (7)
- 10週目 合成・反応実験 (8)
- 11週目 合成・反応実験 (9)
- 12週目 合成・反応実験 (10)
- 13週目 合成・反応実験 (11)
- 14週目 合成・反応実験 (12)
- 15週目 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

すべて出席し、実験を行ったものに対して、レポート (試験・口述諮問に代替する場合あり) で評価する。
レポートの評価基準は下記の通りである。

1. 実験内容の理解度・論理性 60%
2. 実験操作に対する理解度 30%
3. 書式・体裁 10%

ただし、締切期限を過ぎて提出されたレポートは評価されない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず、実験の予習を行ってくること。予習内容は、実験で取り扱う反応、操作の原理、操作のフローチャートの作成です。

履修上の注意 /Remarks

実験ですので、出席して実験を行うことが何よりも必要です。したがって、出席が重視されますので、必ず出席し、実験を行ってください。遅刻も厳禁です。欠席1回で単位はつきません。遅刻は3回で欠席1回とみなします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学実験は、正しく行えば安全で楽しいものです。しかし、僅かな誤操作が大きな事故につながる危険性を持っています。きっちりと予習をし、安全に実験を行うことを心がけてください。

有機化学実験

(Experiments in Organic Chemistry)

キーワード /Keywords

反応工学

(Reaction Engineering)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

工業的な化学反応装置から出発し、人体や自然界も、さまざまな化学反応が関与するダイナミックで複雑な反応装置と考えられる。反応工学の基本となる反応速度と温度・濃度との関係や多様な反応装置のしくみについて、身近な例もあげながら学ばせ、反応と拡散の律速過程や同時進行現象について理解させる。

教科書 /Textbooks

「反応工学」 草壁克己・増田隆夫著 (三共出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「反応工学 反応装置から地球まで」 化学工学会監修、小宮山宏著 (培風館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス
- 2 . 反応工学の対象
- 3 . 温度と反応速度 ①
- 4 . 温度と反応速度 ②
- 5 . 演習 ①
- 6 . 濃度と反応速度 ①
- 7 . 濃度と反応速度 ②
- 8 . 演習 ②
- 9 . 反応装置 ①
- 10 . 反応装置 ②
- 11 . 律速過程 ①
- 12 . 律速過程 ②
- 13 . 反応と拡散の同時進行 ①
- 14 . 反応と拡散の同時進行 ②
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題提出 20%
期末試験 80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に教科書を熟読し、不明点を明らかにして授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

関数電卓を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

分離工学

(Separation Engineering)

担当者名 /Instructor 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

目的物質を混合物から分離する操作は、化学工業プロセスの中核をなす重要な操作である。また、分離操作は、化学工業のみならず、製造業や環境保全においても不可欠である。この講義では分離法の中でも特に重要な、ガス吸収・蒸留・抽出・吸着について、化学工学的な観点から学習する。

教科書 /Textbooks

培風館 「基礎化学工学」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

朝倉書店 「化学工学通論Ⅰ」

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 物質の分離の原理と方法
2. ガス吸収 (Henryの法則、二重境膜説)
3. ガス吸収 (吸収装置、充填塔)
4. ガス吸収 (吸収塔の高さ)
5. 吸着 (吸着平衡)
6. 吸着 (速度、回分吸着)
7. 吸着 (固定層吸着)
8. 前半総括
9. 蒸留 (気液平衡、ラウールの法則)
10. 蒸留 (単蒸留、フラッシュ蒸留)
11. 蒸留 (精留)
12. 抽出 (液液平衡)
13. 抽出 (単抽出、多回抽出)
14. 抽出 (向流多段抽出)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テスト 50%
期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回の講義をよく復習し、演習問題をきちんとこなすこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義の理解のためには、基礎化学工学・化学工学を受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では、化学工学系の科目の中で、分離工学と呼ばれる分野を学習します。講義を聞くのみでは理解が難しいかもしれませんが、自分で演習問題を繰り返し解くことで、必ず理解できます。

キーワード /Keywords

構造化学

(Structural Chemistry)

担当者名 /Instructor 黎 晓紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

物質の構成単位である微視的粒子（原子・分子）について、量子化学の観点から解説する。微視的な粒子の世界を支配する法則について学び、物質の構造や反応といった、化学基礎となる問題を理解する能力を養う。

教科書 /Textbooks

物理化学、David W. Ball 東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

物理化学(上)、D. A. McQuarrie・J. D. Simon著、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 原子スペクトル
3. 原子構造
4. 光電効果
5. 量子論
6. 水素原子についてのボールの理論
7. ドブロイの式
8. 波動関数
9. 不確定原理
10. シュレーディンガー方程式
11. 箱の中の粒子
12. 三次元の箱の中の粒子
13. 水素原子のシュレーディンガー方程式
14. 水素原子の波動関数
15. スピン、多電子原子

成績評価の方法 /Assessment Method

最終試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

微視的粒子の運動は、一般の物理学で用いられるニュートン力学の法則に従わず、量子力学の法則に従う。本科目を勉強するとき、ニュートン力学の概念を捨て、量子力学の概念を受け入れることが重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

微視的粒子の世界は我々が日常暮らしている世界（巨視的世界）とはまったく異なっている。このように物質の微視的世界では、量子の概念を用いて物質中の電子のエネルギー準位、元素の周期表を統一的に説明できる

キーワード /Keywords

量子化学、シュレーディンガー方程式、波動関数

機器分析

(Instrumental Analysis)

担当者名 /Instructor 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

環境情報把握には、微量のサンプルを多数、高速分析する必要があり、分析機器を駆使する必要はますます高まっている。本講義では計測分析センターに設置してある分析機器群を中心に、各種分析機器の原理を解説し、前処理を含め分析技法の概略を理解することを目的とする。

教科書 /Textbooks

機器分析のてびき 化学同人 泉美治他 監修

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

粉末X線解析の実際 中井 泉(編集), 泉 富士夫(編集) 朝倉書店
ベーシック機器分析化学 日本分析化学会 近畿支部編 化学同人
走査プローブ顕微鏡と局所分光 重川秀実, 坂田亮, 河津璋 裳華房
他

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨN
- 2 蛍光X線
- 3 単結晶X線回折
- 4 粉末X線回折
- 5 電子顕微鏡
- 6 EPMA
- 7 TG-DTA / DSC
- 8 AFM/STM
- 9 FT-IR
- 10 ESCA/軟X線分光分析
- 11 ICP / 原子吸光
- 12 NMR
- 13 最先端機器分析の現状
- 14 構造解析のための理論 DV-Xaなどの紹介
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習は特に要しない。授業で使用するpptファイルはひびきのe-learningシステム上で配付するので、必要であれば各自ダウンロードすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文研究などで必要となる各種分析機器の原理、前処理、測定限界、精度などについて講義します。

キーワード /Keywords

水質工学

(Water Quality and Engineering)

担当者名 楠田 哲也 / Tetsuya KUSUDA / エネルギー循環化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科
/Department

授業の概要 /Course Description

人や生物が生きていく上に欠かせない水の基本として水質と水質変化について学ぶ。水質変化の素過程として物理的、化学的、生物的過程の基礎を学ぶ。これらをもとに水を利用するため、および水環境を理解するための反応・解析手法を学習する。

教科書 /Textbooks

教科書を指定することがある。授業にて参考資料を必要に応じて配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 水：総論
- 2 反応素過程(1)：物理的過程
- 3 反応素過程(2)：物理的過程
- 4 反応素過程(3)：物理的過程
- 5 反応素過程(4)：化学的過程
- 6 反応素過程(5)：化学的過程
- 7 反応素過程(6)：化学的過程
- 8 反応素過程(7)：生物的過程
- 9 反応素過程(8)：生物的過程
- 10 反応素過程(9)：生物的過程
- 11 モデル化(1)：反応・輸送過程
- 12 モデル化(2)：反応・輸送過程
- 13 モデル化(3)：反応・輸送過程
- 14 水環境への適用(1)
- 15 水環境への適用(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

出席点 0
期末試験 60%
レポート・小試験 40%
小試験、演習問題、レポートを適宜課す

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

化学、生物学は物理学を基礎とするところが多い。そのため本講義においても参照することが多いので、高等学校における物理を習得しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

用語・公式・定義、および原理に関わる基礎事項が多いので確実な理解のためには復習が重要である。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門性を身に着けるには、しっかりとした基礎が必要です。基礎をしっかり身につけると応用が効くようになります。一緒に少し頑張ってみましょう。必ず、満足できます。

キーワード /Keywords

先端材料工学

(Advanced Materials)

担当者名 /Instructor 山本 勝俊 / Katsutoshi YAMAMOTO / エネルギー循環化学科 (19 ~), 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

大きな産業発展は材料に基づくことが多く、これまで様々な材料の開発により社会および生活環境が大きく変化している。その中でナノテクノロジーは、バイオ技術、情報通信技術に並んで、地球の未来を左右する環境・エネルギー問題と深く関わる核心技術である。本講義では、ナノテクノロジーの基盤となるナノ素材の合成、物性などについて解説する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンスとイントロダクション
- 2 ナノポーラス材料 1
- 3 ナノポーラス材料 2
- 4 文献紹介 - ナノポーラス材料 -
- 5 光触媒 1
- 6 光触媒 2
- 7 文献紹介 - 光触媒 -
- 8 前半総括
- 9 機能をもたらす分子I
- 10 機能をもたらす分子II
- 11 機能をもたらす分子III
- 12 分子機能の設計I
- 13 分子機能の設計II
- 14 分子機能を利用した素子開発
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 50%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境分析化学

(Environmental Analytical Chemistry)

担当者名 /Instructor 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

本教科では、分析化学を履修した学生を対象にして、法律に定められた分析法（公定法）を中心に環境汚染物質の分析法を教育する。環境試料中の様々な汚染物質の分析に使用される分析機器の原理、同じ物質でも大気、水質、土壌などで試料毎に異なる前処理法を具体的に学ぶ。また、信頼できる分析値を得るために必要な分析精度管理を理解し、正しい測定値を得るために必要な知識だけでなく、分析依頼者として分析値を評価する知識とノウハウを習得する。

教科書 /Textbooks

環境分析化学（有菌，石橋，門上，古賀，篠原，野見山共著，化学同人）（予定）
教科書が間に合わない場合は、授業前にテキストや参考資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1)環境の化学分析，日本分析化学会北海道支部，三共出版，1998
- 2)環境と安全の科学 演習と実習，及川紀久雄他，三共出版，2007
- 3)環境分析技術手法，日本環境測定分析協会，しらかば出版，2001
- 4)Environmental Chemical Analysis, B.B.Kebbekus, S. Mitra, Chapman & Hall/CRC, 1998

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス，基準項目と分析法（調査の目的・意義，調査計画，調査項目，調査地点，調査時期）
- 2 調査目的，計画とサンプリング（準備，器具，洗浄法，容器，採取・運搬・保存）
- 3 吸光度法，原子吸光
- 4 クロマトグラフィー（GC）
- 5 クロマトグラフィー（HPLC，IC）
- 6 質量分析法（GC/MS）水質試料の分析（常在成分）
- 7 質量分析法（LC/MS，ICP-MS）
- 8 前半まとめ
- 9 水質一般項目（COD，BOD，SS，T-N，T-P，ECなど）
- 10 水質の有害項目前処理（重金属，VOC，CNなど）
- 11 水質の有害項目前処理（抽出，精製，半揮発性化学物質）
- 12 大気の有害項目前処理
- 13 土壌，底質，生物の有害項目前処理
- 14 分析精度管理
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび授業への参加：30点，中間試験：30点，期末試験：40点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

中間試験：前半の授業の内容から出題する。期末試験：全ての授業から出題する。
配布したテキストや資料を用いて，予習・復習を欠かさずに行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語をせず，授業に集中すること。
参加型授業，考える授業を目指し，授業中に質問するので，自分の考えを必ず発表すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境質を評価するための種々の分析について，実際に使用されている方法を中心に講義する。環境分野に就職を希望する学生だけでなく，環境測定値を評価するために必要不可欠な知識である。履修者は，しっかりと勉強してほしい。

キーワード /Keywords

化学演習

(Exercises in Chemistry)

担当者名 /Instructor 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~)
上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科, 李 丞祐 / Seung-Woo LEE / エネルギー循環化学科 (19 ~)
西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

これまでに学んできた物理化学、有機化学、無機化学など、化学の基本的な学問領域について、演習を行うことにより一層理解を深める。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 化学演習 1 物理化学
- 2 化学演習 2 物理化学
- 3 化学演習 3 物理化学
- 4 化学演習 4 物理化学
- 5 化学演習 5 物理化学
- 6 化学演習 6 有機化学
- 7 化学演習 7 有機化学
- 8 化学演習 8 有機化学
- 9 化学演習 9 有機化学
- 10 化学演習 10 有機化学
- 11 化学演習 11 無機化学
- 12 化学演習 12 無機化学
- 13 化学演習 13 無機化学
- 14 化学演習 14 無機化学
- 15 化学演習 15 無機化学

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の演習 60%
レポート 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義中に配付した資料により演習を行う。2年生までに履修した内容を復習しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境分析実習

(Experiments in Environmental Analysis)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIKAWA / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~)
原口 昭 / Akira HARAGUCHI / 環境生命工学科 (19 ~) , 西浜 章平 / Syouhei NISHIHAMA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 4単位 学期 1学期 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境分析の必須項目である一般項目 (SS、TOC、ガス分析など) 分析から、金属成分および非金属成分の分析 (原子吸光分析、比表面積分析、ガスクロ分析など) など、様々な環境指標項目の定性及び定量分析の実習を行う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 実験説明会、安全指導、実験準備
2. 金属イオンのイオン交換分離と原子吸光法による定量分析
3. キレート滴定法による金属イオンの定量分析
4. ゼオライトの合成
5. 廃水処理
6. ガスクロマトグラフィー
7. 室内汚染物質(ベンゼン・アルデヒド類)の定量分析
8. 粒子状物質の定量分析
9. 浮遊物質量(SS)、n-ヘキサン抽出物質測定、全有機炭素量(TOC)、全窒素量(TN)測定
10. 窒素酸化物(NOx)、硫黄酸化物(SO2)の定量分析
11. 三成分液液平衡
12. 土壌分析①
13. 土壌分析②
14. 実験室清掃、後かたづけ
15. 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

実験操作の実施 : 60%
レポート : 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

必ず、事前に実験書の予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

全ての実験について出席した者で、かつ、全てのレポートを提出した者のみ、成績評価対象となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境分析は、水質、土壌 (底質)、大気、騒音の分析から成り立っている。このうち、環境分析実習では、主として水質、土壌、大気分析について様々な分析手法を用いて行う。これらを習得すれば、環境分析のエキスパートとなることのできる。全ての項目についてしっかり学習して欲しい。

キーワード /Keywords

環境分析、定性分析、定量分析、機器分析

電気化学

(Electrochemistry)

担当者名 /Instructor 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

酸化還元やイオンの移動現象に関連する電気化学反応は、電池やメッキなどの日常生活にも関連が深い。化学分析法としても広く利用されている。この講義では、溶液中の酸化還元反応について学習し、化学分析や電池反応を行う上で重要な電気化学反応の基礎について習得する。また、ポテンシオメトリ法、酸化還元ボルタンメトリ法、pH電極、イオンセンサーなど電気化学反応を利用した分析法について講義する。

教科書 /Textbooks

環境分析化学 (合原、今任、岩永、氏本、吉塚、脇田共著、三共出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 電気化学概論
- 2 酸化還元反応① - 講義と演習 -
- 3 酸化還元反応② - 講義と演習 -
- 4 酸化還元電位① - 講義と演習 -
- 5 酸化還元電位② - 講義と演習 -
- 6 酸化還元の演習
- 7 電気化学分析法の概説
- 8 電気化学分析法の各論 - 原理、種類 -
- 9 電気化学分析法の各論 - 構成、応答特性 -
- 10 電気化学分析法の演習
- 11 リチウムイオン電池
- 12 リチウムイオン電池
- 13 燃料電池や未来の電池
- 14 電池の演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 : 80%

演習問題解答 : 20%

※再試験の受験資格は、期末試験を受験しており、かつ、出席が2/3以上、かつ、総合評価で合格する可能性がある者

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

期末試験について： 酸化還元反応、酸化還元電位、電位差分析法に関する演習問題を含めて電気化学分析法の基礎と応用についてしっかり勉強しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は教科書の他、演習問題やデータ集などのプリントを配布して行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

河川や廃水などの環境モニタリングにおいて、特定の無機イオンや有機物を直接分析する場合に適しているがポテンシオメトリやアンペロメトリなどの電気化学分析法である。このような種々の電気化学分析法の基礎となる酸化還元反応や酸化還元電位の理論から具体的な応用例までをしっかりと理解して欲しい。

キーワード /Keywords

酸化還元平衡、酸化還元電位、ポテンシオメトリ、アンペロメトリ、リチウムイオン電池、燃料電池

エネルギー化学プロセス

(Environments & Energy)

担当者名 /Instructor 浅岡 佐知夫 / Sachio ASAOKA / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

産業構造としての「環境」をエネルギー消費量との関係で理解する。また、化学変換とエネルギー変換は環境問題の一つの解答であるという観点から、工業化学の上での具体的問題を取り上げることで、化学プロセス工学を実用学として演習的に理解させる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 水素化精製
- 2 . 水素化分解
- 3 . 接触分解
- 4 . リフォーミング
- 5 . エチレン
- 6 . プロピレン
- 7 . 中間演習
- 8 . エチレンオキシド・エチレングリコール
- 9 . スチレン
- 10 . フェノール
- 11 . パラキシレン
- 12 . ビスフェノールA
- 13 . ポリオレフィン (PE/PP/PS)
- 14 . 期末演習 (ポリアミド)
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 30%
演習 20%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業内容を予測して関係する物質名・反応を調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回小テストを行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

触媒工学

(Catalytic Engineering)

担当者名 /Instructor 朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

触媒は、反応効率を高めたり、副生成物の生成を抑制したりするために化学反応プロセスには不可欠なものである。特に最近では環境改善技術に高性能触媒の出現が望まれている。この講義では触媒を利用したり、触媒プロセスに取り組もうとする場合の予備知識として役に立つことを重要目的として、工業用触媒から生体触媒まで触媒の役割について具体的に説明しながら講義する。

教科書 /Textbooks

新しい触媒化学 (菊池英一他著、三共出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

触媒化学 (御園生誠、斉藤泰和著、丸善)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 触媒化学の概要
- 3 触媒反応プロセス 1
- 4 触媒反応プロセス 2
- 5 エネルギーと化学原料製造のための触媒プロセス 1
- 6 エネルギーと化学原料製造のための触媒プロセス 2
- 7 エネルギーと化学原料製造のための触媒プロセス 3
- 8 エネルギーと化学原料製造のための触媒プロセス 4
- 9 化学品製造のための触媒プロセス - 不均一系触媒反応 - 1
- 10 化学品製造のための触媒プロセス - 不均一系触媒反応 - 2
- 11 化学品製造のための触媒プロセス - 不均一系触媒反応 - 3
- 12 化学品製造のための触媒プロセス - 不均一系触媒反応 - 4
- 13 化学品製造のための触媒プロセス - 均一系触媒反応 - 1
- 14 化学品製造のための触媒プロセス - 均一系触媒反応 - 2
- 15 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の質疑応答 60%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

元素の周期律表を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

触媒へ興味をもってもらうことを第一に考えて講義を行います。

キーワード /Keywords

エネルギー資源化学

(Process Chemistry for Resource Utilization)

担当者名 /Instructor 浅岡 佐知夫 / Sachio ASAOKA / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

地球資源、とくにエネルギー資源としての石炭、石油、天然ガスをめぐる化学、反応化学、プロセス化学を理解する。さらにはダウンストリームである石油化学、化学工業までの産業におけるモノの流れ、化学反応を資源の有効利用のためのプロセス工学の見地から理解する。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「工業有機化学 - 主要原料と中間体 - 」(東京化学同人)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 環境工学・ エネルギー・ 温暖化
- 2 . エネルギー資源概論
- 3 . 石油精製とクリンフューエル
- 4 . 石炭利用と環境問題
- 5 . 天然ガス・ メタンハイドレート
- 6 . 新エネルギー・ 燃料電池
- 7 . 中間演習 (CO2削減)
- 8 . マテリアルフロー
- 9 . 反応化学・ プロセス化学
- 10 . 次世代コンビナート
- 11 . グリーンケミストリー
- 12 . 触媒技術
- 13 . 分析技術
- 14 . 期末演習 (エネルギー資源化学の面からの社会設計)
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

中間演習 25%
期末演習 25%
期末テスト 50%

事前・ 事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

1 , 2年の復習

履修上の注意 /Remarks

応用が主であるから実学として履修するように。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地圏環境論

(The Geosphere Environment)

担当者名 /Instructor 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

地圏は、土と水（地下水）で構成され、動植物生存や人間活動（農産物生産、都市形成など）の基盤となっている。土壌（地圏の特に表層）は水・物質・熱の保持・輸送・浄化機能がある。地圏環境を構成する土壌のこういった物理・化学性に係る基礎を学ぶことを目的として、土壌の性質、水分・化学物質移動などの基礎原理を理解できるように学習する。加えて、昨今の土壌汚染浄化の事例研究も試みる。

教科書 /Textbooks

土壌物理学（宮崎毅ほか著、朝倉書店）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 土と水の性質
- 3 土の保水性
- 4 土中の水分移動 I
- 5 土中の水分移動 II
- 6 土中の溶質移動 I
- 7 土中の溶質移動 II
- 8 中間まとめ・演習
- 9 土中の熱移動
- 10 土中のガス移動
- 11 移動現象の基礎方程式 I
- 12 移動現象の基礎方程式 II
- 13 まとめ・演習
- 14 土壌物理の測定、地圏環境問題
- 15 全体の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 40%
学習態度・レポート等
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

前回の授業内容の復習を行うこと。関数電卓を持参すること。

履修上の注意 /Remarks

適宜、演習を実施し、レポートの提出を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地球環境を構成する大気・土・水の中で土壌物理学は、土と水の一部を取り扱う学問です。土壌に係る現象の基礎を学ぶことで、より地圏環境問題を深く理解できるようになるでしょう。

キーワード /Keywords

水処理工学

(Water Treatment Engineering)

担当者名 /Instructor 石川 精一 / Seichi ISHIKAWA / エネルギー循環化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

水環境の保全と水資源を有効に活用するため、既存の上水道・下水道処理技術や食品廃水、金属廃水を始めとする各種産業廃水処理技術、それに付随する污泥処理技術、最新の高度水処理技術及び水質測定技術等について、それを構成している基礎的な技術について学習する。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、講義の都度資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介する。
吉田隆 (2007) 排水・汚水処理技術集成, エヌ・ティー・エス, 東京.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) 概論
- (2) 沈降分離
- (3) 凝集分離
- (4) 浮上分離
- (5) 污泥脱水
- (6) 活性污泥法
- (7) 散水ろ床法
- (8) 嫌気性消化法
- (9) 活性炭吸着
- (10) イオン交換
- (11) 電気透析法
- (12) 逆浸透法
- (13) 光化学反応
- (14) 塩素処理
- (15) 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 60%
期末試験 40%
学習態度
実施した講義について
全体の講義について

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

事前に、各処理方法について、概要を予習しておく。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各水処理関係操作の基礎的知識及び技術を養う。

キーワード /Keywords

高分子化学

(Polymer Chemistry)

担当者名 /Instructor 秋葉 勇 / Isamu AKIBA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

高分子物質は、今日の生活はもとより、バイオテクノロジーやナノテクノロジーなど、科学の最先端においても必要不可欠な物質である。したがって、高分子化学の基礎を習得することは、将来、化学に関わる研究者、技術者にとって必要不可欠である。本講義では、高分子化合物の生成や反応及び構造など、高分子化学の基礎について講義を行う。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

基礎高分子科学 高分子学会編 東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 高分子化学の概要
2. 高分子の化学構造
3. 高分子の生成反応(1)
4. 高分子の生成反応(2)
5. 高分子の生成反応(3)
6. 高分子の生成反応(4)
7. 高分子の反応
8. 高分子鎖の特性と高分子溶液の性質(1)
9. 高分子鎖の特性と高分子溶液の性質(2)
10. 高分子鎖の特性と高分子溶液の性質(3)
11. 高分子の構造と物性(1)
12. 高分子の構造と物性(2)
13. 高分子の構造と物性(3)
14. 高分子の構造と物性(4)
15. 演習

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%
全範囲にわたり出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

有機化学、物理化学の基礎を復習しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エネルギー循環化学演習

(Chemical Engineering , Energy and the Environment)

担当者名 /Instructor 浅岡 佐知夫 / Sachio ASAOKA / エネルギー循環化学科, 吉塚 和治 / Kazuharu YOSHIZUKA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

黎 暁紅 / Xiaohong LI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 伊藤 洋 / Yo ITO / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

化学が関連してかつ地球規模で進行している環境問題に対して、問題認識とともに具体的対策技術を、反応化学、プロセス化学の面から、最新のトピックスをまじえて演習する。環境化学プロセス工学としての環境論、専門的知見ともの見方・考え方を習得させる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. エネルギー循環化学演習ガイダンス
2. エネルギー循環化学導入 (1)
3. エネルギー循環化学導入 (2)
4. エネルギー循環化学導入 (3)
5. 循環化学演習 (1)
6. 循環化学演習 (2)
7. 分離化学演習 (1)
8. 分離化学演習 (2)
9. 触媒化学演習 (1)
10. 触媒化学演習 (2)
11. エネルギー化学演習 (1)
12. エネルギー化学演習 (2)
13. 環境化学プロセス工学演習 (1)
14. 環境化学プロセス工学演習 (2)
15. 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

演習・課題 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

研究室配属先および卒論審査会での内容を理解する。

履修上の注意 /Remarks

全員参加。授業の順序が変わる可能性あり。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

エネルギー循環化学に関しての卒論準備に取り掛かりましょう。

キーワード /Keywords

エネルギー循環化学実習

(Experiments in Chemical Engineering , Energy and Environments)

担当者名 /Instructor	朝見 賢二 / Kenji ASAMI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科 鈴木 拓 / Takuya SUZUKI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 未定																																			
履修年次 /Year	3年次	単位 /Credits	4単位	学期 /Semester	2学期	授業形態 /Class Format	実験・実習	クラス /Class																												
対象入学年度 /Year of School Entrance	<table border="1"> <thead> <tr> <th>2000</th> <th>2001</th> <th>2002</th> <th>2003</th> <th>2004</th> <th>2005</th> <th>2006</th> <th>2007</th> <th>2008</th> <th>2009</th> <th>2010</th> <th>2011</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> </tbody> </table>												2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011									○	○	○	○
2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011																									
								○	○	○	○																									
対象学科 /Department	【必修】 エネルギー循環化学科																																			

授業の概要 /Course Description

エネルギー、資源循環等に関連する化学プロセスや物質合成の実験技術、環境保全に関する技術を習得する。

教科書 /Textbooks

下記(1)群のゼオライト触媒による芳香族炭化水素のアルキル化反応
下記(2)群のゼオライト合成とキャラクターゼーション
下記(3)群の有機リン農薬分析
に関して、それぞれ別途テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○粉末X線解析の実際 中井泉、泉富士雄 朝倉書店
○機器分析のてびき(1)~(4) 化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実験は大きく以下の3テーマからなり、学生は3グループに分かれて順次3テーマを行う。

(1)群：ゼオライト触媒による芳香族炭化水素のアルキル化反応を、固定床流通式反応装置を用いて行う。キャピラリガスクロマトグラフを用いて反応物、生成物の分析を行い、原料転化率、生成物収率を求め、触媒の作用について学ぶ。

(2)群：複数の合成条件でゼオライト合成を行い、市販のZSM-5ゼオライトとの比較を行う。Na型を合成後、水素置換を行い、それぞれの粉末X線回折測定にて構造同定を、比表面積&細孔分布測定にて比表面積ならびに細孔分布、フィールドエミッション型高分解能電子顕微鏡観察にて外形観察、誘導結合プラズマ発光分光分析計にて組成定量を行う。得られたデータを総合して市販品との性能比較を推察する。

(3)群：有機リン系農薬のJIS法に準拠した分析法を学習する。水試料から対象物質の有機リン系農薬農薬6種を固相抽出し、キャピラリーGC-FPDで測定する。実験内容は、検量線作成、添加回収試験および未知試料の分析などである。これらの実験を通して、微量化学物質分析およびGC測定の基礎、および精度管理を身につける。

以上のほか、化学関連の企業や設備の見学を1日実施する。

成績評価の方法 /Assessment Method

実験への取り組み態度およびレポートにより行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

上記(3)群の有機リン農薬の分析に関しては、前記の「環境分析化学」と本実験テキストを熟読した上で実験に臨むこと。単に実験テキストに従って操作するだけでは、真の技術が身につかず、応用も利かない。

履修上の注意 /Remarks

実験である以上、出席し実験操作を行うことは履修の大前提である。基本的に就職活動等による欠席は認めていないので就職活動を行う学生はスケジュールに留意すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

担当者名 飯田 汎 / Hiroshi IIDA / 非常勤講師
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

21世紀の地球社会を持続発展的に営むために、化学産業はどうあるべきか。
21世紀社会の展望と、産業の役割について、また、技術者の使命感について語ります。

教科書 /Textbooks

飯田汎『ニッポン技術者の使命』丸善 (2005)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

飯田汎『岐路に立つ日本の行方』-再び開拓・創造の躍動感を-
丸善プラネット (2010)
田島慶三『現代化学産業論への道』化学工業日報社 (2008)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【第1回】 1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (1) 6回目の危機にある日本の行方 <日本のビジョン>
"文化・知識・環境融合社会"の創造
- 【第2回】 1.岐路に立つ日本と技術者の使命 (2) 社会と産業をめぐる6つの潮流 <技術者のミッション>
- 【第3回】 2. 人間社会と化学の役割
化学産業の役割と科学技術の使命 ①資源・エネルギーと化学 ②食料問題と化学
- 【第4回】 2. 人間社会と化学の役割
化学産業の役割と科学技術の使命 ③ 健康と化学 ④生活と化学
- 【第5回】 3. 産業構造の変革にむけた化学産業の役割
化学産業の歴史と特徴 ①近代化学工業発展の足跡 ②わが国の化学産業の現状
- 【第6回】 3. 産業構造の変革にむけた化学産業の役割
化学産業の歴史と特徴 ③化学産業の特徴 ④戦後の経済を支えた化学工業
- 【第7回】 4. イノベーションとパラダイムの転換 の意義
(1) 科学技術とイノベーション (2) 成功度仮説とその検証 (3) グローバル化の課題
- 【第8回】 5. 現代社会とイノベーション
文化・知識・環境融合社会の形成にむけた課題 (事例)
(1) 知識社会とイノベーション
①記録・記憶技術 ②バイオ・ゲノム科学 ③ ナノテクノロジー
- 【第9回】 (2) 環境調和社会とイノベーション
①物質の循環とプロセス・イノベーション
②未来のエネルギー資源とその利用
- 【第10回】 (3) 生活文化社会とイノベーション
①高分子材料の高性能・高機能化 ②金属・無機材料の高性能化・高機能化
- 【第11回】 6. 創造革命で世界のイニシアティブを (1) グローバル世界の国々と日本
- 【第12回】 6. 創造革命で世界のイニシアティブを (2) 日本人の心 Jマインド
- 【第13回】 6. 創造革命で世界のイニシアティブを (3) 日本の伝統文化と化学技術
- 【第14回】 6. 創造革命で世界のイニシアティブを (4) 21世紀産業の開拓と化学技術
- 【第15回】 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト、自由記述 40%
最終テスト 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

化学産業技術論

(Chemical Industry Technology)

履修上の注意 /Remarks

- ①4月 4コマ 岐路に立つ日本と技術者の使命(1、2回)
人間社会と化学の役割(3、4回)
- 5月 4コマ 産業構造の変革にむけた化学産業の役割(5、6回)
イノベーションとパラダイムの転換の意義(7回)
現代社会とイノベーション(8回)
- 6月 4コマ 現代社会とイノベーション(9、10回)
創造改革で世界のイニシアティブを(11、12回)
- 7月 3コマ 創造革命で世界のイニシアティブを(13、14回)
まとめ(15回)
- ②4~7月 2日間にわたって4コマの講義を進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の私語禁止、途中退席禁止、前列着席励行

キーワード /Keywords

資源循環工学

(Sustainable Resource Engineering)

担当者名 /Instructor 安井 英斉 / Hidenari YASUI / エネルギー循環化学科 (19 ~) , 大矢 仁史 / Hitoshi OYA / エネルギー循環化学科 (19 ~)

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

豊かで住みよい生活を営み、様々な生産活動や社会活動を持続可能なものとするためには、環境への負荷を最小にして、有限の資源を最大限に活用する資源循環型社会の形成が必要となる。このことを技術面から理解することを目標に、排水と有機性廃棄物の処理システムならびに金属とプラスチック廃棄物のリサイクルシステムについて、原理と基本的考え方を学ぶ。なお、排水と有機性廃棄物の分野では、私たちの社会で最も広く使われている生物学的処理システムに特に焦点を当てて講義を行う。

教科書 /Textbooks

特に指定せず、必要に応じて講義の都度資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 生物学的処理システムの化学1
- 2 生物学的処理システムの化学2
- 3 汚濁物質 (有機物・栄養塩類) を分解する微生物の種類と処理プロセス
- 4 微生物の増殖と汚濁物質分解の関係1
- 5 微生物の増殖と汚濁物質分解の関係2
- 6 生物学的排水処理システムの計算方法1
- 7 生物学的排水処理システムの計算方法2
- 8 排水・有機性廃棄物の資源化技術1
- 9 排水・有機性廃棄物の資源化技術2
- 10 金属・プラスチック類のリサイクル技術概要
- 11 金属・プラスチック類のリサイクルに関する考え方
- 12 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術1
- 13 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術2
- 14 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術3
- 15 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術4
- 16 様々な金属・プラスチック類のリサイクル技術5

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・演習 60%
試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

講義の要点をノートに必ずまとめること。また、これによって授業で学習した数式・反応等を理解すること

履修上の注意 /Remarks

適宜、演習による理解度評価を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目のリサイクルシステム論を予め受講しておくことが望ましい。

キーワード /Keywords

数値計算法

(Numerical Computation Methods)

担当者名 /Instructor 清田 高德 / Takanori KIYOTA / 機械システム工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科

授業の概要 /Course Description

コンピュータを利用した数値計算、数値解析、数値シミュレーションは、工学のあらゆる分野において、重要な役割を果たしている。本科目では、コンピュータを使った数値計算に必要な数値計算法および数値解析の基礎と、微分方程式や連立一次方程式の解法、数値積分法などの基本的なアルゴリズムを学ぶ。

教科書 /Textbooks

「数値計算法」(三井田惇郎・須田宇宙著、森北出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○「Excelによる数値計算法」(趙華安著、共立出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数値計算とは
- 2 誤差、2次方程式の根の公式
- 3 非線形方程式の反復解法(1): 2分法
- 4 非線形方程式の反復解法(2): ニュートン法
- 5 連立1次方程式の解法(1): ガウス・ジョルダン法
- 6 連立1次方程式の解法(2): ガウス・ザイデル法、LU分解
- 7 関数補間と近似式(1): ラグランジュの補間法
- 8 関数補間と近似式(2): 最小2乗法
- 9 数値積分
- 10 常微分方程式(1): オイラーの公式
- 11 常微分方程式(2): ルンゲ・クッタの公式
- 12 常微分方程式(3): 高階微分方程式と連立微分方程式
- 13 常微分方程式(4): 境界値問題
- 14 浮動小数点数
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート2回 60% 2回とも提出することが条件
 期末試験 40% 得点が低い場合は不合格
 演習 未提出は減点

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

線形代数、微分・積分学、微分方程式の知識を前提とする。

履修上の注意 /Remarks

講義中の演習で使用するので、電卓を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

機械システム工学科の学生は、「数値計算法演習」と一緒に受講すると、理解が深まります。

キーワード /Keywords

環境保全学

(Environmental Conservation)

担当者名 /Instructor 竹内 真一 / Shinichi TAKEUCHI / 非常勤講師, 周 国云 / Guoyun ZHOU / 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

都市や国土の緑地保全、景観保全、屋上緑化空間の形成・維持など、豊かな緑と生物の多様性を確保した生態系からなる緑地を創造する技術および維持管理の手法を学ぶ。また、土壌、水、生態系、人間活動等、多様な空間情報をデータベースとして管理し、専門家のみならず多くの関係者と情報共有を可能とし、また様々な解析を可能とするツールである地理情報システム (GIS) の修得は、環境保全に必須といえる。これについては、多くの演習をこなしながら修得させる。2名の講師が分担して教える。

教科書 /Textbooks

各教員が配付資料を準備する。また、必要に応じて教科書を初回講義で指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各教員の初回講義で指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. ビオトープの保全・創出 (I) ビオトープの定義とビオトープの創出事例
3. ビオトープの保全・創出 (II) ビオトープの事例と生き物調査の事例
4. 緑地の創造・造園学 (I) 造園学概説
5. 緑地の創造・造園学 (II) 様々な造園技術の紹介
6. 緑地の創造・造園学 (III) 造園分野の研究紹介と造園施工事例
7. 都市の緑化技術 (I) 環境緑化技術の紹介
8. 都市の緑化技術 (II) 屋上・壁面緑化に関する研究紹介
9. 環境保全と空間情報 (地理情報システム) について
10. GISの基礎知識 (データモデル、ベクトルデータの構造、地理参照)
11. GISデータの表示 (ラベル、分類シンボル、投影法、レイアウト)
12. 検索と解析 (空間検索、属性検索、インターセクト、ディゾルブ、バッファ等)
13. データの作成と構築 (XYデータの追加、自動と半自動データ変換)
14. プロジェクト演習 1 北九州市の土地利用変遷の解析
15. プロジェクト演習 2 地下水汚染の管理システムの作成と運用演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の課題 50%
レポート 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々な環境保全事例 (ビオトープ・庭園・緑化事例など) を事前に見ておくこと。

履修上の注意 /Remarks

集中講義で開講する。後半は、パソコンを操作しながら講義と演習を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生物化学

(Biochemistry)

担当者名 /Instructor 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

本講義では、「基礎生物化学」で学んだ内容を基礎に、生体内で起きるエネルギー代謝など化学反応についての詳細を学び、生物化学からみた生命像の理解を目指す。具体的には、解糖系、クエン酸回路、電子伝達系、光合成など代謝とエネルギー生産の基礎、生体分子の合成と分解など物質代謝の基礎、遺伝子の発現と複製など、機能面から生物化学に関する知見を深める。また、物質輸送、細胞内情報伝達、遺伝子発現制御による代謝制御の仕組みについても学び、動的な生命現象の理解を目指す。

教科書 /Textbooks

田宮信雄他訳「ヴォート基礎生物化学」第3版、東京化学同人

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Albertsら著、中村・松原監訳「細胞の分子生物学」第5版、ニュートンプレス
福岡伸一監訳「マッキー生化学」第4版、化学同人
生化学辞典第4版、東京化学同人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (1) イントロダクション 「生物化学とは」、
「生命の誕生と生化学」、
「生化学反応の場としての細胞とオルガネラ」
- (2) 代謝とエネルギー I 解糖系と糖新生
- (3) 代謝とエネルギー II TCA回路
- (4) 代謝とエネルギー III 電子伝達系とATP収支
- (5) 代謝とエネルギー IV 光合成 (1)
- (6) 代謝とエネルギー V 光合成 (2)
- (7) 生体分子の合成と分解
- (8) 前半の復習、確認試験
- (9) 生体膜と物質輸送
- (10) 細胞内情報伝達を担う分子たち
- (11) 遺伝情報と遺伝子
- (12) 遺伝子の発現と複製 (1)
- (13) 遺伝子の発現と複製 (2)
- (14) 遺伝子発現制御と代謝制御
- (15) まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題、レポート 20% 適宜指示する (2回程度)
確認試験 40% 第1回~7回の範囲から出題
期末試験 40% 主に第9回以降の範囲から出題

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

教科書の「IV代謝」と「V遺伝子の発現と複製」の範囲を読んで十分な予習をすること。また、配布物およびワークシートに従って予習と復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年次の「基礎生物化学」の内容をよく復習して講義に臨んでください。

キーワード /Keywords

統計熱力学

(Thermodynamics and Statistical Mechanics)

担当者名 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【必修】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

統計熱力学について学ぶ。熱力学の知識の上にたち、統計熱力学は、多数の原子・分子から構成されている物質の特性を微視的状態の集合として捕らえる考え方の基礎について学ぶ。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

化学系の統計力学入門 Benjamin Widomt著 甲賀研一郎訳

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 熱力学の復習 (1) 第 1 法則
- 2 熱力学の復習 (2) 第2法則
- 3 熱力学の復習 (3) 熱力学関数
- 4 熱力学の演習
- 5 ボルツマン分布則と分配関数 (1)
- 6 ボルツマン分布則と分配関数 (2)
- 7 分配関数の応用
- 8 理想気体の統計熱力学 (1)
- 9 理想気体の統計熱力学 (2)
- 10 演習 (講義第 1 回 ~ 第 9 回)
- 11 分配関数と平衡定数
- 12 高分子鎖の統計力学
- 13 演習 (講義第11回 ~ 第12回)
- 14 演習 (全体)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 60%
授業態度 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

講義は板書と配布資料でおこなう。必ず出席をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

熱力学の分子論的根拠を与える重要な分野であり、ボルツマン統計をしっかりと学んで欲しい。

キーワード /Keywords

分子生物学

(Molecular Biology)

担当者名 /Instructor 平野 雄 / Takeshi HIRANO / 環境生命工学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 環境生命工学科 【選択】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

分子生物学は現代の生命科学の基礎となる学問である。分子生物学に関する知識としてこれだけは理解して欲しいという点を中心に講義をする。

教科書 /Textbooks

資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . 分子生物学概論
- 2 . 分子生物学の歴史
- 3 . DNAの構造と機能
- 4 . RNAの構造と機能
- 5 . 転写：RNAの合成
- 6 . 翻訳：タンパク質の合成
- 7 . DNA複製
- 8 . 遺伝子の変異と修復
- 9 . 遺伝子の組換え
- 10 . 細菌の分子生物学
- 11 . 真核生物の分子生物学
- 12 . 遺伝子と病気 (1)
- 13 . 遺伝子と病気 (2)
- 14 . 遺伝子関連法規
- 15 . まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 40%
試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

配布資料を予習、復習に活用し、授業の理解を深めること

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

テレビや新聞、インターネットなどで紹介されるバイオ関連のニュースにも関心を持ってください。この講義で習得した知識が生きたものとなります。

キーワード /Keywords

有機化学 II

(Organic Chemistry II)

担当者名 /Instructor 櫻井 和朗 / Kazuo SAKURAI / 環境技術研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

化学の最も重要な基礎学問の一つである有機化学を発展的に理解し、官能基の化学反応に関して、反復演習によって理解力を積み上げる。随時、有機化学の応用分野である、生物学や医学、工学での実例を紹介する。

教科書 /Textbooks

ボルハルト・シヨアー現代有機化学(下)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講師より随時提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ベンゼン環と芳香族求電子置換反応
- 2 ベンゼン環の置換基の位置選択性
- 3 芳香族の化学の演習
- 4 アルデヒドとケトン(1)
- 5 アルデヒドとケトン(2)
- 6 エノラートとアルドール縮合(1)
- 7 エノラートとアルドール縮合(2)
- 8 カルボン酸の化学(1)
- 9 カルボン酸の化学(2)
- 10 アミンの化学(1)
- 11 アミノの化学(2)
- 12 Claisen縮合とエノラート(1)
- 13 Claisen縮合とエノラート(2)
- 14 演習
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 60%
授業態度 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

予習・復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

有機化学は化学の最も重要な基礎学問の一つである。化学系の専門分野での仕事には不可欠な学問分野であることを十分に自覚して講義にのぞむこと。

キーワード /Keywords

環境政策概論

(Introduction to Environmental Policy and Administration)

担当者名 /Instructor 乙間 末廣 / Suehiro OTOMA / 環境生命工学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境政策および法制度では、新しい政策課題に対応する形で、さまざまな原則が提案され、新しい制度が導入されつつある。本科目では日本の基本的な環境政策の動向、問題の状況、法的な枠組み、さらには国際的な動向について概説する。具体的な分野としては、温暖化、廃棄物、化学物質などを中心とする。関連する新聞記事の解説も行い、報道内容が的確に理解できるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

特に指定はしない。Moodle等により資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

大塚直「環境法」有斐閣、阿部泰隆・淡路剛久「環境法」有斐閣など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、国籍訴訟
- 第2回 日本の法制度の枠組み
- 第3回 わが国の公害、環境政策の変遷(その1)
- 第4回 わが国の公害、環境政策の変遷(その2)
- 第5回 わが国の公害、環境政策の変遷(その3)
- 第6回 わが国の公害、環境政策の変遷(その4)
- 第7回 わが国の公害、環境政策の変遷(その5)
- 第8回 地球温暖化(その1:現象とメカニズム)
- 第9回 地球温暖化(その2:国際協調)
- 第10回 地球温暖化(その3:COPと議定書)
- 第11回 地球温暖化(その4:IPCC報告書)
- 第12回 循環型社会とリサイクル
- 第13回 リサイクル法
- 第14回 化学物質管理政策
- 第15回 まとめと質問

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 40%
試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

特になし

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境関連の時事問題に関心を持ち、問題の核心を理解し、今必要な政策は何かを考える学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

微生物学

(Microbiology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

土壌、河川、海、空気中など地球上の至るところに微生物は存在しており、その微生物の種類は約20万種ともいわれている。微生物は多種多様な物質を栄養源として生育していることから、通常では高等動植物が存在できない極限環境にも幅広く生息している。本講義では、微生物の種類と基本的な性質について解説する。更に微生物は様々な工業分野で広く利用されており、私たちの暮らしに欠かせないものであることを理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ブラック微生物学 (丸善)、バイオのための基礎微生物学 (講談社サイエンティフィク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 裏切らない微生物の可能性
2. 微生物の分類と性質
3. バクテリア①構造と生活環
4. バクテリア②病原性細菌I
5. バクテリア③病原性細菌II
6. バクテリア④病原性細菌III
7. ウイルス・寄生虫
8. 前半の復習、確認試験
9. カビ・キノコ類
10. 酵母・放線菌
11. 微生物の利用①アルコール発酵I
12. 微生物の利用②アルコール発酵II
13. 微生物の利用③有機酸発酵
14. 微生物の利用④その他
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (50%)
確認試験 (30%)
授業態度・課題 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示をする。

履修上の注意 /Remarks

授業では幅広い内容を取り上げるため、専門書等を用いて復習することにより理解をさらに深めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義において微生物に関する理解を深め、私たちの暮らしに微生物は欠かせないものであることを認識してほしい。そしてこのような微生物をどのような形で活用していけば、私たちの生活に役立つか考えてほしい。

キーワード /Keywords

微生物、発酵、食品衛生

環境シミュレーション

(Environmental Computer Simulation)

担当者名 /Instructor 野上 敦嗣 / Atsushi NOGAMI / 環境生命工学科 (19 ~) , 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

コンピュータ実験により、複雑と思われた自然現象や社会的現象が実は簡単な法則や規則の積み上げで起こることを理解する。まず、人工的な幾何学形状や自然界にある不定形なもの、情報や知識がコンピュータの中でどう表現するか学び、それらを動かす基本的な法則やアルゴリズムを学習する。その際、フラクタルやモンテカルロ法などの確率論的な手法も重視する。自らプログラムを実行して考察するプログラム教材を毎回用意しており、宿題演習することでシミュレーションの面白さを実感できる。

教科書 /Textbooks

講義資料配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ハーベイ・ゴールド「計算物理学入門」、講義資料配付

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 計算機シミュレーションの歴史、簡単な例 (コーヒーの冷却)
- 2 粒子の運動 (2 体問題、3 体問題) : 惑星の運動、価電子の運動
- 3 振動とカオス : 高精度積分法、非線形系、ロジスティック曲線
- 4 幾何学的物体の表現法 : メッシュ分割、立体の可視化
- 5 不定形物の表現法 : 画像、フーリエ変換、電子波動関数
- 6 多粒子系の動力学 : 気体・個体の分子運動、相変態 (融解)
- 7 確率的現象 : ランダムウォーク、拡散
- 8 数値積分とモンテカルロ法 : 最適化問題、光線の屈折
- 9 統計的検定 : 正確確率法とミルクティー問題
- 10 地理的分布 : カーネル密度推定と犯罪率地図作成
- 11 学習モデル : バイズの定理、神経回路網
- 12 フラクタル : 自己相似性、フラクタル次元、DLAクラスター
- 13 複雑性 : 臨界現象、人工生命
- 14 全く異なる計算モデル : 生態系、銀河系 ~ まとめ
- 15 まとめと復習

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週の宿題及び授業内演習 60%
期末試験 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

本授業の宿題はExcelおよびExcelマクロ (Visual Basic) を用いる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コンピュータの中に身の回りの自然現象や人間の社会システムを再現する基本的なモデルをゲーム感覚で学んでください。これにより、コンピュータによる思考実験の結果を価値判断できるセンス (何が使える情報で、何が使えないのか) を養ってほしい。

キーワード /Keywords

環境リスク学

(Environmental Risk Management)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19 ~) , 門上 希和夫 / Kiwao KADOKAMI / エネルギー循環化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

有害化学物質や重金属などの環境汚染物質のリスクを正しく評価・理解して適切に選択・行動できるだけでなく、情報を正確に伝える技術が必要である。日常行動に伴うリスク、化学物質のリスクなどを例にとり、リスクの大きさに基づいて行動する重要性を認識する。さらに、人の健康リスクを評価するための有害性評価、暴露評価、リスク評価の手法について学び、化学物質管理やリスクコミュニケーションの事例を通して学習する。

教科書 /Textbooks

東海明宏・岸本充生・蒲生昌志「環境リスク評価論」大阪大学出版会、2100円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

矢野昌彦「リスクマネジメント・システム」大阪大学出版会、中西準子他「演習環境リスクを計算する」岩波書店、吉田喜久雄・中西準子「環境リスク解析入門」東京出版、ほか講義中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境リスクと化学物質のリスク
- 2 リスクアセスメント
- 3 リスクアセスメントの事例
- 4 リスクアセスメントとデータ
- 5 ばく露評価
- 6 ヒト健康影響評価
- 7 環境生態影響評価
- 8 リスクの表現と判定
- 9 リスクマネジメント
- 10 リスクコミュニケーション①
- 11 リスクコミュニケーション②
- 12 リスクアセスメントのためのシステム
- 13 社会経済分析・費用効果分析
- 14 環境リスクと企業活動
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 20%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

説明が分からなかったところはそのままにせず、教員への質問や復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

日常生活の中で環境リスクに関する事項に関心を持つこと。例えば、ニュースや新聞記事に日頃から注意する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

化学物質を扱う企業だけでなく、一般環境や日常生活の中にも環境リスクは存在する。国際社会・地域社会における環境リスクの評価や管理の方法を学びたいという学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

錯体化学

(Coordination Chemistry)

担当者名 /Instructor 磯田 隆聡 / Takaaki ISODA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 環境生命工学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

錯体化現象は、無機化学、有機化学、物理化学、生物化学、分析化学等、様々な学問分野を含む、境界領域的な分野です。本講義では時間の制約上、金属イオンと有機物からなる錯体分子の基本事項（電子配置、化学構造、物性）について、前半では無機化学の観点から指定教科書を用いて習得します。また後半では、錯体分子の光や磁気についての特異的な性質の発現機構について学びます。

教科書 /Textbooks

化学教科書シリーズ 第2版 無機化学概論 (小倉興太郎 著、丸善出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

-

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 講義の説明、履修のポイント
- 2 錯体化学の基礎① 遷移金属の原子軌道
- 3 錯体化学の基礎② 電子配置の法則① (Pauliの排他原理)
- 4 錯体化学の基礎③ 電子配置の法則② (Hundの法則)
- 5 錯体化学の基礎④ 電子配置の法則③ (d軌道の電子配置)
- 6 錯体化学の基礎⑤ d軌道の混成軌道
- 7 演習1 (錯体化学の基礎①~⑤の理解度確認)
- 8 錯体化学の応用① エネルギー準位の考え方
- 9 錯体化学の応用② 錯体の形成と物性 (フェロセンの考察例)
- 10 錯体化学の応用③ 配位結合
- 11 演習2 (錯体化学の応用①~③の理解度確認)
- 12 錯体化学の応用④ 結晶場理論
- 13 錯体化学の応用⑤ 結晶場理論
- 14 演習3 (錯体化学の応用④⑤の理解度確認)
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

評価項目：配点：比率
 平常点(10点満点)：1点×10回：10%
 演習点(40点満点)：第1回20点+2回10点+3回10点：40%
 期末試験(50点満点)：50点：50%
 ※比率の合計は100%

※注 レポート、追試等の措置は行わないので、講義に毎回出席し、演習を必ず受けること

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

-

履修上の注意 /Remarks

解らない点がある場合は授業の後に遠慮なく質問して下さい。質問は授業日以外でもS109教員室にて受け付けます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義では2年生前期までに学習した無機化学の基礎について、繰り返し、丁寧に解説し、演習で理解の確認をします。皆さんが今後、卒論や修論を通じて生物や化学の専門分野に入る前に、基礎事項をしっかりと身につけてくれることを期待しています。本学大学院試の選択問題に錯体化学を毎年出題します。環境生命工学科では選択科目ですが、大学院進学を予定している学生は特に受講を薦めます。

キーワード /Keywords

遺伝子工学

(Genetic Engineering)

担当者名 /Instructor 平野 雄 / Takeshi HIRANO / 環境生命工学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

過去半世紀にわたって築き上げられた分子生物学は、それを基本とした遺伝子工学の発展により社会に貢献している。本講義を通じて遺伝子工学の基本を学び、それを利用、さらには応用する力を養う。

教科書 /Textbooks

講義の中で適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 遺伝子工学概論
- 第 2 回 細胞の構造と機能
- 第 3 回 遺伝子の構造
- 第 4 回 遺伝子発現の仕組みと制御
- 第 5 回 遺伝子操作の基本I
- 第 6 回 遺伝子操作の基本II
- 第 7 回 遺伝子の塩基配列決定法
- 第 8 回 遺伝子増幅法
- 第 9 回 遺伝子導入ベクター
- 第 10 回 遺伝子組換えによるタンパク質生産
- 第 11 回 細胞への遺伝子導入
- 第 12 回 遺伝子改変生物
- 第 13 回 遺伝子工学の応用
- 第 14 回 遺伝子工学に関わる倫理、規制など
- 第 15 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 60%
積極的な授業参加 40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

専門性の高い分野です。予習、復習が不可欠です。

履修上の注意 /Remarks

分子生物学の知識が基礎となります。それらを理解していることが前提です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

バイオテクノロジーを極めたいと思う学生は、熱意を持ってこの講義に臨んでください。

キーワード /Keywords

生態工学

(Ecological Engineering)

担当者名 /Instructor 上田 直子 / Naoko UEDA / 環境生命工学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

生物学・生態学の見方を通して、人間活動と自然生態系の関わり方を学ぶ。本講義では、自然環境の保全や修復のための、生態系の仕組みや機能を紹介し、生態系の機能を強化し、破壊された生態系を修復し、生態系の機能を利用する様々な方法について理解する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

環境修復のための生態工学、河口・沿岸域の生態学とエコテクノロジー、エコテクノロジーによる河川・湖沼の水質浄化

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 はじめに
- 2 ビオトープによる環境修復1
- 3 ビオトープによる環境修復2
- 4 湖沼生態系の保全と管理1
- 5 湖沼生態系の保全と管理2
- 6 河川生態系の保全と管理1
- 7 河川生態系の保全と管理2
- 8 前半のまとめ、確認テスト
- 9 干潟生態系の保全と管理 1
- 10 干潟生態系の保全と管理2
- 11 森林生態系の保全と管理
- 12 エコテクノロジーの応用1
- 13 エコテクノロジーの応用2
- 14 エコテクノロジーの応用3
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 30%
期末テスト 50%
平常点 (授業への積極的参加) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

生態学 (1年次2学期開講) が基礎となっている講義科目であるので、事前に生態学を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生態工学は人類と自然との共生を可能にする技術であり、21世紀に発展が期待されている工学です。

キーワード /Keywords

環境計画学

(Environmental Planning)

担当者名 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科
/Department

授業の概要 /Course Description

環境計画を考える上で、必要となる意志決定ツールを中心に修得する。まず、都市や国土を規定している都市計画、国土計画の諸制度の成り立ちとその実際について学ぶ。次いで、投資判定分析、費用便益分析、多目的意志決定手法などについて学ぶ。さらに、従来経済価値を認めてこなかった環境資源の扱いも重要な課題であり、そのための環境の経済評価手法について、その基本的な概念と手法を修得する。また、合意形成プロセスのための手法と実際についても講究する。

教科書 /Textbooks

田中勝 編著「循環型社会評価手法の基礎知識」技報堂出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

多数 (講義中に指示する)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境計画をめぐる諸状況
- 2 持続可能性評価指標
- 3 物質フロー分析
- 4 物質フロー分析
- 5 ライフサイクルアセスメント
- 6 ライフサイクルアセスメント
- 7 費用便益分析
- 8 費用便益分析
- 9 同上 演習
- 10 リスクアセスメント・リスク便益分析
- 11 環境経済評価手法
- 12 環境経済評価手法
- 13 多目的意志決定手法
- 14 合意形成
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (授業への積極的参加) 10% ※2/3以上出席すること
小テスト・レポート 30%
期末試験 60%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業毎に指示する。

履修上の注意 /Remarks

必要に応じて、関数電卓、PC (Excel)を使用することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済縮小・人口縮小時代が到来し、社会資本ストックの更新期を迎える中で、持続可能型社会の形成という21世紀の課題に答えるべく、「社会をどのように再構築するか」「開発か環境資源を保護すべきか」といった問題に取り組むためのツールを学びます。

キーワード /Keywords

環境経営学

(Sustainable Management)

担当者名 /Instructor 二渡 了 / Tohru FUTAWATARI / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科 【選択必修】 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

環境経営とは、環境保全活動を推進するだけでなく生産、調達、販売、財務などを通じて経営のあらゆる場面で環境に配慮し、環境活動を通じて経営改善を図ることである。環境マネジメントシステムや環境監査、環境会計、環境報告書、ライフサイクルアセスメント、環境適合設計、環境ラベル、グリーン購入・グリーン調達など様々な環境経営支援手法がある。本講義では、それらの概要を理解する。

教科書 /Textbooks

岡本眞一編著「環境経営入門」日科技連、1995円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

國部克彦他「環境経営・会計」有斐閣アルマ、ほか講義中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 環境とその管理
- 2 環境と経済
- 3 環境問題と経営
- 4 環境問題と企業
- 5 企業の環境経営・社会的責任経営
- 6 環境ビジネス
- 7 環境マネジメントシステム①
- 8 環境マネジメントシステム②
- 9 環境会計
- 10 環境リスク管理と環境コミュニケーション・環境報告書
- 11 製品の環境配慮・環境適合設計・環境ラベル
- 12 環境マーケティング・グリーン購入
- 13 環境調和型社会の構築
- 14 環境マネジメントシステムのめざす方向
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート 20%
期末試験 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

「環境マネジメント概論」を受講しておくことが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

専門用語が頻出するので、毎回出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

単に知識を習得するだけでなく、自分で考える習慣を身につけてほしい。

キーワード /Keywords

生物工学

(Biological Engineering)

担当者名 /Instructor 中澤 浩二 / Koji NAKAZAWA / 環境生命工学科 (19 ~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

酵素、微生物、動植物細胞などを産業利用する場合、原料調製、反応、分離といった一連のプロセスを考えることが重要である。本講義では、生体触媒の特性や調製に関わるアップストリームプロセス、バイオリアクター操作などのプロダクションプロセス、バイオセパレーションなどのダウンストリームプロセスを学び、バイオプロダクトの生産について理解する。

教科書 /Textbooks

適宜、指示。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入 (生物工学とは)
- 2 バイオプロセスの構成
- 3 生体触媒の特徴
- 4 酵素反応速度論 1
- 5 酵素反応速度論 2
- 6 細胞反応速度論 1
- 7 細胞反応速度論 2
- 8 前半の復習、確認テスト
- 9 バイオリアクター 1
- 10 バイオリアクター 2
- 11 培養操作
- 12 スケールアップ
- 13 バイオセパレーション 1
- 14 バイオセパレーション 2
- 15 総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

学習態度・演習 10%
確認テスト 45%
期末テスト 45%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

生物を利用する産業において、バイオプロセスを理解できる (理解している) ことこそが工学系出身の強みといえます。

キーワード /Keywords

食品工学

(Food Technology)

担当者名 /Instructor 森田 洋 / Hiroshi MORITA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

食品は生命維持の原点であり、我々の健康維持に大きな役割を担っている。また食品は様々な加工技術や保蔵技術を経て我々の口に入り、これらの過程により食品成分は様々な変化を受ける。本講義では、食品の主要な構成要素と、色・味・香りなどの嗜好成分について化学的特性と反応性、生理的機能性について紹介し、食品と生命との深いかわりについて学ぶ。更には、身近な食品を例に挙げながら食品加工や食品保蔵に関する基礎知識と技術についてやさしく解説する。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

わかりやすい食品化学 (三共出版)、最新栄養化学 (朝倉書店)、食品加工学～加工から保蔵まで (共立出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 安全・安心な食生活創造のために
2. 食品の表示
3. 食品化学①食品の色・味・香り
4. 食品化学②食品成分の反応
5. 食品栄養①栄養素とその代謝
6. 食品栄養②機能性食品
7. 食品製造①農産食品の加工
8. 食品製造②畜産食品の加工
9. 食品製造③海産食品の加工
10. 食品衛生①バイオコントロール
11. 食品衛生②食品添加物の定義と安全性評価
12. 食品衛生③食品添加物各論 (保存料・着色料)
13. 食品衛生④食品添加物各論 (酸味料・酸化防止剤)
14. 食品衛生⑤食品添加物各論 (発色剤・抗力ビ剤)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 (50%)
課題 (30%)
授業態度 (20%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

適宜、指示をする。

履修上の注意 /Remarks

授業では幅広い内容を取り上げるため、専門書等を用いて復習することにより理解をさらに深めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが心身の健康を確保し、生涯にわたって健全な心と身体を培い豊かな人間性を育むためには、何よりも「食」が重要である。ところが近年、食生活をめぐる環境が大きく変化し、その影響が様々なところで顕在化している。本講義では食品に関する必要な知識と健全な食生活を送るために必要な判断力を修得してほしい。

キーワード /Keywords

食品化学、栄養学、食品加工学、食品保蔵学

バイオインフォマティクス

(Bioinformatics)

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19 ~) , 倉田 博之 / Hiroyuki KURATA / 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択】 エネルギー循環化学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

バイオインフォマティクス (Bioinformatics、生物情報科学) は、応用数学、統計学、応用物理学、コンピューターサイエンス、計算機科学などの技術応用によって生命科学の問題を解こうとする学問である。物理学や化学では原理的な方法に基づく数値計算が有効であるのに対し、生物学における計算とは蓄積されたデータの中から経験的な知識や法則を発見していくことが中心である。本講義では、遺伝子解析やバイオ研究におけるコンピュータを使ったアプローチについて概説し、インターネット上に公開されているデータベースやツールの活用法を解説する。

教科書 /Textbooks

必要に応じて教材をプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

はじめてのバイオインフォマティクス 講談社 (ISBN 978-4-0615-3862-7)
 東京大学バイオインフォマティクス集中講義 羊土社 (ISBN 978-4-8970-6881-7)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 バイオインフォマティクスとは
- 2 バイオインフォマティクスを学ぶための分子生物学入門
- 3 文献データベース
- 4 配列データベース (1) DNAの塩基配列
- 5 配列データベース (2) タンパク質のアミノ酸配列
- 6 タンパク質の立体構造解析 (1)
- 7 タンパク質の立体構造解析 (2)
- 8 前半の復習、確認テスト
- 9 パスウェイ解析 (1)
- 10 パスウェイ解析 (2)
- 11 分子ネットワークシミュレーション (1)
- 12 分子ネットワークシミュレーション (2)
- 13 トランスクリプトーム
- 14 プロテオーム
- 15 システム生物学

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 (積極的な授業参加、小テスト等) 30%
 確認テスト 20%
 期末テスト 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

ラップトップ型コンピュータ

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業研究 I

(Graduation Research I)

担当者名 /Instructor エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 4単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実験・実習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は学部4年間の集大成である。卒業論文I、IIを通じてこれまで学習してきた知識や考え方を基にして、与えられた研究テーマについて、研究目標及び計画の立案、調査および実験の実施等を行い、その結果を論文としてまとめ発表を行う。この卒業研究を通して、課題解決の手法を身につけ、その結果を第三者に伝える総合的な表現力を養う。

教科書 /Textbooks

各指導教員に從う

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各指導教員に從う

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

4月 ガイダンスおよび研究テーマ決定
5月～実施：各指導教員の指示に從う（研究目標および計画の立案、調査、実験、討論など）
指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究実施状況の結果を総合して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各指導教員の指示に從い、安全に注意すること。

履修上の注意 /Remarks

履修ガイドに記載のエネルギー循環化学科の卒業研究着手要件を満たしていること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの座学や学生実験などの授業で学んだ知識・考え方を駆使し、常に能動的な態度で成し遂げてください。

キーワード /Keywords

卒業研究 II

(Graduation Research II)

担当者名 /Instructor エネルギー循環化学科全教員 (○学科長)

履修年次 /Year 4年次
単位 /Credits 4単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 実験・実習
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科

授業の概要 /Course Description

「卒業研究」は学部4年間の集大成である。卒業論文I、IIを通してこれまで学習してきた知識や考え方を基にして、与えられた研究テーマについて、研究目標及び計画の立案、調査および実験の実施等を行い、その結果を論文としてまとめ発表を行う。この卒業研究を通して、課題解決の手法を身につけ、その結果を第3者に伝える総合的な表現力を養う。

教科書 /Textbooks

各指導教員に従う

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

各指導教員に従う

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

卒業論文Iに引き続き、実施： 各指導教員の指示に従う (研究目標および計画の立案、調査、実験、討論など)
2月 卒業論文作成
卒業論文提出
卒業論文試問
卒業研究発表会
指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業研究実施状況、卒業論文、試問、および発表会の結果を総合して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

各指導教員の指示に従い、安全に注意すること。

履修上の注意 /Remarks

履修ガイドに記載のエネルギー循環化学科の卒業研究着手要件を満たしていること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまでの座学や学生実験などの授業で学んだ知識・考え方を駆使し、常に能動的な態度で成し遂げてください。

キーワード /Keywords

卒業研究 (基盤)

(Research for Graduation)

担当者名 /Instructor 森本 司 / Tsukasa MORIMOTO / 基盤教育センターひびきの分室, 辻井 洋行 / Hiroyuki TSUJII / 基盤教育センターひびきの分室

中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 4年次 単位 8単位 学期 通年 授業形態 実験・実習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

※お知らせ/Notice 単位数は各学科の卒業研究にならう

授業の概要 /Course Description

学部4年間の学習の集大成として、人文社会と工学の接点に関わる研究テーマに取り組む。研究テーマに合わせた実験、調査、レポート、論文作成を通じて、科学的に事象を検証し、整理・発表する能力を養う。また指導教員の判断でゼミ合宿を行うことがある。

教科書 /Textbooks

各研究室の指導による。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各研究室の指導による。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(1)研究室配属

3年次3月末を目処に、教員との面接によって履修可否を決定する。

(但し、所属学科の都合により4月に面接を行うこともある)

(2)研究活動

卒業研究は、おおむね次のように進められる。詳しくは、指導教員の指示を受けること。

4月 研究テーマの絞り込み、文献調査など

5月-6月 研究準備および計画の策定

7月-12月 研究の実施・遂行

1月 口頭発表、試問 (学生の所属学科での発表が課される場合がある)

成績評価の方法 /Assessment Method

研究への取り組み姿勢 : 30%

研究成果 : 50%

口頭発表及び試問 : 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

様々なメディアを活用して、自分の研究に関わる情報収集に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

森本：これまでの各学科の学習内容と環境倫理学とを関連づけて、各自でテーマを検討してください。卒業研究を通して、情報をただ収集するだけでなく、関連づけて分析する仕方、それを理解しやすい形に表現する仕方を学習しましょう。

辻井：卒研に取り組むことにより、これまでに得た知識を体系化して、実社会で生きていく知恵を身につけることが期待されます。自分で見つけたテーマに取り組む知的な作業には、辛い試練ばかりでなく、新しい発見の喜びも必ずついてきます。

中岡：興味のあるテーマを追求する中で、考えることのおもしろさ、達成感を共に味わいましょう。単に「調べる」「書く」だけでなく、「まとめる」「表現する」技も磨いて行きます。アジア地域に関すること、また経済全般に関心のある方、歓迎いたします。

卒業研究 (基盤)

(Research for Graduation)

キーワード /Keywords

森本：環境倫理、功利主義、問題対応 (問題発見、問題表現)
辻井：環境、経営、戦略、組織
中岡：アジア、中国、経済、日本経済

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

この授業では、外国人学生が日本に関する知識を学ぶだけではなく、深層文化である日本人の考え方、観念などについても考え、主体的に日本の文化・社会に参加し、かつ日本風に主張もできる能力を身に付けることを目指す。現代日本の文化・社会に関するテーマについて討論し理解を深め、異文化間コミュニケーションが円滑に行なえるようにする。授業の中で、日本人学生や地域の人々を招き興味あるテーマに関して討論会なども行い、日本人との交流を通して学ぶ。

教科書 /Textbooks

『文化の壁なんてこわくない』, 水本光美・池田隆介, 北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室, 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ホームページの教材 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 オリエンテーション&クラスのマナーについて
- 2 時間の感覚 1 : パーティに呼ばれたら
- 3 時間の感覚 2 : 生き残るためのキャンパス術
- 4 病気・ケガ対処法 : 健康保険は払えば得する
- 5 事故の対処法 : 交通規則を知っている?
- 6 お礼・お詫び : 日本人は 1 回だけじゃない
- 7 お願い : 保証人と推薦状
- 8 不正行為 1 : たった1回が命取り
- 9 不正行為 2 : コピーは犯罪
- 10 社交術 1 : 日本人と上手に付き合うには
- 11 社交術 2 : 本音と建前
- 12 ゲスト大会 : 日本人と話し合っって日本を知ろう!
- 13 金銭感覚
- 14 プロジェクトワーク (日本事情スキット大会) の準備
- 15 プロジェクトワーク (日本事情スキット大会)

※ 予定は状況によって変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的授業参加 (討論含む) 30%
宿題 & 課題 20% (作文・発表準備を含む)
小テスト 30%
プロジェクトワーク発表 20%

※ 出席率80%未满是不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テーマにそった読み教材やビデオがある場合は、必ず、予習してくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在の日本に関する様々な知識を学びながら日本人、日本文化をより深く理解しましょう。異文化の中にありながら自分らしさを失わずに上手に異文化コミュニケーションをする方法を身につけ、今後の留学生活を楽しく有意義なものにしましょう。

日本事情

(Aspects of Japanese Society Today)

キーワード /Keywords

表層文化, 深層文化, 考え方, 異文化間コミュニケーション, キャンパス生活適応, 地域社会への主体的参加

総合日本語A

(Integrated Advanced Japanese A)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学
/Department 科

授業の概要 /Course Description

一般的な日本語でのコミュニケーション能力を向上させ、話す聴く読む書くの4技能を上級の中レベル以上に発達させることが、大学生活を円滑に送るために必須の日本語能力である。この授業では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、長文をできるだけ短時間で、かつ、正確に理解する訓練を繰り返し行い、また、単語・文の羅列ではなく、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールできるレベルの作文能力を身に着けることを目指す。

教科書 /Textbooks

池田隆介『総合日本語A』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室日本語教育プログラム）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 論理的な文章の書き方 1 書き言葉
2. 論理的な文章の書き方 2 「は」と「が」の区別
3. 論理的な文種の書き方 3 名詞化
4. メールの使い方
5. 会話 1: 依頼
6. 会話 2: 断り
7. 発表 1: プロジェクトの説明
8. 発表 2: 資料の引用
9. 発表 3: 事実と意見
10. 発表 4: 音読試験
11. 発表 5: レジユメを書く(1)
12. 発表 6: レジユメを書く(2)
13. 発表 7: PowerPointの注意点
14. 発表 8: 司会・進行
15. 発表 9: ミニ発表会
16. 中間課題
17. 読解ユニット 1 「環境と経済」(1)
18. 読解ユニット 1 「環境と経済」(2)
19. 読解ユニット 1 「環境と経済」(3)
20. 読解ユニット 1 「環境と経済」(4)
21. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(1)
22. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(2)
23. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(3)
24. 読解ユニット 2 「バイオマスエネルギー」(4)
25. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(1)
26. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(2)
27. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(3)
28. 読解ユニット 3 「敬語に関する調査」(4)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文・発表 10%
口頭試験 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

総合日本語 A

(Integrated Advanced Japanese A)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。

履修上の注意 /Remarks

プレイスメントテストにおいて日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語基礎」に合格した学生のみを対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常的な表現も、論理的な表現も、繰り返し使用するほどに運用の力は向上していく。この授業は論理的な日本語表現の基礎になる部分を学ぶ貴重な機会となるので、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

上級日本語、書き言葉、アカデミックジャパニーズ、環境工学系読解教材、プレゼンテーション

総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

担当者名 池田 隆介 / Ryusuke IKEDA / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学
/Department 科

授業の概要 /Course Description

「総合日本語B」では、日本語能力試験1級レベルの留学生を対象に、複雑な状況、緊張感を伴う場面においても、最低限のタスクを遂行できる会話能力を養成し、また、段落レベルのまとまった文章をある程度コントロールしながら運用する訓練を繰り返し行っていく。この授業を通じて、日本語を使って積極的に情報発信を行い得る能力と、積極的に問題提起を行える態度を養成することで、日本語を「運用」できる範囲を広げていくことが、受講生の主な目的となる。

教科書 /Textbooks

池田隆介・上野まり子『総合日本語B』（北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション / 授業のルール
2. 作文1: 懸賞論文とは
3. 作文2: 作文の構成1 段落
4. 作文3: 作文の構成2 起承転結
5. 作文4: 文の首尾一貫性
6. 作文5: 接続表現
7. 作文6: 引用
8. 作文7: 作文発表会(1)
9. 作文8: 作文発表会(2)
10. ディクテーション
11. 会話1: 提案する
12. 会話2: 「お金」の交渉
13. 討論1: 討論会とは
14. 討論2: 情報伝達・方法説明の表現
15. 討論3: 事実・意見の主張
16. 討論4: テーマを決める
17. 討論5: 積極的な聞き取り&質問
18. 討論6: 資料の整理
19. 討論7: 様々な意見をまとめる
20. 討論8: 討論会
21. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(1)
22. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(2)
23. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(3)
24. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(4)
25. 読解ユニット1 『納豆が砂漠を緑化する』(5)
26. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(1)
27. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(2)
28. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(3)
29. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(4)
30. 読解ユニット2 『知的資産を保存せよ』(5)

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 10%
小テスト 10%
宿題 10%
作文 10%
討論会 10%
中間試験 10%
期末試験 40%

※出席率80%未満は不合格とする。

総合日本語B

(Integrated Advanced Japanese B)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

テストや授業のために必要な準備は、hibikino e-learning portalで連絡する。重要な連絡にはE-Mailも使う。それ故、moodleを閲覧する習慣、及び、メールチェックをする習慣を身につけておくこと。予定の確認作業は受講者の責任である。

履修上の注意 /Remarks

プレイスメントテストにおいて日本語能力試験1級レベルと認められた学生、または、「総合日本語A」に合格した学生のみを対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

やや専門的な内容の日本語資料を正確に理解し、さらに、それを周囲に伝達できる能力を育成するための授業である。教員の指示を待つだけでなく、自分から積極的に問題提起をし、議論を進めていく積極的な姿勢の学生を歓迎する。

キーワード /Keywords

上級日本語、文レベルから段落レベルへ、情報発信、討論、ディクテーション、作文

技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

担当者名 /Instructor 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 /Department 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科

授業の概要 /Course Description

主に、環境工学と情報技術に関するテーマを扱った放送番組や新聞記事など、本工学部の全4学科に対応する内容の教材を扱いながら、理系の語彙増強と書き言葉の表現能力および聴解力の向上を目指す。

<主な目的>

- (1)理系語彙増強
- (2)説明文の文構造、段落構造、文体、表現の特徴の把握
- (3)複段落単位の説明文の記述
- (4)説明文を要約し複段落で口頭説明

教科書 /Textbooks

『技術日本語への架け橋 (2010年度改訂版)』水本光美・池田隆介 (北九州市立大学基盤教育センターひびきの分室・日本語教育プログラム, 2010) ←授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『実用和英技術用語辞典』海外技術者研究協会編(スリーエーネットワーク 1986年)等。詳細は最初の授業で説明する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Orientation & 北九州エコタウン 1
- 2 北九州エコタウン2・改まったスタイル 1
- 3 絶滅した動物を蘇らせる・改まったスタイル 2
- 4 植物で土壌を蘇らせる
- 5 改まったスタイル 3
- 6 段落構成
- 7 WTCビル崩壊の謎
- 8 二酸化炭素隔離技術
- 9 ロボット世界1
- 10 ロボット世界2
- 11 環境問題 対策と技術 1 (仮称)
- 12 環境問題 対策と技術 2 (仮称)
- 13 宇宙に向けて 1 (仮称)
- 14 宇宙に向けて 2 (仮称)
- 15 まとめ

- ※ 予定は変更されることもあるので、授業中の連絡に注意すること。
- ※ 試験期間中に、期末試験を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 20%
宿題 30%
小テスト 20%
期末試験 30%

※ 出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業で扱うビデオは、「留学生のホームページ」にアクセスして、必ず予習してくることが必要である。
URL: <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>
詳細は別途配布の「授業予定表」を参照。

技術日本語基礎

(Introduction to Technical Japanese)

履修上の注意 /Remarks

- 1 留学生のうち、「総合日本語A」または「総合日本語B」に合格した学生対象の専門技術日本語入門コースである。それ以外の受講希望者に関しては日本語担当教員からの許可を得ること。
- 2 Hibikino e-Learning Portal (moodle)への登録必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが工学部で専門分野や環境問題に関する知識を得るために最低知っていかなくてはならない理系の基礎的で、一般的な語彙やレポートや論文に必要な表現法を学びます。また、一般の成人向け科学番組を視聴し内容を理解ことにより、アカデミック聴解力を養います。予習や宿題が重要な授業ですので、十分な準備をして、授業に臨んでください。

キーワード /Keywords

環境工学, 情報技術, 科学番組, 理系語彙増強, 表現力, 書き言葉, 聴解能力向上

ビジネス日本語

(Business Japanese)

担当者名 水本 光美 / Terumi MIZUMOTO / 基盤教育センターひびきの分室
/Instructor

履修年次 3年次 単位 1単位 学期 1学期/2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

対象学科 【選択必修】 エネルギー循環化学科, 機械システム工学科, 情報メディア工学科, 建築デザイン学科, 環境生命工学科
/Department

※お知らせ/Notice 3年次生の受講は第2学期のみ、4年次生の受講は第1学期でも第2学期でも可能です。

授業の概要 /Course Description

大学卒業後に日本国内の企業、あるいは母国の日系企業で活躍したいと希望している留学生のための上級日本語レベルの授業である。日本企業への就職を希望する留学生には、専門知識や技術のみならず高度な日本語コミュニケーション能力が求められている。この授業では主に就職活動に必要な日本語表現を、言語の4技能「聴く」「話す」「読む」「書く」などのトレーニングを通し、現場で即座に生かせる運用能力を育成する。

教科書 /Textbooks

1. 教科書は最初の授業で知らせる
2. その他、適宜授業中に配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Web : 『留学生のためのページ』 <http://lang.is.env.kitakyu-u.ac.jp/~nihongo/>

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ①オリエンテーション ②就活に求められる日本語能力
- 2 己を知る：自己分析, 自己評価, 就活プラン1
- 3 己を知る：自己分析, 自己評価, 就活プラン2
- 4 業界・企業を知る：企業選びへの業界調査
- 5 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)&マナー1
- 6 情報収集, 問い合わせの日本語(敬語)&マナー2
- 7 就職筆記試験:Web, SPI, CAB/GAB & 一般常識
- 8 己を知る：自己PR, 志望動機, 将来設計など
- 9 就活アクション：履歴書&エントリーシート 1
- 10 就活アクション：履歴書&エントリーシート 2
- 11 就活アクション：会社説明会・セミナー参加
- 12 就活アクション：面接 1
- 13 就活アクション：面接 2
- 14 プレゼンテーションの準備
- 15 プレゼンテーション

※ この授業計画は状況に応じて随時変更する可能性もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

1. 積極的授業参加 15%
2. 宿題 & 小テスト 35%
3. 期末会話試験 25%
4. 期末プレゼンテーション 25%

※出席率80%未満は不合格とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

1. 履修希望者は、「総合日本語A」「総合日本語B」「技術日本語基礎」のうち3単位以上を取得しておかなければならない。
2. 受講生は、Hibikino e-Learning Portal (moodle) に登録する必要がある。

ビジネス日本語

(Business Japanese)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業後、日本企業への就職を考えている留学生の皆さん、就職活動をし社会人となるために、自分の日本語能力に自信がありますか。適切な敬語を使って話したり、書いたりすることに対する準備はできていますか。この授業では、日本の就職活動やビジネス場面における社会人としての活動について、様々な知識とともに必要とされる上級の日本語実践能力を育成します。一緒にがんばってみませんか。

キーワード /Keywords

高度なコミュニケーション能力, 就職活動, 敬語&マナー, 書類作成, 面接, ビジネス場面

数学 (補習)

(Mathematics)

担当者名 荒木 勝利、大貝 三郎、藤原 富美代
/Instructor

履修年次 1年次 単位 0単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月6日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「微分・積分(エネルギー循環化学科・機械システム工学科・建築デザイン学科・環境生命工学科)」、または「解析学I(情報メディア工学科)」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

- ・微分と積分の基本的な考え方について理解し、簡単な微積分の計算や応用問題に活用できるようにする。
- ・数学に関する基礎的な問題について、自分で問題を理解し、解析し、思考発展させる能力を伸ばす。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せずにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 数と式
- 2 方程式
- 3 いろいろな関数とグラフ (1)
- 4 いろいろな関数とグラフ (2)
- 5 いろいろな関数とグラフ (3)
- 6 微分 (1)
- 7 微分 (2)
- 8 微分 (3)
- 9 指数関数と対数関数 (1)
- 10 指数関数と対数関数 (2)
- 11 指数関数と対数関数 (3)
- 12 三角関数 (1)
- 13 三角関数 (2)
- 14 微分 (4)
- 15 微分 (5)
- 16 微分 (6)
- 17 微分 (7)
- 18 微分 (8)
- 19 微分 (9)
- 20 積分 (1)
- 21 積分 (2)
- 22 積分 (3)
- 23 積分 (4)
- 24 積分 (5)
- 25 積分 (6)
- 26 積分 (7)
- 27 積分 (8)
- 28 積分 (9)・期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

演習 20%
中間・期末試験 80% 中間試験は各分野の授業の終了後に実施する。
ただし、合格には8割以上の出席を必要とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

高等学校「数学I」、「数学II」、「数学III」の教科書などを復習すること。

履修上の注意 /Remarks

クラス別により授業内容を変更する予定である。詳細については開講時に連絡する。

数学 (補習)

(Mathematics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

数学の勉強では積み重ねが重要です。高校で学んだ数学についてよく復習して、大学の数学科目および専門科目での学修で必要となる数学的な思考法と計算力を身につけてください。

キーワード /Keywords

物理 (補習)

(Physics)

担当者名 /Instructor 平山 武彦、衛藤 陸雄、池山 繁成

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月6日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「物理実験基礎」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

多くの工学基礎科目および専門工学科目を受講する上で必要不可欠な「力学・熱・電気」について学習する。また、物理的思考力や応用力を養うため、各回の講義の後に演習を行う。

教科書 /Textbooks

高校で使用した物理の教科書、又は 啓林館 高等学校教科書「物理I」、 「物理II」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

センサー物理 I・II (啓林館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 導入，運動の表し方
- 2 速度と加速度
- 3 いろいろな力と運動の法則(1)
- 4 運動の法則(2)
- 5 運動の法則(3)
- 6 力のつりあいとモーメント
- 7 中間試験I，問題の解説
- 8 仕事
- 9 力学的エネルギー
- 10 運動量と衝突
- 11 等速円運動，慣性力と万有引力
- 12 単振動
- 13 熱(1)
- 14 熱(2)
- 15 熱(3)
- 16 中間試験II，問題の解説
- 17 電場とクーロンの法則
- 18 電位
- 19 コンデンサー
- 20 直流回路 (オームの法則)
- 21 キルヒホッフの法則
- 22 中間試験III，問題の解説
- 23 磁場と電流
- 24 ローレンツ力
- 25 電磁誘導の法則
- 26 交流(1)
- 27 交流(2)
- 28 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

確認テスト 20%
中間試験I,II,III，期末試験 80%
ただし，合格には8割以上の出席を必要とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

毎回，講義内容に関する確認テストを実施するため，必ず予習と復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業には，必ず高校で使用した物理の教科書(教科書が無い場合は購入すること)とセンサー物理 I・II (1冊)を持参すること。

物理 (補習)

(Physics)

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業進度がとても速いので、緊張感を持って授業に臨んで下さい。また、物理を始めて習う人にはハンディがありますが、あなたのガンバリで必ず克服できます。そして、この授業で習得した自然科学の法則を物作りの工学に生かして下さい。

キーワード /Keywords

化学 (補習)

(Chemistry)

担当者名 /Instructor 二宮 純子

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 0単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
									○	○	○	○

※お知らせ/Notice 4月6日の基礎学力確認テストの結果により、受講対象者であるかを通知します。受講対象者はこの補習科目の最終判定に合格にしない限り、「化学実験基礎」の単位を修得できません。

授業の概要 /Course Description

大学で「化学」を学ぶために必要な基礎学力の向上を図る

教科書 /Textbooks

プリント配布、各自の高校化学I・IIの教科書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 物質の量、単位換算
2. 化学反応と熱①
3. 化学反応と熱②
4. 酸と塩基①
5. 酸と塩基②
6. 物質の状態変化①
7. 物質の状態変化②
8. 中間試験
9. 気体の性質①
10. 気体の性質②
11. 溶液の性質①
12. 溶液の性質②
13. 反応速度①
14. 反応速度②
15. 期末試験

成績評価の方法 /Assessment Method

中間試験 40%
 期末試験 40%
 小テスト 20%
 ただし、8割以上の出席を必要とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に対する準備事項 /Preparation for the Class

苦手な領域は、十分に復習すること

履修上の注意 /Remarks

「電卓」と「高校化学I・IIの教科書」を持参のこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「習ったのに忘れてしまった」「聞いたことはあるが、よくわかっていない」「そこはあまり習っていない」など、個人によって基礎の理解度が違うと思います。高校で習う「化学」のポイントをもう一度復習し、基礎学力を向上させることによって、大学で習う「化学」の中身を深めて下さい。

キーワード /Keywords